佐久市文化財

年報 13

平成15年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市文化財

年　報　13

平成15年度

長野県佐久市教育委員会

目　　次

Ⅰ　指定文化財等保護事業

1　国・県・市指定文化財 …… 1

2　普及・公開事業 …… 2

Ⅱ　埋蔵文化財事業

1　保護・保存事業

(1)記録保存 …… 3
1) 概要 …… 3
2) 発掘調査・整理作業 …… 3
3) 整理作業 …… 4
4) 試掘・立会調査 …… 4

2　普及・公開事業 …… 5
(1)第24回少年考古学教室
(2)円正坊遺跡現地説明会
(3)西八日町遺跡説明会
(4)埋蔵文化財発掘調査年度報告会
(5)埋蔵文化財課資料展示室利用状況

3　分析・鑑定 …… 5

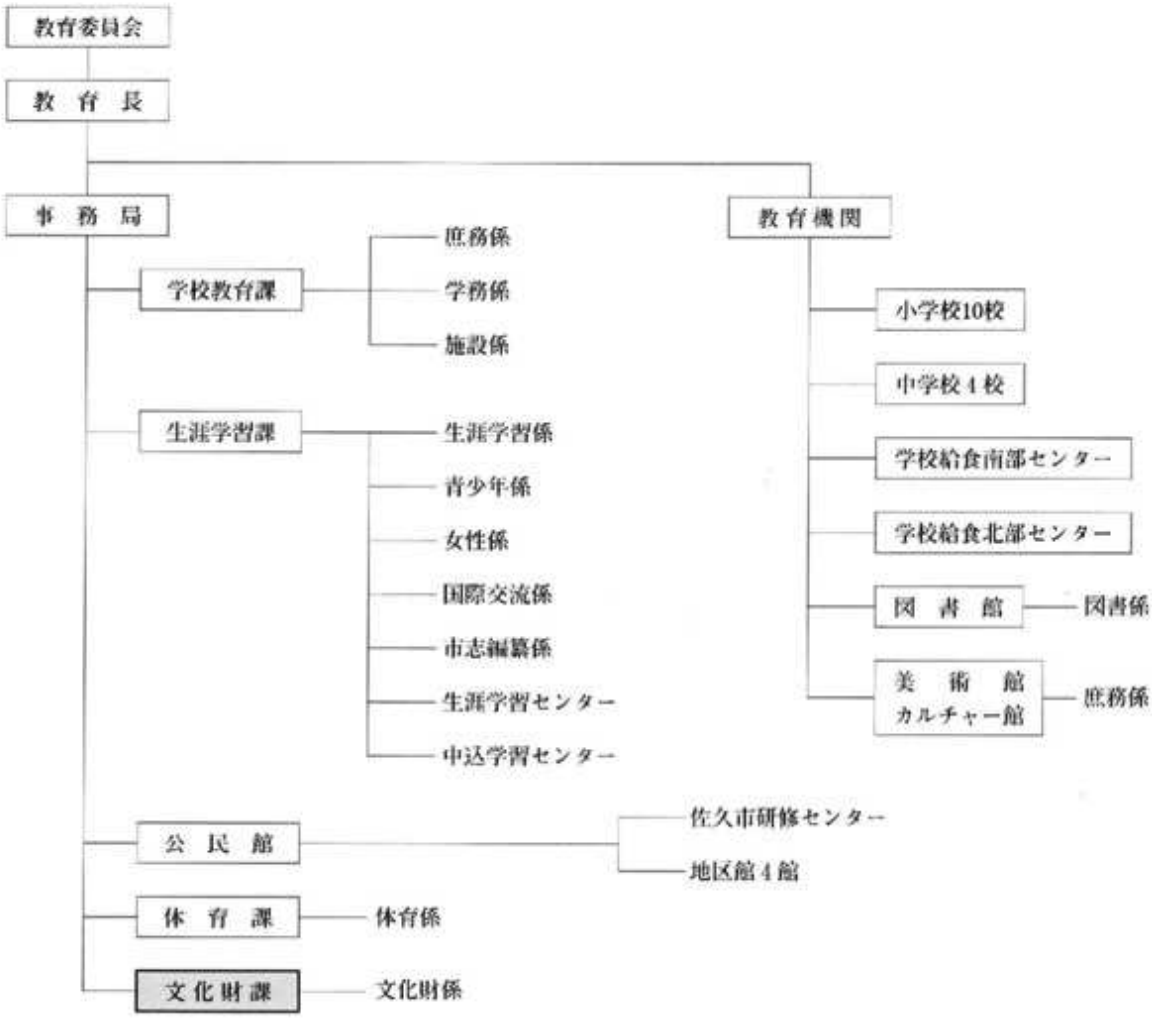
4　調査概要

1　東五里田遺跡 …… 6
2　野沢館跡Ⅵ …… 7
3　東近津遺跡 …… 8
4　前田遺跡Ⅴ他 …… 9
5　開戸田遺跡 …… 10
6　西一里塚遺跡Ⅱ …… 12
7　大奈良遺跡 …… 13
8　供養塚遺跡Ⅱ …… 14
9　西八日町遺跡Ⅱ …… 15
10　北一本柳遺跡 …… 16
11　西近津遺跡Ⅱ …… 18

5　調査報告書

野沢館跡Ⅴ …… 19
深堀遺跡Ⅵ …… 25
姥子石遺跡Ⅱ・長塚遺跡 …… 31
西一本柳遺跡Ⅹ …… 35
西一本柳遺跡Ⅺ …… 63
東大久保遺跡 …… 89

組　織　図


教育委員会
教育長
事務局
学校教育課
庶務係
学務係
施設係
生涯学習課
生涯学習係
青少年係
女性係
国際交流係
市志編纂係
生涯学習センター
中込学習センター
公民館
佐久市研修センター
地区館4館
体育課
体育係
文化財課
文化財係
教育機関
小学校10校
中学校4校
学校給食南部センター
学校給食北部センター
図書館
図書係
美術館
カルチャー館
庶務係

Ⅰ　指定文化財等保護事業

1　国・県・市指定文化財（国指定８件・県指定14件・市指定39件、合計61件）

平成15年４月21日、貞祥寺の惣門及び山門が長野県宝に指定された。

指定文化財一覧表

No.	指定区分	文化財名	名　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
1	国指定	史跡	旧中込学校	1ヶ所	中込	佐久市	S44.4.12
2	国指定	重要文化財	駒形神社本殿（附：棟札4枚）	1棟	下塚原	駒形神社	S24.5.30
3	国指定	重要文化財	紙本着色 一遍上人絵伝 巻第二	1幅	野沢	金台寺	S9.1.30
4	国指定	重要文化財	紙本墨書他阿上人自筆仮名消息	1幅	野沢	金台寺	S9.1.30
5	国指定	重要文化財	旧中込学校校舎（附：建築文書3点）	1棟	中込	佐久市	S44.3.12
6	国指定	重要文化財	鉄鐘	1	跡部	藤沢平治	S52.6.11
7	国指定	無形民俗文化財	跡部の踊り念仏	1	跡部	跡部踊り念仏保存会	H12.12.27
8	国指定	天然記念物	岩村田ヒカリゴケ自生地	1ヶ所	岩村田	佐久市	T10.3.3
9	県指定	県宝	西念寺木造阿弥陀如来坐像	1躯	岩村田	西念寺	S34.11.9
10	県指定	県宝	正法寺木造地蔵菩薩半跏倚像	1躯	根々井	正法寺	S44.5.15
11	県指定	県宝	版本大般若経	577巻	安原	安養寺	S63.3.24
12	県指定	県宝	貞祥寺三重塔	1	前山	貞祥寺	H4.9.10
13	県指定	県宝	安養寺木造阿弥陀如来及び両脇侍立像	3躯	安原	安養寺	H17.7.22
14	県指定	県宝	貞祥寺惣門及び山門	2棟	前山	貞祥寺	H15.4.21
15	県指定	史跡	三河田大塚古墳	1基	三河田	柳沢茂	S37.7.12
16	県指定	史跡	伴野城跡	1	野沢	大伴神社・佐久市	S40.4.30
17	県指定	史跡	根井氏館跡	1	根々井	正法寺	S40.7.29
18	県指定	史跡	北宮神師塁碑	1基	岩村田	龍雲寺	S44.10.2
19	県指定	史跡	大井城跡（上城・黒岩城）	2ヶ所	岩村田	個人34名	S46.5.27
20	県指定	史跡	平賀氏城跡	1	平賀	個人37名	S46.5.27
21	県指定	史跡	岩尾城跡	1	鳴瀬	個人39名	S46.5.27
22	県指定	天然記念物	王城のケヤキ	1	岩村田	荒宿十二社	S61.3.27
23	市指定	有形文化財	金台寺の鐘	1	野沢	金台寺	S46.10.1
24	市指定	有形文化財	竹田の鐘（一）	1	根岸	工藤光吉	S46.10.1
25	市指定	有形文化財	竹田の鐘（二）	1	横岸	工藤勇祐	S46.10.1
26	市指定	有形文化財	永禄十一年上原筑前御息御検地帳	2冊	瀬戸	柳澤康	S49.12.1
27	市指定	有形文化財	下桜井村荒水の水人組帳	1	桜井	臼田繁雄	S49.12.1
28	市指定	有形文化財	桃源院木造地蔵菩薩坐像	1躯	南岩尾	桃源院	S49.12.1
29	市指定	有形文化財	取出町百番観音	100躯	取出	取出区	S49.12.1
30	市指定	有形文化財	平尾大社本殿	1棟	上平尾	平尾大社	S49.12.1
31	市指定	有形文化財	平賀村中善寺大般若経	600巻	平賀	中善寺	S49.12.1
32	市指定	有形文化財	田長命寺二王堂懸永在銘石柱	1基	大沢	長命寺	S54.9.25
33	市指定	有形文化財	歴座在銘板碑	1	中込	正楽寺	S57.3.1
34	市指定	有形文化財	安養寺木造法燈国師像	1軀	安原	安養寺	S62.10.20
35	市指定	有形文化財	安養寺中世文書	7点	安原	安養寺	S62.10.20
36	市指定	有形文化財	後沢遺跡出土遺物	一括	（小宮山）	佐久市	S62.10.20
37	市指定	有形文化財	北西ノ久保遺跡出土埴輪	一括	（岩村田）	佐久市	S62.10.20
38	市指定	有形文化財	上直路遺跡出土遺物	一括	（岩村田）	佐久市	S62.10.20
39	市指定	有形文化財	関防畑B遺跡出土遺物	一括	（長土呂）	佐久市	S62.10.20
40	市指定	有形文化財	畑の峯古墳群出土遺物	一括	（根岸）	佐久市	S62.10.20
41	市指定	有形文化財	中道遺跡出土遺物	一括	（野沢）	佐久市	S62.10.20

No.	指定区分	文化財名	名　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
42	市指定	有形文化財	東一本柳古墳出土遺物	一括	(岩村田)	佐久市	S62.10.20
43	市指定	有形文化財	龍雲寺中世文書	38点	岩村田	龍雲寺	S62.10.20
44	市指定	有形文化財	大井法華堂修験関係文書	859点	岩村田	大井道也	H1.11.6
45	市指定	有形文化財	木造愛染明王坐像及び両脇侍木造四界大日如来坐像	3軀	志賀	法善寺	H1.11.6
46	市指定	有形文化財	旧大沢小学校	1棟	大沢	佐久市	H8.6.6
47	市指定	有形文化財	倉沢薬師堂（附：宮殿・石造薬師如来立像・加舎白雄自筆奉納俳額）	4	前山	貞祥寺	H10.4.30
48	市指定	有形文化財	正法寺多層塔	1基	根々井	正法寺	H10.12.28
49	市指定	史跡	鵜縄沢端一里塚東塚	1基	岩村田	関口芳幸	S45.10.1
50	市指定	史跡	大梅禅師墓碑	1基	内山	正安寺	S45.10.1
51	市指定	史跡	安原大塚古墳	1基	安原	英多神社	S45.10.1
52	市指定	史跡	北西ノ久保石造塔婆群	1群	岩村田	井上行雄	S49.12.1
53	市指定	史跡	正楽院供養塔	1	平賀	長福寺	S49.12.1
54	市指定	史跡	前山城跡	1	前山	個人11名	S56.4.23
55	市指定	史跡	後沢遺跡	2基・5棟	小宮山	佐久市	S62.10.20
56	市指定	史跡	瀧の峯古墳群	4基	根岸	個人6名	S62.10.20
57	市指定	名勝	皎月原	1	小田井	佐久市	S53.2.1
58	市指定	天然記念物	白山神社のイチヰ古樹	1	常和	白山神社	S45.10.1
59	市指定	天然記念物	野沢町の男女木	1	野沢	大伴神社	S46.10.1
60	市指定	天然記念物	チョウゲンボウ生息地	2ヶ所	伴野・鳴瀬	佐久市	S53.2.1
61	市指定	無形民俗文化財	岩村田祇園祭におけるお船様祭り	1	岩村田	荒宿区	S58.9.1

2　普及・公開事業

旧中込学校入館者　　9,273人（開館日数307日）
藤村旧宅入館者　　2,561人（開館日数141日）

佐久市教育委員会
教育長　高柳　勉
教育次長　赤羽根寿文
文化財課長　嶋崎節夫
文化財係長　高村博文
文化財係　林　幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林眞寿、冨沢一明、上原　学、赤羽根太郎、山澤　力
調査主任　佐々木宗昭、森泉かよ子
調査副主任　堺　益子

文化財保護審議会委員
会長　鈴木公人
職務代理　小林徳雄
清水岩夫、堀籠好夫、小林壽三、並木良子、中沢忠人、小栗　集

資料館協議会委員
会長　小林浜治郎
職務代理　柳澤　陽
花岡　茂、鈴木公人、赤岡靖雄、臼田隆雄、高畑恒夫、酒井圭子

Ⅱ　埋蔵文化財事業

1　保護・保存事業

(1) 記録保存

1) 概要

開発原因者		調査実施設					報告書刊行
		発掘	試掘	立会	整理	計	
岡県市等	国・県補助						
	国土交通省						
	佐久建設事務所	3	1	1		5	1
	佐久下水道組合			1		1	
	佐久市土地開発公社		2		1	3	1
	佐久市	6	6	17	1	30	6
	その他公共団体	3	2	1		6	1
	個人・民間企業	5	30	4	1	40	3
	学術調査						
	合計	17	41	24	3	85	12
	原因者負担	17			3	20	
	岡・県補助		41	24		65	

2) 発掘調査・整理作業

No.	遺跡名／調査面積	調査面積／事業	備考
1	東五里田遺跡／17,753㎡	佐久市大字野沢／学校改築	住居2(奈良)、掘建址2(奈良・中世)、ピット60、土坑14他、第17集
2	野沢館跡Ⅵ　470㎡	佐久市大字野沢／沿道整備	堀2、方形配石3、土坑66、ピット87
3	東近津遺跡／134㎡	佐久市大字長土呂／道路改良	掘建址1、ピット29、土坑5、溝4、第118集
4	前田遺跡Ⅴ他　1,100㎡	佐久市大字小田井／道路改良	住居7・溝7他（奈良・平安）
5	開ノ田遺跡／2,000㎡	佐久市大字平賀／道路改良	住居4（古墳・平安）、溝1、特殊遺構1
6	西一里塚遺跡／835㎡	佐久市大字根々井他／道路改良	住居7（弥生）、土坑1、ピット74、溝3
7	大奈良遺跡／1,700㎡	臼田町大字田口／農道整備	住居13（縄文）、土坑42（縄文）
8	供養塚遺跡Ⅱ／533㎡	佐久市大字新子田／グループホーム建設	住居1(奈良)、掘建址2、土坑4、ピット36、第114集
9	西八日町遺跡Ⅱ／807.74㎡	佐久市大字岩村田／公会場建設	住居9（弥生・平安）、土坑2、ピット5
10	北一本柳遺跡／99㎡	佐久市大字岩村田／集合住宅建設	住居4(弥生)、溝2、土坑墓1(弥生)、弥生銅鏡出土
11	西近津遺跡Ⅱ／200㎡	佐久市大字長土呂／工場建設	住居7
12	野沢館跡Ⅴ／1900㎡	佐久市大字原／道路改良	土坑4、ピット29
13	深堀遺跡Ⅵ／394㎡	佐久市大字瀬戸／道路改良	住居1
14	姫小石遺跡Ⅱ、長塚遺跡／4,000㎡	佐久市大字塚原／歩道整備	溝1
15	西一本柳遺跡Ⅹ／1,500㎡	佐久市大字岩村田／店舗建設	住居105、掘建址14（弥生～平安）
16	西一本柳遺跡Ⅺ／270㎡	佐久市大字岩村田／ガソリンスタンド建設	住居2（弥生）、溝6
17	東久保遺跡／40㎡	佐久市大字下平尾／宅地造成	住居1（平安）、溝

3) 整理作業

No.	遺跡名	所在地	備考
1	中原遺跡	佐久市大字長土呂	佐久市埋蔵文化財報告書第115集
2	塚久保遺跡Ⅱ	佐久市大字平賀	佐久市埋蔵文化財報告書第116集
3	野沢館跡Ⅳ	佐久市大字野沢	佐久市埋蔵文化財報告書第119集

4）試掘・立会調査

No.	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	開発面積(㎡)	調査期日	種別
1	長土呂遺跡群12	長土呂	200.00	4,916.08	H15.4.28	試掘
2	一本柳遺跡群13	岩村田	2,353.60	9,753.55	H15.4.11～24	試掘
3	東村遺跡	下平尾	307.00	1,578.00	H15.5.6～8	試掘
4	上の城遺跡群10	岩村田	50.00	401.09	H15.5.22	試掘
5	枇杷坂遺跡群20	長土呂	254.62	978.16	H15.6.11・12	試掘
6	上の城遺跡群11	岩村田	175.00	807.74	H15.7.9～15	試掘
7	一本柳遺跡群14	岩村田	542.00	9,753.55	H15.7.11	試掘
8	中道遺跡群	前　山	391.00	1,323.23	H15.7.10	試掘
9	中原遺跡群27	中　込	153.00	1,280.00	H15.9.30	試掘
10	岩村田遺跡群31	岩村田	83.00	727.01	H15.10.21	試掘
11	東大久保遺跡群4	上平尾	180.00	1,226.00	H15.7.24	試掘
12	枇杷坂遺跡群	新子田	720.00	2,314.06	H15.7.10～17	試掘
13	北裏遺跡群（隣接）	竹　野	507.00	2,034.84	H15.11.18～21	試掘
14	一本柳遺跡群15	岩村田	56.00	1,412.76	H15.9.2	試掘
15	跡坂遺跡群9	小田井	543.60	3,000.00	H15.10.2	試掘
16	上の城遺跡群12	岩村田	244.00	600.00	H15.10.14・15	試掘
17	熊の堂遺跡	鳴　瀬	46.00	46.00	H15.9.24	試掘
18	木戸平A遺跡（隣接）	香　坂	124.30	124.30	H15.10.6・7	試掘
19	周防畑遺跡群14	長土呂	256.80	1,089.00	H15.10.9	試掘
20	西大久保遺跡群	下平尾	44.00	209.29	H15.12.8	試掘
21	下信濃石遺跡4	岩村田	417.00	30,000.00	H15.11.5～H16.2.27	試掘
22	平馬塚遺跡群	桜　井	3,166.00	3,166.00	H15.11.26～28	試掘
23	寺畑遺跡群11	猿久保	169.80	897.57	H15.11.14	試掘
24	宮淵遺跡群	桜　井	248.00	1,846.99	H15.12.16～H16.1.6	試掘
25	居村遺跡群（隣接）1	根　岸	114.00	2,548.00	H16.3.24	試掘
26	周防畑遺跡群15	佐久平	62.40	1,367.00	H16.1.27	試掘
27	周防畑遺跡群16	佐久平	32.80	1,291.00	H16.1.27	試掘
28	中原遺跡群28	中　込	66.30	330.58	H16.2.3	試掘
29	大堀遺跡（隣接）	前　山	30.00	142.00	H15.12.1	試掘
30	長土呂遺跡群13	長土呂	260.00	2,857.45	H16.1.16・17	試掘
31	東大久保遺跡群5	下平尾	250.00	1,494.60	H16.1.14	試掘
32	鉈塚B遺跡群9	新子田	183.60	1,481.45	H16.1.9・10	試掘
33	中西の久保遺跡群	岩村田	18.00	700.00	H16.1.20	試掘
34	長土呂遺跡群14	長土呂	160.00	787.41	H16.2.23	試掘
35	中金井遺跡群5	小田井	130.00	702.00	H16.3.4	試掘
36	一本柳遺跡群16	岩村田	125.00	1,208.00	H16.3.23	試掘
37	居村遺跡群（隣接）2	根　岸	1,202.50	11,373.00	H16.3.15～24	試掘
38	長土呂遺跡群15	長土呂	235.00	1,788.00	H16.2.17・18	試掘
39	中原遺跡群29	中　込	92.00	1,004.00	H16.3.3	試掘
40	西近津遺跡群5	長土呂	550.00	6,385.47	H16.3.10・11・15	試掘
41	長土呂遺跡群16	佐久平	40.80	884.00	H16.3.12	試掘
42	大関古墳群	内　山	19.80	19.80	H15.4.30	立会
43	中原遺跡群（隣接）30	中　込		2,000.00	H15.4.23	立会
44	平賀中期敬遺跡群8	平　賀	17.00	17.00	H15.5.13	立会
45	城下遺跡群3	内　山		4,059.00	H15.7.14・22	立会
46	跡坂遺跡群9	横　根		1,067.00	H15.7.14・15	立会
47	長土呂遺跡群17	長土呂		1,427.00	H15.7.17・22	立会
48	長明塚遺跡（隣接）5 丘里田遺跡（隣接）5	野　沢		1,184.00	H15.11.12	立会
49	上の城遺跡群13	岩村田		445.00	H15.7.14・17	立会

No.	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	開発面積(㎡)	調査期日	種別
50	岩村田遺跡群32	岩村田		32.00	H15.	立会
51	岩村田遺跡群33	岩村田		588.00	H15.8.28／9.2	立会
52	野沢館跡8	野　沢		146.00	H15.8.18・25・29	立会
53	一町田遺跡2	三　塚		1,070.00	H15.9.6	立会
54	中原遺跡群31	中　込		570.00	H15.10.17	立会
55	久猶添遺跡3	太田部		136.00	H15.9.9	立会
56	樋村遺跡群3	平　賀		42.00	H15.10.17	立会
57	岩村田遺跡群34	岩村田		157.00	H15.12.2～5	立会
58	西近津遺跡群6 常田屋敷遺跡群9 周防畑遺跡群17	塚　原		570.00	H15.10.17	立会
59	東村遺跡群	下平尾		370.00	H15.12.25	立会
60	岩村田遺跡群35	岩村田		3,600.00	H16.1～3	立会
61	枇杷坂遺跡群21	岩村田		2,520.00	H16.1～3	立会
62	跡坂遺跡群10 中金井遺跡群6	小田井		239.10	H16.2～3	立会
63	西一里塚遺跡群	根々井		25.00	H16.3.17	立会
64	周防畑遺跡群18	佐久平		2,651.00	H16.3	立会
65	中島遺跡	根　岸		100.00	H16.3.29	立会

2　普及・公開活動

(1) 第24回 少年考古学教室
　開催地　文化財課事務所　　開催日　平成15年８月５日、12月21日
　参加者　市内小中学生　27名　　内　容　土器作り、土器野焼き

(2) 円正坊遺跡現地説明会
　開催日　平成15年４月18日・22日
　参加者　地元中学生および高校生

(3) 西八日町遺跡説明会
　開催地　相生町公会場　　開催日　平成16年２月１日
　参加者　地元区民　80名　　内　容　佐久の古代と西八日町遺跡の成果

(4) 埋蔵文化財発掘調査年度報告会
　開催地　佐久市研修センター　　開催日　平成16年２月20日
　参加者　一般市民　100名　　内　容　平成15年度調査遺跡の概要・成果報告

(5) 埋蔵文化財課資料展示室利用状況
　入室者数　404名　　（市内 368名　県内 12名　県外 24名）

3　分析・鑑定

	遺跡名	種　別	内　容
1	北一本柳遺跡	保存処理	銅製品
2	前田遺跡Ⅴ	保存処理	鉄製品
3	塚原遺跡	保存処理	金属製品
4	東五里田遺跡	分　析	黒曜石産地同定
5	塚原遺跡	鑑　定	人骨
6	後家山遺跡	鑑　定	人骨

4　調査概要

1　東五里田遺跡

所在地　佐久市大字野沢東五里田335－1
調査委託者　佐久市教育委員会学校教育課
開発事業名　野沢中学校管理特別教室棟・普通教室・屋内運動場8700㎡の改築工事
調査期間　平成15年2月11日～平成15年4月4日
調査面積　17,753㎡
調査担当者　冨沢一明・森泉かよ子

東五里田遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

東五里田遺跡は佐久市の南部、佐久市野沢地区に所在する。千曲川左岸にあり、千曲川により形成された沖積地に位置し、標高673mを測る。

今回佐久市立野沢中学校管理特別教室棟、普通教室棟、屋内運動場の改築工事が行われ、現在校庭として使用されている地点に建設されることとなり、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。建設工事により、これらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、記録保存を目的とする発掘調査をすることとなった。

調査の概要

南西に土坑群がみられ、上層より弥生時代前期にあたる氷Ⅱ式の土器群と石器が包含されていた。佐久市では佐久市前山の濁の下遺跡で、細密条痕の土器片が既出するが、遺構に伴う変形工字文の施された浅鉢や条痕の施された甕などは初見の資料であり、また県内でも小諸市氷遺跡、長野市春山B遺跡などに類例がみられるのみで注目される。

集落址は奈良時代と中世が確認された。奈良時代は竪穴住居址2棟と掘立柱建物址7棟が推定され、H1の須恵器壺内部からは漆が出土している。

中世の遺構としては掘立柱建物址6棟と調査区中央に南北方向の溝が検出された。溝からは中世の龍泉窯産青磁碗・瀬戸産瓶子、渡来銭、緑泥片岩製板碑が出土している。

この中央の溝からは近世の在地の陶器、瀬戸・美濃産陶器、有田産磁器、近世では瀬戸の磁器などの碗類も出土し、近世・近代まで連続して使用されていた。

遺　構		遺　物	
竪穴住居址	2棟	縄文時代	縄文晩期土器（浅鉢・甕・壺）、有茎石鏃、打製石斧、スリ石
奈良時代	2棟	奈良時代	須恵器（杯・高台付杯・甕）土師器（甕・杯）
掘立柱建物址	21棟		編物石、凹石、砥石
奈良時代	7棟		金環
中　世	6棟	中　世	白磁・青磁（碗）・渡来銭
不　明	8棟	近世・近代	陶磁器
単独ピット	160個		
土坑	14基		
竪穴状遺構	2基		
溝	2本		

2 野沢館跡Ⅵ

所 在 地 佐久市大字野沢字居屋敷62－1・3・8、58－1
調査委託者 佐久市区画整理課
開発事業名 野沢本町沿道整備土地区画整理
調 査 期 間 平成15年11月17日～平成16年３月２日
調 査 面 積 400㎡
調査担当者 林 幸彦 三石宗一 佐々木宗昭

野沢館跡Ⅵ位置図（１：50,000）

経過と立地

野沢館跡は佐久市大字野沢・原に所在し、千曲川左岸の標高675m内外の河岸低段丘に展開する。野沢市街地の中心部に位置し、大伴神社をはじめ南に金台寺、東に成田山薬師寺などの寺社に囲まれている。この館跡は「野沢館跡」「伴野氏城跡」「野沢城跡」「伴野城跡」などと従来複数の名称で呼ばれている。今までに野沢館跡Ⅰ～Ⅴ、野沢館跡１～６などの試掘・立会・本調査がされている。

今回、野沢本町沿道整備土地区画整理で市道が築造されることになり、記録保存調査を実施した。

調査の概要

調査対象地は、江戸時代（宝暦元年）の絵図に描かれている野沢館跡外郭の土塁（北西部）に位置する。幾多の研究者も外郭の推定線として想定しているところである。

今回２箇所で堀址の確認ができた。

野沢館跡Ⅵ B地区近景

3 近津遺跡群 東近津遺跡

所 在 地 佐久市大字長土呂字東近津1181－21 外
調査委託者 佐久市高速交通課
開発事業名 道水路新設改良事業
調 査 期 間 平成15年11月18日～12月4日
調 査 面 積 134㎡（開発対象面積503.09㎡）
調査担当者 小林真寿・森泉かよ子

近津遺跡群 東近津遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

東近津遺跡は佐久市の北部、佐久市長土呂にあり、浅間山麓の放射状に延びる「田切り」地形の発達する地点にある。この細長い台地上には多くの遺跡群が存在する。本遺跡近津遺跡群では、本遺跡の国道を挟む北西で昭和46年に西近津遺跡が発掘調査され、弥生時代後期１棟、古墳時代後期３棟、の竪穴住居址が検出されている。また田切りをこえてすぐ南では周防畑遺跡群南近津遺跡が平成９年に調査され、古墳時代後期14棟、奈良時代10棟、平安時代７棟、不明４棟の計35棟の竪穴住居址、掘立柱建物址３棟等が検出されている。

今回、道水路新設改良事業が本地籍で計画され、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。事業によりこれらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、発掘調査をする運びとなり、佐久市教育委員会文化財課が調査を実施した。なお、発掘調査は拡幅部のみで、現道は水道・下水道等により既に遺構が破壊されているため調査はしていない。

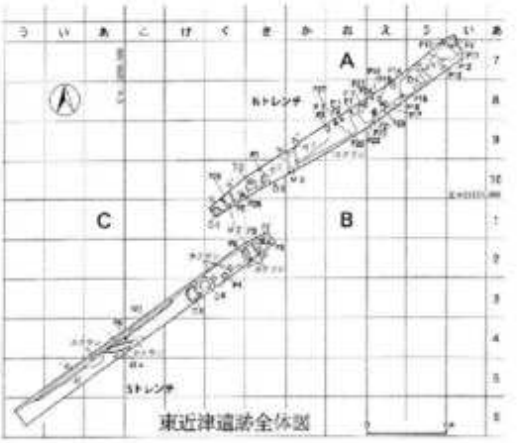
調査の概要

遺 構		遺 物					
竪穴住居址	なし	土器	土師器	石器	石鏃片	金属器	鉄製釘
掘立柱建物址	1棟		須恵器		編物石		鉄製鏃
単独ピット	29個		陶磁器		スリ石		
土坑	6基				砥 石		
溝	4本				石 版		

掘立柱建物址・ピット群・土坑・溝址が検出されたが、住居址はなかった。時代がわかる遺構は少なく、Ｄ１号土坑は土師質皿が出土し、Ｄ６号土坑から凝灰岩製の砥石がある。近世から近代であろうか。Ｍ１号溝址は上限はわからないが下限は磁器などから近代まで使用されていた道路で、舗装された現道路の前の道であろう。

遺物は古墳時代後期の土師器甕片・鉢片、奈良・平安の須恵器甕・杯片を出土している。これらの土器片より本遺跡では竪穴住居址はなかったが周囲にこれらの時代の竪穴住居址があることは推測される。

近津神社周辺の北近津・西近津遺跡群では古墳時代中期の竪穴住居址があり、集落をなしていた。南の周防畑遺跡群では古墳中期の竪穴住居址はなく、古墳後期後半～奈良時代の住居址が中心となっている。近津神社付近は古墳時代中期５世紀頃、その南の周防畑遺跡群では７～８Ｃ頃の集落がみられる。近津神社付近は古東山道の通過地点の諸説の中の一つとされ、(井出正義、1995『佐久市志歴史編（一）』「東山道と佐久」)、古墳から奈良時代の集落がみられることは注目される。



近津遺跡群東近津遺跡全体図

4 前田遺跡群 前田遺跡Ⅴ他

所 在 地 佐久市大字小田井字前田 外
調査委託者 佐久市高速交通課
開発事業名 交通安全施設等整備事業
調 査 期 間 平成15年10月8日～11月28日（現場）
調 査 面 積 1,100㎡
調査担当者 上原 学

前田遺跡群前田遺跡Ⅴ他位置図（1：50,000）

経過と立地

前田遺跡Ⅴ他は、佐久市北端の南北に長い地域で、調査範囲内には前田遺跡群・鍛冶屋遺跡群・曽根城遺跡・曽根城跡・芝宮遺跡群が含まれる。それぞれの遺跡はいずれも浅間の麓から放射状にのびる田切り地形の細長い台地上に位置し、標高は754～763mを測る。前田遺跡群周辺では昭和60～62年にかけて前田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次、鍛冶屋遺跡Ⅰ・Ⅱ合わせて48,000㎡の調査が行われ、古墳時代から中世に至る遺構（住居址191軒、掘立柱建物址196棟、井戸跡21基、土坑882基、幕臓９基、竪穴状遺構40基、溝状遺構36条）が確認されている。

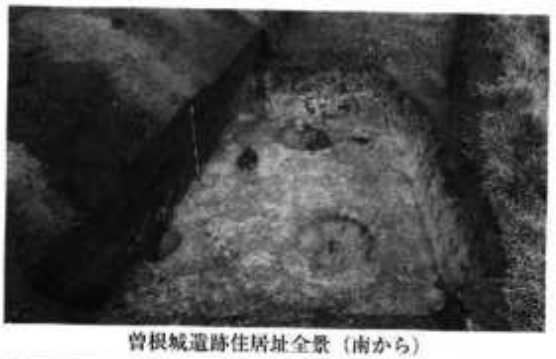
今回、佐久市による交通安全施設等整備事業（道路改良）が行われることとなり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を実施した。

調査の概要

今回の調査地域は南北に細長く、幅３m前後と限られた調査範囲であったが、縄文・古墳・奈良平安・中世の遺構を確認することができた。調査遺構は縄文時代の落し穴１基、古墳時代の住居址１軒・奈良平安時代の住居址６軒、溝跡７条、土坑、ピット群である。

遺物は土器（土師器・須恵器）、鉄製品（糸紬に利用する紡錘車・鎌・刀子）が出土し、須恵器の中には墨で「万」と書かれた墨書土器、焼成前にヘラなどで漢字を刻み込んだ刻書土器が含まれていた。

曽根城遺跡調査区全景（南から）

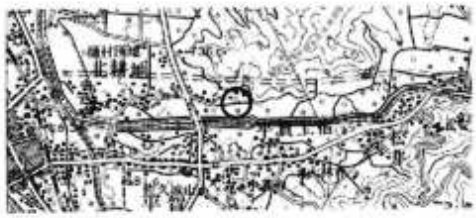


曽根城遺跡住居址全景（南から）

芝宮遺跡群下曽根遺跡調査区全景（東から）

5 開戸田遺跡

所在地 佐久市大字平賀字開戸田
調査委託者 佐久建設事務所
開発事業名 国補道路改良(国)254号佐久市平賀バイパス
調査期間 平成15年4月1日～5月19日（現場）
調査面積 2,000㎡（一部平成14年度調査範囲を含む）
調査担当者 上原　学



開戸田遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

開戸田遺跡は、千曲川右岸の平賀地積にあり、東方向から舌状に張り出した後家山丘陵南麓に広がる標高688m内外の台地上に展開する。この台地の南は地形が一段低い低地帯となり、現在も広く水田として利用され、南に位置する滑津川の氾濫源沖積地となっている。

近年、開戸田遺跡周辺で行われた調査としては、平成11・12年度にかけて西側の水田地帯に展開する樋村遺跡Ⅱの調査が行われ30軒をこえる古墳時代後期の住居址が発見されている。また、この樋村遺跡は昭和57年に大規模な調査が行われており、弥生時代から平安時代の住居址300軒以上が発見され、このうち280軒をこす住居址が古墳時代後期であることが確認されている。開戸田遺跡西方に広がる一帯には古墳時代後期に当時としては規模の大きい集落が形成されていたものと考えられる。また、平成13・14年には北側の後家山丘陵に展開する後家山遺跡・東久保遺跡の調査が行われ、弥生時代中期・後期の住居址70軒あまりが高地性集落的要素を持った比較的高所の緩斜面上から発見された他、同時に3基の古墳址も調査されている。

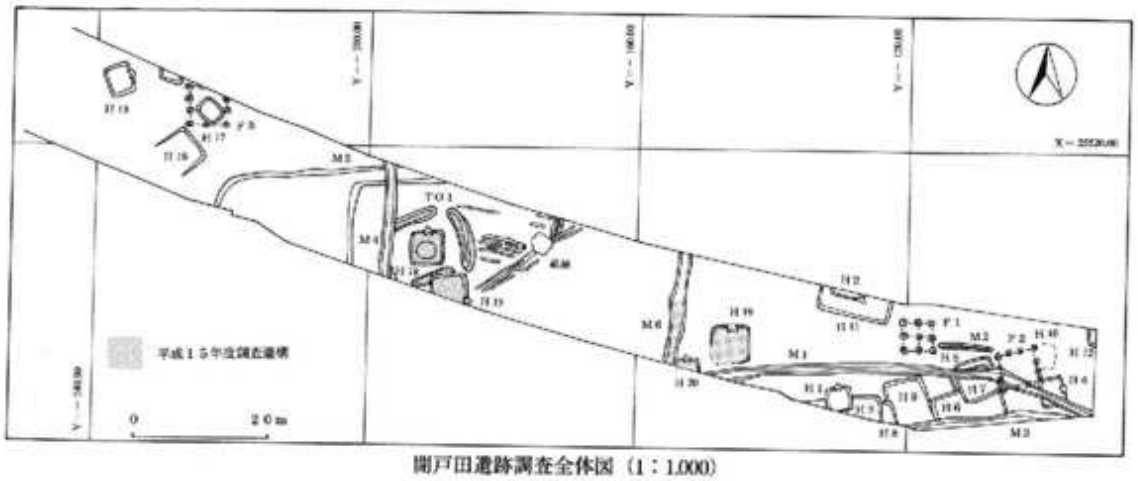
今回、佐久建設事務所により、遺跡を東西に横切る道路改良事業が行われることとなり、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。その結果、古墳・平安時代の住居址が多数確認されたことから、遺構の記録保存を目的として、発掘調査を実施した。

調査の概要

今年度は平成14年度に竪穴住居址17軒、掘立柱建物址3棟、溝状遺構6条などを発見した発掘調査の継続で、一部調査区の拡張を行い新たに住居址2軒を発見した。本年度調査遺構は昨年調査を終了した遺構を除く住居址4軒（古墳時代2軒、平安時代2軒）溝状遺構2条、特殊遺構1基（平安時代）、畑畝跡である。古墳時代の住居址2軒は一辺約5mを測り、カマドは北壁中央に石、粘土を利用して構築されていた。周辺には多量の焼土、炭が認められ、生活の痕跡が伺われた。また床面上には当時使用していたと考えられる土師甕などの土器が出土した。特殊遺構は平成14年度調査の継続で古墳時代の住居址を壊し、平安時代の住居址に一部破壊されている。付近から平安時代（9世紀代）の土器が出土することから遺物と同時代と考えられる。形態は比較的大型の河原石を径1.8m、深さ50cmの穴に詰め込んだ状態で、穴の中央には上面が平坦で大型の石が存在し、周囲には20～30cmの石が詰め込まれている。さらに集石の四方を細長い溝状遺構が囲んでいる。この溝状遺構と集石は別遺構である可能性も考えられるが、遺構内に埋まった土質及び集石が溝のほぼ中央に位置することから同一遺構としたい。本遺構の性格は不明だが周辺の土壌からは焼土及び10～20cmを測る角釘が多数出土することから、一般的な住居址とは異なる特殊な建物が存在していた可能性が考えられる。

調査遺構
- 竪穴住居址 —— 4軒
- 溝状遺構 —— 2条
- 特殊遺構 —— 1基
- 単独ピット
- 畑畝跡

出土遺物
- 出土遺物土師器（坏・甕・壺・甑・高坏）
- 須恵器（坏・甕）
- 手づくね土器
- 玉類（滑石製臼玉）
- 石製品（紡錘車・擦り臼）
- 石器（打製石斧）
- 鉄製品（短刀・鑿先・角釘）



開戸田遺跡調査全体図（1：1,000）

西錯調査区全景（東から）

拡張部調査区全景（東から）

H19号住居址全景（南から）

H19号住居址出土遺物

TO1号特殊遺構集石部全景（上部集石除去後）

拡張部調査区全景（東から）

6 西一里塚遺跡Ⅱ

所 在 地　佐久市大字根々井・平塚
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　道路改良事業
調 査 期 間　平成15年11月24日～12月22日
調 査 面 積　835㎡
調査担当者　三石宗一

西一里塚遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

西一里塚遺跡群は根々井地籍の北側、平塚寄りに位置し、湯川右岸の河岸段丘上に広がる水田地帯に立地する。

本遺跡群内では南方の餅田遺跡から昭和９年に土製紡錘車と土製勾玉が出土し、弥生時代後期から平安時代に至る遺跡として周知されていた。このため、佐久平地区圃場整備事業に伴い、昭和47年度に餅田遺跡、昭和48年度には西一里塚遺跡の発掘調査が実施され、餅田遺跡では弥生時代後期以降の溝址３条、西一里塚遺跡では弥生時代後期以降の環濠と考えられる溝址とそれに囲まれる竪穴住居址11棟、土坑７基、溝址６条等が調査されている。

今回、佐久建設事務所により県単道路改良事業（塩名田佐久線）が計画されたため、記録保存を目的とする発掘調査を実施した。

調査の概要

今回の調査地の北方には常木用水を挟んで昭和48年度に調査された西一里塚遺跡が、南方には昭和47年度に調査された餅田遺跡が近接して存在することから、弥生時代後期の集落址とこれを囲む環濠の検出が予想された。

今回調査された遺構は、弥生時代後期の竪穴住居址７棟の他、土坑１基、ピット74基、溝址３条であり、いずれも調査区中央部分の畑より検出されたものである。また、調査を行った竪穴住居址はいずれも床面付近まで削平されており、わずかにH５号住居址が四壁を残すのみである。

調査区東及び西側の水田部分についてはトレンチを掘り下げ遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。なお、東側の一部畑については遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、西一里塚遺跡で調査された環濠に連続する可能性が高いと考えられる溝址３条が検出されたため、この部分については平成16年度に発掘調査を実施することとなった。

西一里塚遺跡Ⅱ 全景（西方より）

7 大奈良遺跡

所 在 地 長野県南佐久郡臼田町大字田口
字金石3894～3889
調査委託者 臼田町
開発事業名 ふるさと農道緊急整備事業
調 査 期 間 平成15年11月４日～同年12月25日
調 査 面 積 1,700㎡
調査担当者 須藤隆司

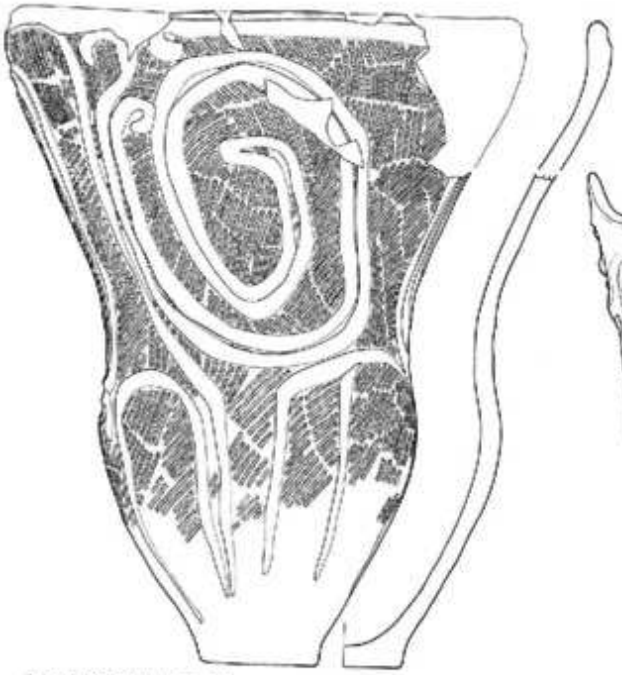
大奈良遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

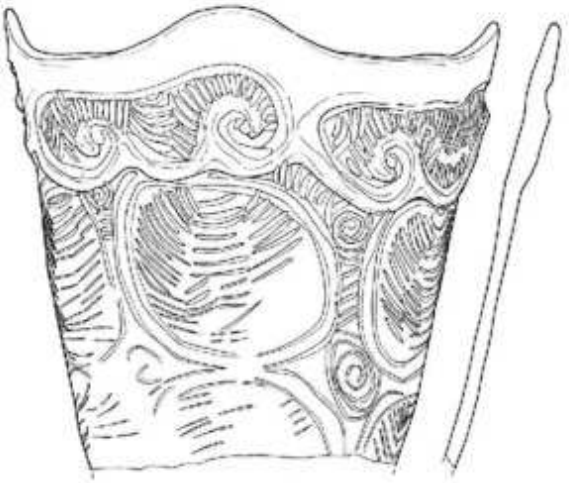
大奈良遺跡は千曲川右岸の河岸段丘に立地し、『臼田町遺跡詳細分布調査報告書』には縄文時代中期・弥生時代後期・古墳時代・平安時代の遺跡として登録されていた。今回、臼田町が遺跡内にふるさと農道緊急整備事業として道路建設を計画したため、臼田町が平成15年10月１日・２日の両日で試掘調査を実施したところ、縄文時代の遺物が大量に出土し、遺跡保存の必要性が生じた。そこで、臼田町より委託を受けた佐久市教育委員会が記録保存を目的とする発掘調査を行う運びとなった。

調査の概要

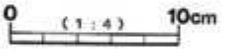
平成15年度の調査では古墳時代の竪穴住居址２軒と縄文時代中期の竪穴住居址10軒・敷石住居址２軒・土坑42基、縄文時代後期の敷石住居１軒が検出され、縄文時代中期の拠点的な集落の存在が判明した。出土した膨大な遺物は、縄文土器が主体であるが、特記できることが約2,000点にも及ぶ打製石斧とその製作・再生剥片が多量に検出されたことである。



Ｊ４号住居址の埋甕



Ｊ２号住居址の埋甕



8 供養塚遺跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字新子田字供養塚892－2
調査委託者 財団法人医療経済研究所　社会保険福祉会
開発事業名 グループホーム建設事業
調 査 期 間 平成15年９月３日～９月24日
調 査 面 積 533㎡
調査担当者 出澤　力

供養塚遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

供養塚遺跡Ⅱは佐久市新子田地籍に所在する。湯川東岸に接する浅間軽石流堆積物による台地上の東端に位置し、標高は706m内外を測った。本遺跡は戸坂遺跡群内にあり、遺跡に隣接した箇所で供養塚遺跡、四ツ塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、四ッ塚古墳などの調査が行われ、古墳時代末期の住居址と奈良時代の住居址等が確認されている。

今回、財団法人医療経済研究所社会保険福祉会によりグループホーム建設事業が計画され、事前に対象地内の遺構・遺物の有無を確認するために試掘調査が行われた。その結果遺構が認められたため遺構の破壊を免れない建物部分についてのみ遺構の記録保存を目的とした発掘調査が実施されることとなった。

調査の概要

調査された遺構・遺物については以下の通り。

遺　構

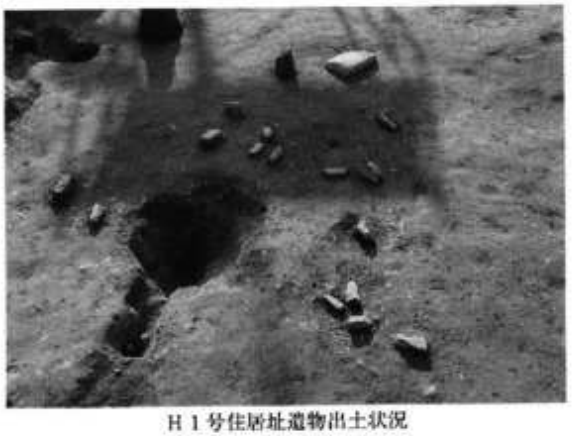
竪穴住居址（奈良）１軒・掘建柱建物址２軒・
土坑４基・ピット36基

遺　物

土師器（坏・甕）・須恵器（坏・甕）・土製紡錘車・
石製品（紡錘車・砥石・編物石・掲石）

住居址は壁長６ｍ強の規模で、柱穴の他に壁柱を有する。遺構内からは奈良時代の土師器坏・甕・須恵器坏などが出土し、また土製・石製紡錘車や、覆土中および床直面より大量の編み物石の出土も確認した。周辺の四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡Ⅰにおいても同時期の住居址が認められており、遺跡が所在する台地上の本遺跡周辺に奈良時代の集落が展開することが分かった。

Ｈ１号住居址（南から）



Ｈ１号住居址遺物出土状況

9 上の城遺跡群 西八日町遺跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字岩村田字西八日町2130－7・8
調査委託者 佐久市相生町区
開発事業名 相生町区公会場建設
調 査 期 間 平成15年7月23日～7月31日
調 査 面 積 150㎡
調査担当者 林 幸彦

西八日町遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

上の城遺跡群は、湯川右岸の台地上に所在する。本調査地点の周辺は、道路築造、店舗建設、宅地造成などの開発に伴う記録保存調査が数多く行われている。上の城遺跡Ⅰ・Ⅱ、西八日町遺跡Ⅰ、観音堂遺跡で弥生時代中期・後期、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世の集落が調査されている。

今回、相生町区が公会場建設を計画した。試掘調査を実施し遺構が確認され、協議の結果建物基礎部分の記録保存調査を行うことになった。

調査の概要

試掘調査では、弥生時代後期～平安時代の11軒以上の竪穴住居址等が確認された。本調査では、弥生時代後期の竪穴住居址2軒、古墳時代後期の竪穴住居址2軒、平安時代の竪穴住居址4軒が検出された。遺物は、弥生時代後期土器、土師器、須恵器が出土した。

西八日町遺跡Ⅱ H4号住居址（南方から）

10 一本柳遺跡群 北一本柳遺跡

所 在 地 佐久市大字岩村田666－1
調査委託者 清水俊之
開発事業名 (仮称)レオパレス21清水邸新築工事
調 査 期 間 平成15年９月26日～10月３日（現場）
調 査 面 積 99㎡
調査担当者 上原 学

一本柳遺跡群 北一本柳遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田市街地の西の標高685～702mを測る湯川右岸の台地上に位置する。調査区は佐久市を南北方向に通過する国道141号線臼田バイパス東側に位置する。この周辺地域は弥生時代から中世に至る遺跡の密集地域として知られ、これまでに数多くの発掘調査が行われている。

今回、集合住宅建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施したところ、多くの住居址を検出した。試掘結果に基づき開発主体者と改めて協議を行い、開発面積1412.76㎡のうち、遺構の破壊される地域99㎡について佐久市教育委員会が主体となり発掘調査を実施した。

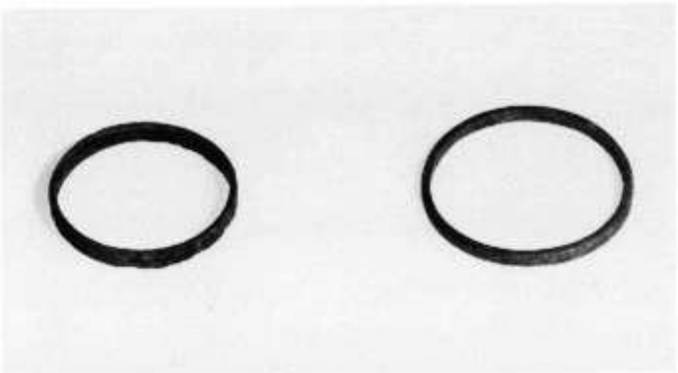
調査概要

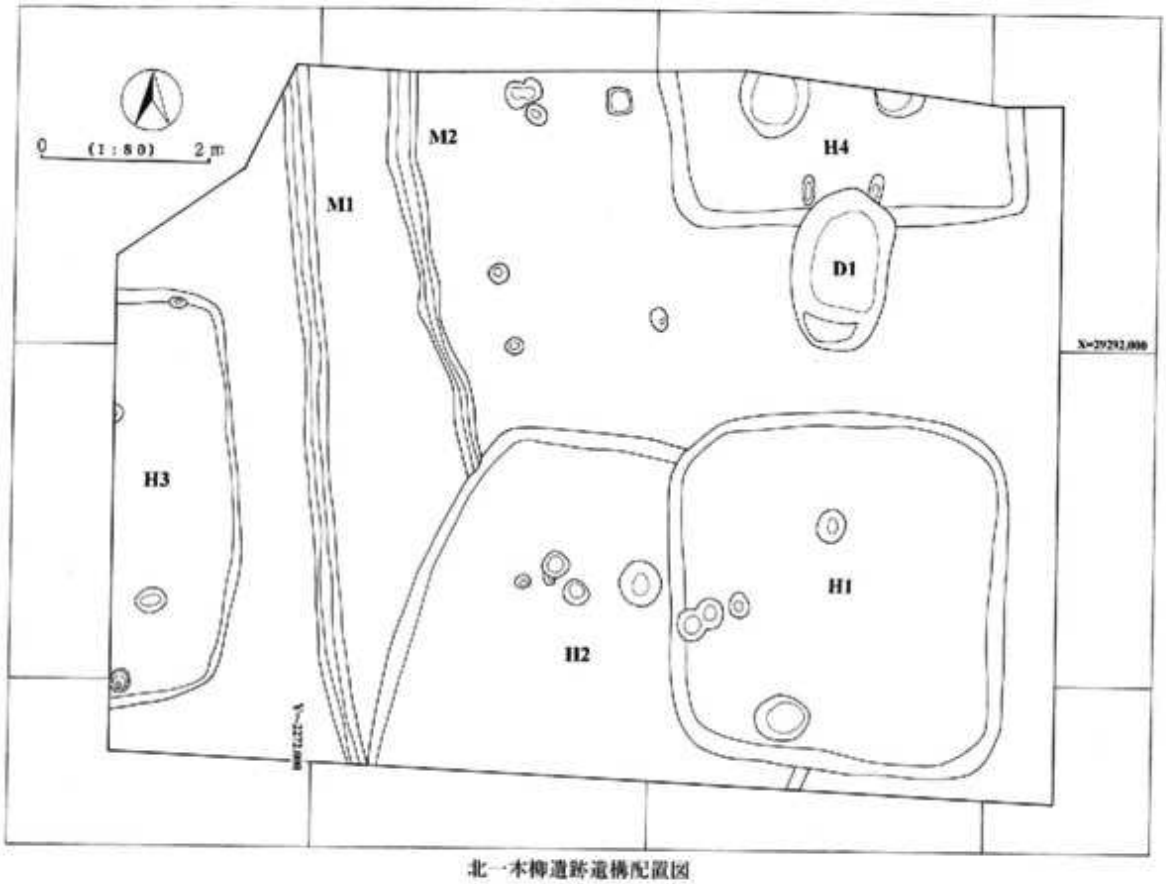
今回の調査区は遺構の破壊が予想される99㎡という限られた範囲であったが、弥生時代後期と考えられる住居址４軒、土壙墓１基など予想以上の成果を得ることができた。住居址４軒のうち１軒は全体調査が可能であったが、他の３軒は大半が調査区域外となり部分的な調査にとどまった。

遺物は弥生式土器が中心だが、１号土壙墓及びＨ２号住居址覆土内から青銅製の銅鋲が出土した。２つの銅鋲のうち、住居址出土の鋲は佐久市他、東日本各地で出土している断面縦長で非常に薄く、帯状をしているところから帯状円環型銅鋲と呼ばれている鋲であるが、土壙墓出土の銅鋲は断面が帯状円環型銅鋲に比して幅が狭く、厚みがあり、やや異なる形状を示している。弥生時代の鋲としてはこれまで東日本では認められない形状という。遺構・遺物の詳細は以下の通りである。

調査遺構
竪穴住居址 —— ４軒
土 壙 墓 —— １基
溝 跡 —— ２条

出土遺物
弥生式土器（後期－甕・壺・高坏・蓋）
青銅製銅鋲 ２
鉄製品（器種不明）
土製紡錘車（弥生式土器壺転用）
石製品（磨り石等）

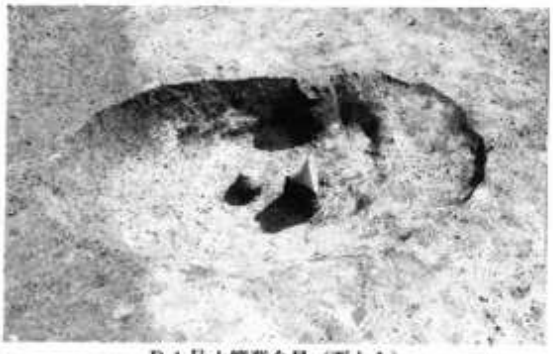

Ｈ２号住居址出土銅鋲（左） Ｄ１号土坑出土銅鋲（右）



北一本柳遺跡遺構配置図

調査区全景（東から）

調査風景（南西から）



Ｄ１号土壙墓全景（西から）

Ｈ１号住居址遺物出土状況

11 西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字長土呂1185－3、1183－6
調査委託者 株式会社カウベルエンジニアリング
開発事業名 工場建設
調 査 期 間 平成16年３月16日～３月22日（現場）
調 査 面 積 200㎡
調査担当者 上原 学

西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経 過

西近津遺跡Ⅱは、西近津遺跡群北端に近く、昭和46年に発掘調査を行った西近津遺跡の南に位置する。標高は713mを測る。

今回、株式会社カウベルエンジニアリングによる工場建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。その結果、工場建設予定地域から竪穴住居址が検出されたため、遺構の記録保存を目的として、発掘調査を実施した。

調査の概要

調査によって、古墳時代から奈良・平安時代の住居址６軒、平安時代末から中世の竪穴状遺構１を発見した。Ｈ１号住居址は古墳時代（５世紀後半）で東側の一部を残し西側は昭和の開発、近年の解体作業によって完全に破壊されている。また、破壊を免れた東側も重複関係にあるＴａ１号竪穴状遺構に北東コーナー付近を破壊されている。Ｈ３号住居址は古墳時代でＴａ１号竪穴状遺構に南側を破壊され、東側の大半は調査区域外となる。調査部分は僅かだが西壁にカマドを確認することができた。Ｈ４号住居址は古墳時代（５世紀後半）で一辺７ｍを測る。形態は方形で、西壁中央にカマドを伴う。Ｈ５号住居址は古墳時代（７世紀後半）でＨ7号住居址と重複関係にあり、南西コーナー上層部を破壊される。規模は一辺４ｍを測り、形態は方形である。カマドは西壁中央に構築され、床面上から状態の良い土器が多数出土した。Ｈ６号住居址は古墳時代（５世紀後半）で、重複関係にあるＨ７号住居址に破壊され、さらに近年の撹乱を受けているため南東コーナー付近から南壁にかけての一部及び僅かな床面と主柱穴（ピット）のみ確認できた。Ｈ７号住居址は奈良・平安時代と考えられ、重複関係にあるＨ５・Ｈ６号住居址を破壊する。遺構の状況は、近年の破壊が著しく、床面下まで削り取られた状態で、僅かに遺構の形態及び西壁に構築されていたカマドの痕跡、主柱穴と思われるピットが確認できた。Ｔａ１号竪穴状遺構はＨ１号住居址及びＨ３号住居址の一部を破壊し、東壁の一部は調査区域外となる。本遺構は当初、覆土内に古墳、奈良・平安時代の土器が含まれることから古代の住居跡（Ｈ２号住居址）として調査を進めたが、遺構の規模・形態（床面までの深さがあり、平面形態が長方形を呈しカマドを伴わない）及び、床直上から出土した土器（土師質で厚手の鉢）の存在といった理由から平安時代末から中世の竪穴状遺構とした。

Ｈ４号住居址全景（南から）

Ｈ１・３号住居址、Ｔａ１全景（西から）

Ｈ５号住居址出土遺物

野沢館跡Ⅴ

NOZAWA KANSEKI

長野県佐久市大字原
野沢館跡Ⅴ発掘調査報告書

長野県佐久市
長野県佐久市教育委員会

所 在 地　佐久市大字原477－3 他
調査原因者　佐久市建設部都市計画課
開発事業名　まちづくり総合支援事業
　　野沢・中込地区（跡部臼田線）
調 査 期 間　平成15年６月23日～９月２日
調 査 面 積　1,900㎡
調査担当者　三石　宗一

野沢館跡Ⅴ位置図（1：50,000）

経過と立地

野沢館跡は佐久市大字野沢・原に所在し、千曲川西岸に広がる河岸段丘上に展開する平安時代末期から中世の居館址で、昭和40年に『伴野城跡』として長野県史跡に指定されている。伴野城跡は「鎌倉時代以来伴野氏の館跡で後の野沢城の主郭にあたる。東西74～85m、南北110mの長方形で、周囲に用水路を巡らし、その内側に沿って西・北・東の三方に土塁を残している。室町から戦国時代にかけて伴野氏が館跡を主郭として二の郭・三の郭などを設け、堀を巡らすなど規模を拡大した。江戸時代以降は官庫・陣屋・岩村田藩出張所など官公地として存続した。」と『佐久市志』に記述されている。

本館跡内では平成３年度に実施された野沢館跡Ⅰ・Ⅱの調査で中世の土坑・柱穴址・石組遺構等が検出されたほか、平成11年度に薬師寺遺跡、平成13年度に野沢館跡Ⅲ、平成14年度に野沢館跡Ⅳ、平成15年度に野沢館跡Ⅵの発掘調査が行われており、野沢館跡Ⅳの調査では主郭の南と東を巡る堀と両側を石積みによって構築される土橋が確認され、野沢館跡Ⅵでは外郭の堀と考えられる溝址が調査されている。

今回、佐久市建設部都市計画課によるまちづくり総合支援事業に伴い都市計画道路3・5・20号跡部臼田線の道路改良工事が計画されたため、記録保存を目的とする発掘調査を実施した。

調査の概要

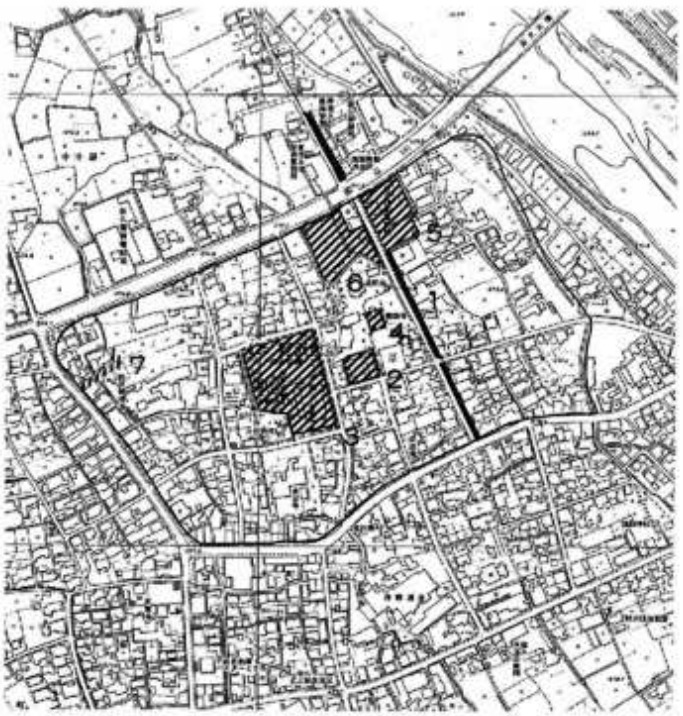
調査は現道東側の拡幅部分について行った。

今回の調査対象地は館跡の外郭にあたることからこれに関わる遺構の存在が予想された。

調査の結果、調査区内は50～90cm前後の厚さで埋土が行われており、埋土下より近代の水田層が確認された。遺構検出面は水田層下の千曲川の氾濫によって形成された黄褐色砂層であり、表土下１m内外を測る。

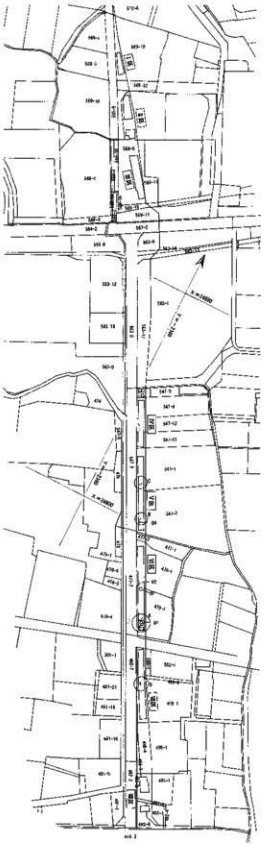
遺構は調査区中央付近より土坑４基、ピット29基が検出された。

出土遺物には石臼・五輪塔・古銭・土器片があるが、古銭２点（元祐通寶・天聖元寶）がＤ２号土坑から出土した他は埋土内からの出土である。また、調査区内には水道管・下水道管等の埋設による撹乱が各所で認められた。

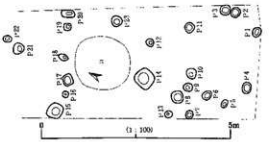


周辺遺跡分布図（1：7,500）

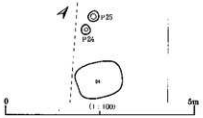
1 野沢館跡Ⅴ　2 野沢館跡Ⅲ
3 野沢館跡Ⅳ　4 薬師寺遺跡
5 野沢館跡Ⅰ（試掘調査）
6 野沢館跡Ⅱ（試掘調査）
7 野沢館跡Ⅵ



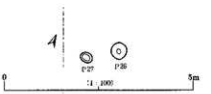
野沢館跡Ⅴ調査区設定図（1：2,000）



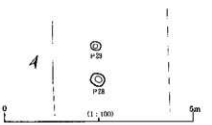
Ⅶ区A地点ピット群実測図



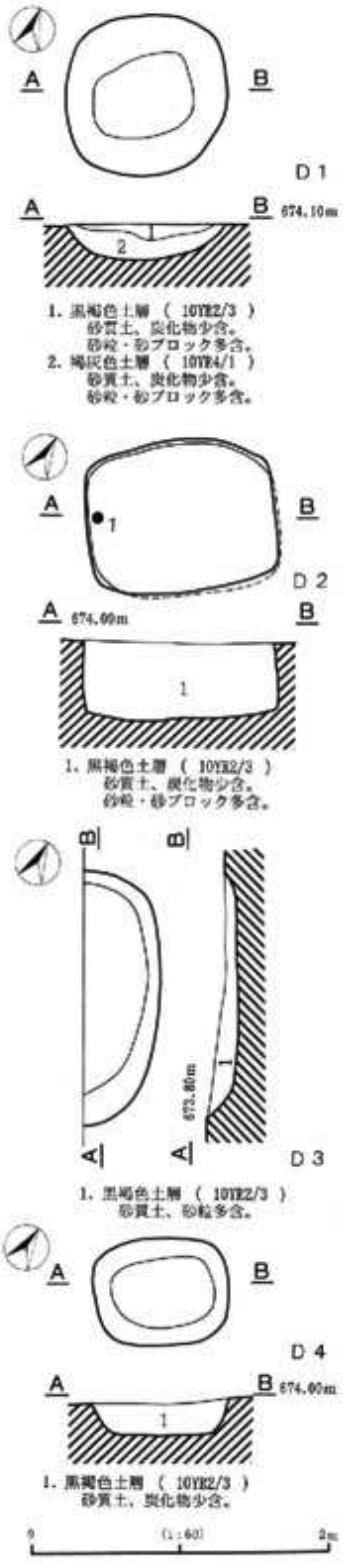
Ⅴ区B地点ピット群実測図



Ⅴ区C地点ピット群実測図



Ⅶ区D地点ピット群実測図



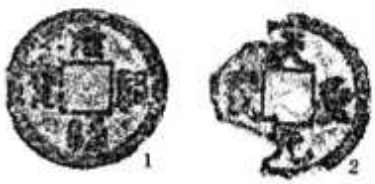
D 1～D 4 号土坑実測図（1：60）

D 1 号土坑

検出位置	Ⅵ区
平面形態	円形
規模（cm）	146×146×27

D 2 号土坑

検出位置	Ⅵ区
平面形態	隅丸長方形
規模（cm）	170×135×70
長軸方位	N－48° －E
出土遺物	古銭 1 元祐通寶 2 天聖元寶



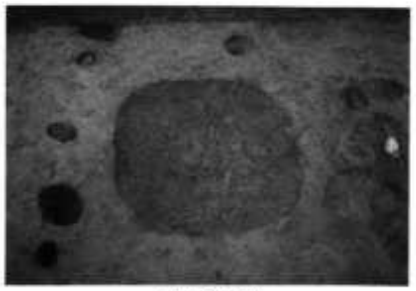
D 2 出土古銭（1：1）

D 3 号土坑

検出位置	Ⅵ区
平面形態	（楕円形）
規模（cm）	228×(69)×(69)

D 4 号土坑

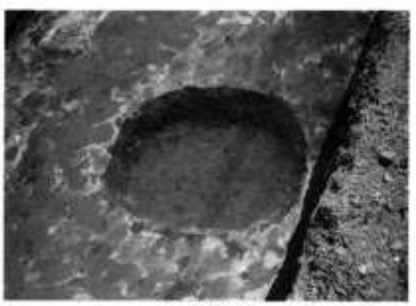
検出位置	Ⅴ区
平面形態	隅丸長方形
規模（cm）	122×96×30
長軸方位	N－42° －E



D 1 号土坑

D 2 号土坑

D 3 号土坑



D 4 号土坑

P１～P３号柱穴址

P24・25号柱穴址

P26・27号柱穴址

P28・29号柱穴址

ピット一覧表

No.	検出位置	規模（cm）		覆　土
		径	深さ	
P1	Ⅶ区	20×24	14	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含、砂ブロック含。
P2	Ⅶ区	26×36	14	黒褐色土（10YR2/2）砂粒含。
P3	Ⅶ区	24×22	10	黒褐色土（10YR2/2）砂粒含。
P4	Ⅵ区	24×30	12	黒褐色土（10YR2/3）砂粒含。
P5	Ⅵ区	14×20	10	黒褐色土（10YR2/3）砂粒含。
P6	Ⅵ区	22×23	12	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含、砂粒含。
P7	Ⅶ区	18×20	20	黒褐色土（10YR2/3）砂粒・砂ブロック含。
P8	Ⅶ区	28×32	34	黒褐色土（10YR2/2）炭化物少含、砂粒含。
P9	Ⅶ区	26×21	12	黒褐色土（10YR2/2）砂粒含。
P10	Ⅶ区	26×26	22	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含、砂粒・砂ブロック含。
P11	Ⅶ区	24×24	19	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含、砂粒・砂ブロック含。
P12	Ⅵ区	22×20	16	黒褐色土（10YR2/3）砂粒含。
P13	Ⅵ区	15×16	11	黒褐色土（10YR2/3）砂粒含。
P14	Ⅵ区	52×46	15	黒褐色土（10YR2/2）炭化物・砂粒・砂ブロック含。
P15	Ⅶ区	40×39	15	黒褐色土（10YR2/2）炭化物・砂粒・砂ブロック含。
P16	Ⅶ区	14×16	16	黒褐色土（10YR2/2）炭化物少含、砂粒含。
P17	Ⅶ区	22×30	27	黒褐色土（10YR2/2）炭化物少含、砂粒含。
P18	Ⅶ区	22×18	15	黒褐色土（10YR2/2）炭化物少含、砂粒・砂ブロック含。
P19	Ⅶ区	20×20	8	黒褐色土（10YR2/3）砂粒・砂ブロック多含。
P20	Ⅶ区	35×	18	黒褐色土（10YR2/2）砂粒・砂ブロック含。
P21	Ⅶ区	30×26	22	黒褐色土（10YR2/2）炭化物少含、砂粒含。
P22	Ⅶ区	30×14	11	黒褐色土（10YR2/3）砂粒含。
P23	Ⅶ区	28×36	16	黒褐色土（10YR2/2）砂粒・砂ブロック多含。
P24	Ⅴ区	25×25	16	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含。
P25	Ⅴ区	39×27	10	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含。
P26	Ⅴ区	42×44	27	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含。
P27	Ⅴ区	28×34	12	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含。
P28	Ⅶ区	36×34	14	黒褐色土（10YR2/3）炭化物・焼土少含。
P29	Ⅶ区	22×28	14	黒褐色土（10YR2/3）炭化物少含。

Ⅱ区（南方より）

Ⅲ区（南方より）

Ⅳ区（南方より）

Ⅴ区（南方より）

Ⅵ区（北方より）

Ⅶ区（北方より）

深堀遺跡Ⅵ

HUKABORI

長野県佐久市大字瀬戸
深堀遺跡Ⅵ発掘調査報告書

長野県佐久市
長野県佐久市教育委員会

所 在 地 佐久市大字瀬戸西原
調査委託者 佐久市
開発事業名 道路改良事業
調 査 期 間 平成15年７月11日～７月18日
調 査 面 積 394㎡
調査担当者 三石　宗 一、佐々木宗昭

深堀遺跡Ⅵ位置図（１：50,000）

例言・凡例

１、本書は平成１５年度に調査を行った佐久市大字瀬戸西原に所在する深堀遺跡Ⅵの発掘調査報告書である。
２、遺跡の略称（ＳＦＨⅥ）とした。
３、遺構の略称　竪穴住居址－Ｈ
４、スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

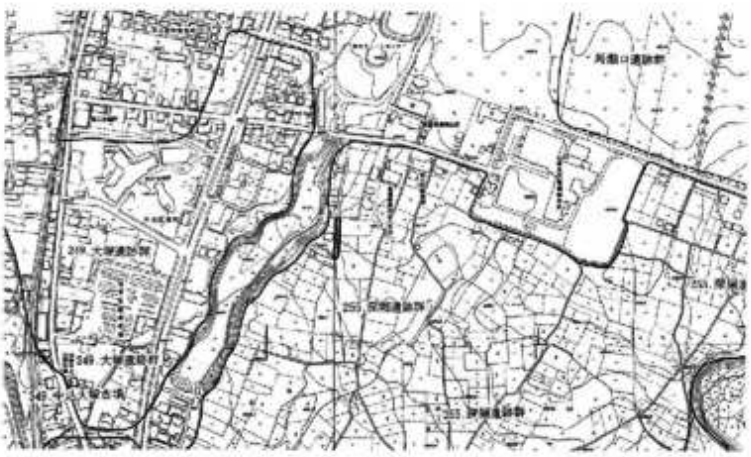
調査範囲　床下(堀方)　地　山

５、挿図の縮尺は、図に明記した。
６、遺構の海抜標高は、水糸標高を記した。
７、上層の色調は、1988年版「新版 標準土色帳」に基づいた。

立地と経過

深堀遺跡Ⅵは佐久市大字瀬戸に所在し、佐久市役所の東側約400ｍの地点に所在する。東方に志賀川を臨み、西方はⅢ切に挟まれる台地状に所在し、標高は686～687ｍ内外を測る。

この台地上には弥生時代から中世の城跡までを含む遺跡が複合して存在し、過去、深堀遺跡Ⅰ（昭和40年）・Ⅱ（平成10年）・Ⅲ（平成11年）・Ⅳ・Ⅴ(平成12年）等の発掘調査が行われている。これらの調査結果、弥生時代中期の住居址及び古墳時代から平安時代までの集落址が確認された他、台地の東側に存在する中世城郭である八反田城の堀址や狐塚古墳群の調査も行われている今回、佐久市建設部土木課による市道32－７号線の道路改良事業が本遺跡内において計画され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、佐久市土木課により委託を受けた佐久市教育委員会が記録保存を目的とする発掘調査を実施する運びとなった。


第２図　深堀遺跡Ⅵ（１：10,000）

調査の概要

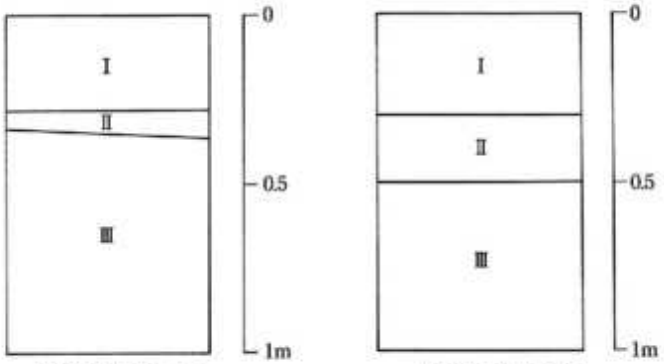
今回発掘調査を実施した深堀遺跡Ⅵは台地の北西端部にあたり深堀遺跡Ⅳ（平成12年度）で調査された古墳時代前期の集落に近接していることから該期の遺跡の存在が予想された。

しかし、調査の結果住居址１棟（H１）が検出されたのみで、今回調査を行った深堀遺跡Ⅵの地点は台地西側縁辺部であり、比較的遺構密度の希薄な部分にあたるものと考えられる。

深堀遺跡Ⅵ調査区近景（南より）

基本層序

遺構確認面は、浅間山の噴火によって堆積した浅間第一軽石流のローム層上面で、調査区の北側においては表土から約30cm、南側では約50～70cmの深さで認められる。また、このことから本地点の旧状地形は北から南へ若干傾斜していることが観察された。

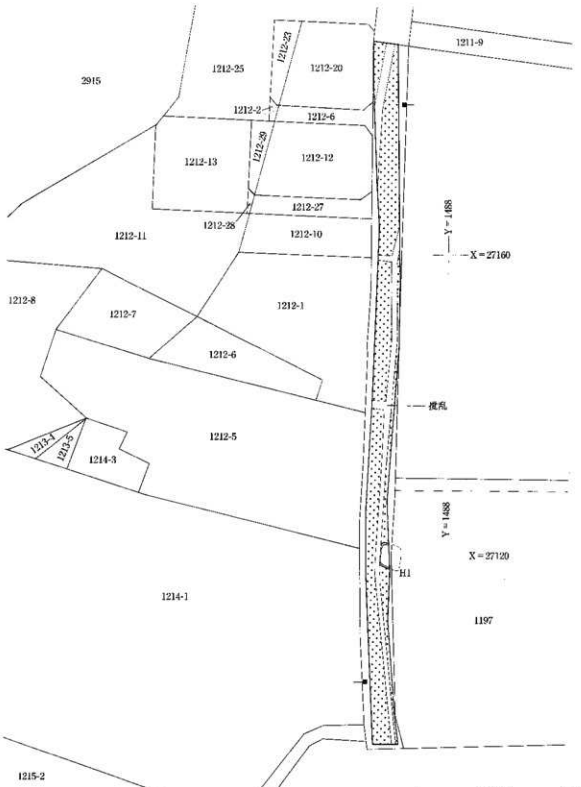


Ⅰ層　耕作土（黒褐色土 10YR2/2）

Ⅱ層　黒色土（10YR2/1）
10YR2/3ブロックを含む。
ローム粒子を少量含む。

Ⅲ層　ローム層（10YR6/6）
浅間第一軽石流。
５～６cm大の軽石を多く含む。

第３図　基本層序模式図



第4図　深脇遺跡Ⅵ　調査全体図

検出遺構

竪穴住居址(H)

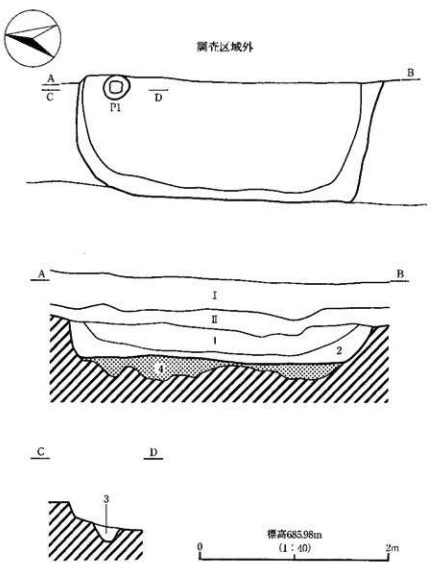
検出された遺構は、第4図に示したように調査区の南側より、住居址が1棟検出されたのみである。
住居址は約二分の一が認られ、他は調査区域外に残存する(第5図)。また、本址の西壁上部は水道工事による攪乱によって破壊されている。

規模・形態は、上記の検出状況から1辺約3m前後と考えられ、小規模の住居址であることが窺われた。壁高は床面より約40cm前後を測り、緩やかに立ち上がる。床面は軟弱(軟らかく)で、床の構築は床下約2～20cmの深さに掘窪めた後、4層を埋め戻して設けられている。

主柱穴は確認されず、北壁下から径約10cm、深さ約15cmの小ピットが1基検出されたのみである。

今回調査された住居址からの出土遺物は、第6図に示した古墳時代と考えられる土器片が4点確認され、内6－5は弥生時代中期と思われる土器の小片が混入遺物として含まれている。

これらの土器片から本址は古墳時代と推察されるが、出土遺物が土師器の小片4点と極めて少量であることから明確な時期決定は困難である。



I層　黒褐色土（10YR2/2）

II層　黒色土（10YR2/1）
10YR2/3ブロックを含む。
ローム粒子を少量含む。

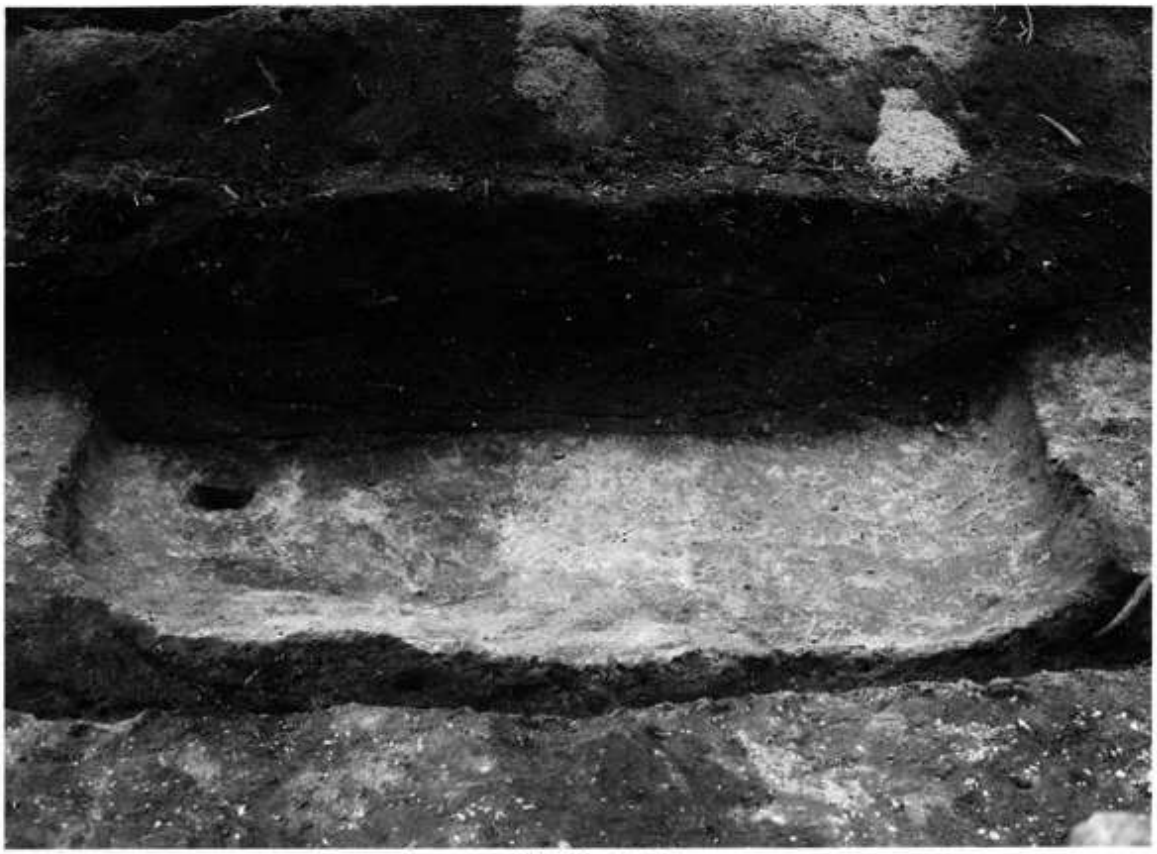
1層　黒褐色土（10YR2/1）
ローム粒子・パミス含む。
ロームブロック・黒色土ブロックを少量含む。

2層　黒褐色土（10YR3/2）
ローム粒子・パミス・ロームブロックを含む。

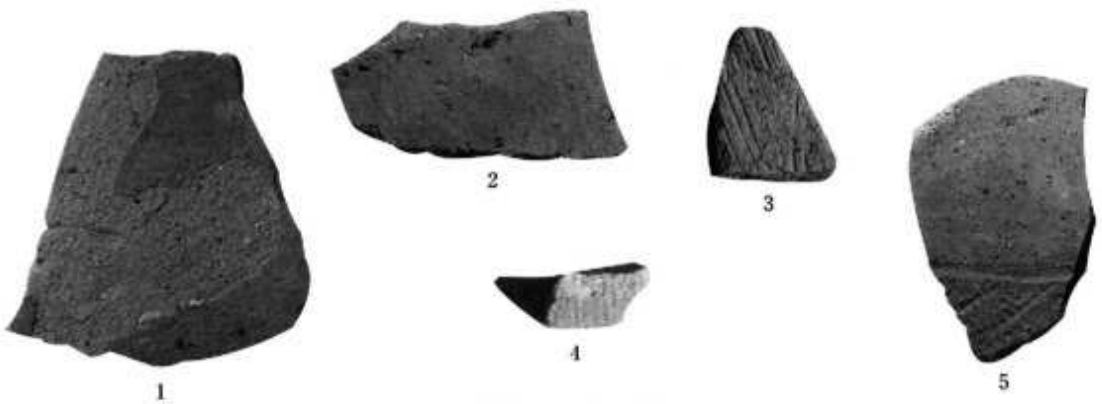
3層　黒褐色土（10YR2/3）
ローム粒子・ロームブロック・パミス含む。10YR2/1ブロックを少量含む。

4層　褐色土（10YR4/4）
ローム粒子・ロームブロックを多量含む。パミス含む。黒色土ブロックを少量含む。

第5図　H1号住居址実測図



H１号住居址（西より）



H１号住居址　出土遺物

姫小石遺跡Ⅱ
長塚遺跡

HIMEKOISHI・NAGATSUKA

長野県佐久市大字塚原
姫小石遺跡Ⅱ・長塚遺跡発掘調査報告書

佐久建設事務所
長野県佐久市教育委員会

所 在 地 佐久市大字塚原字姫子石1510－3　他71筆
調査委託者 佐久建設事務所
開発事業名 交通安全施設等整備事業
調 査 期 間 平成15年11月13日～12月２日（発掘調査）
平成16年１月31～立会調査・
11月末日現在継続中）
調 査 面 積 4,000㎡
調査担当者 出澤　力

姫子石遺跡Ⅱ長塚遺跡位置図（1：50,000）

経過と立地

本遺跡は佐久市塚原および常田地籍に所在する。塚原地籍の一帯は浅間山の噴火により「塚原泥流」に覆われ、山体の崩落物質と噴出物で形成された「流れ山」が数多く見られ、これが地名の由来ともなっている。

現在の遺跡周辺は、下仁田浅科線沿線では圃場整備された水田が常田側で広がり、時折見られる流れ山は塚原の地名が示す通り現在では墓地として利用されている物が多く、かつては実際に古墳として利用された物も多い。遺跡周辺では藤塚古墳群、姫子石古墳群をはじめ、多くの古墳群が確認されている。

周辺ではこれまで、道路建設に伴う前田遺跡群姫子石遺跡Ⅰの発掘調査、および姫子石遺跡Ⅰから南西に位置する微高地に存在する藤塚遺跡群、藤塚古墳の調査が行われている。姫子石遺跡Ⅰの調査は平成８年度に下仁田浅科線に繋がる市道建設に伴い行われ、竪穴状遺構１軒、土坑27基、溝状遺構８条、掘立柱建物址２棟を確認している。遺物では縄文・弥生土器片、土師器片、中世内耳土鍋、陶磁器、石臼、五輪塔などが発見された。

藤塚古墳群・藤塚遺跡は塚原地籍の流山を形成する地形の最西端部にあり、周囲に比して微高地上の地形に存在する。平成３・４年度に行われた調査では古墳時代後期（７世紀末）の円墳３基、古墳時代前期の前方後円形の古墳１基、竪穴住居址３軒(古墳時代前期)、および竪穴状遺構が発掘された。また、平成８年には住居址の、平成13年には古墳時代後期の円墳１基の調査も行われている。

今回、佐久建設事務所により交通安全施設等整備事業が計画され、下仁田浅科線に整備される歩道部分について、常田交差点付近から浅科村境までの区域において遺構遺物の有無を確認し発掘調査を行い、また現況において遺構の存在する可能性が低い部分、確認調査によって周辺に遺構等が存在しないことを確認出来た部分については立ち会い調査を実施することとし、遺構の確認を行った。

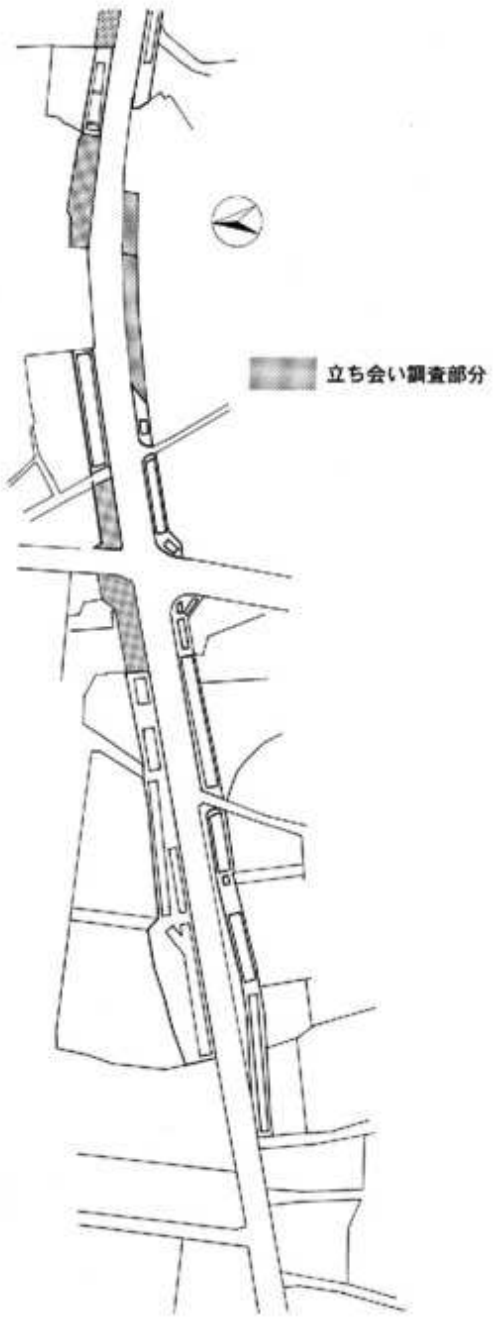
調査の結果

調査は立会調査を含め対象地内のほとんどの区域で行われ、下仁田浅科線沿線の地下の状況を把握することができた。

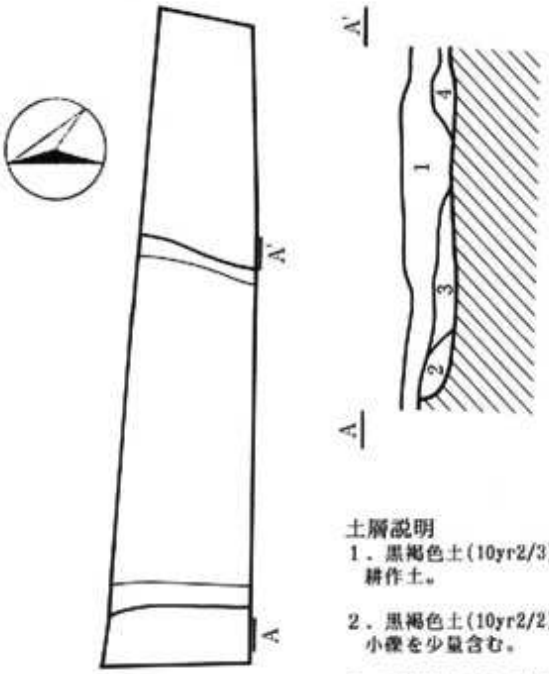
今回の調査では対象地内にまず重機によってトレンチを掘り、遺構遺物を確認することを行った。
調査は浅科町側から開始され、対象地の歩道部分に約１ｍ強幅のトレンチを対象地の状況に応じ１～２本設定した。トレンチは主に塚原泥流層まで掘り下げ、一部ではローム層を遺構確認面とした。遺構の存在する可能性を考慮していた姫子石遺跡Ⅰ周辺の地域では、比較的状態のよい微高地部分に後世の攪乱が見られ、遺構遺物が確認されなかった。常田側では圃場整備が行われた道路南側では遺構・遺物の発見はなく、溝状遺構を発見し原地形を比較的残す道路北側は歩道部分に水路等が走り遺跡の存在は考えられない。

調査によって確認されたのは流れ山に面した部分において確認された溝状遺構１条である。覆土からは古墳時代中期のものと思われる甕の頸部、また平安時代の所謂武蔵甕と呼ばれる薄手の甕の胴部、須恵器破片などが確認される。遺物は古墳中期～平安時代の所産のものと考えられる。遺物は全て破片での出土で、図化出来るものはない。
溝は流山に面し南北に走る形状で、東側の形状は明確ではない。歩道部分のみの調査であるため全体の把握は出来ず、その性格を窺うことは出来ない。なお、立会調査は平成16年度も継続して行われている。

溝状遺構（西から）



姫小石遺跡Ⅱ・長塚遺跡　調査全体図①（1：1,000）



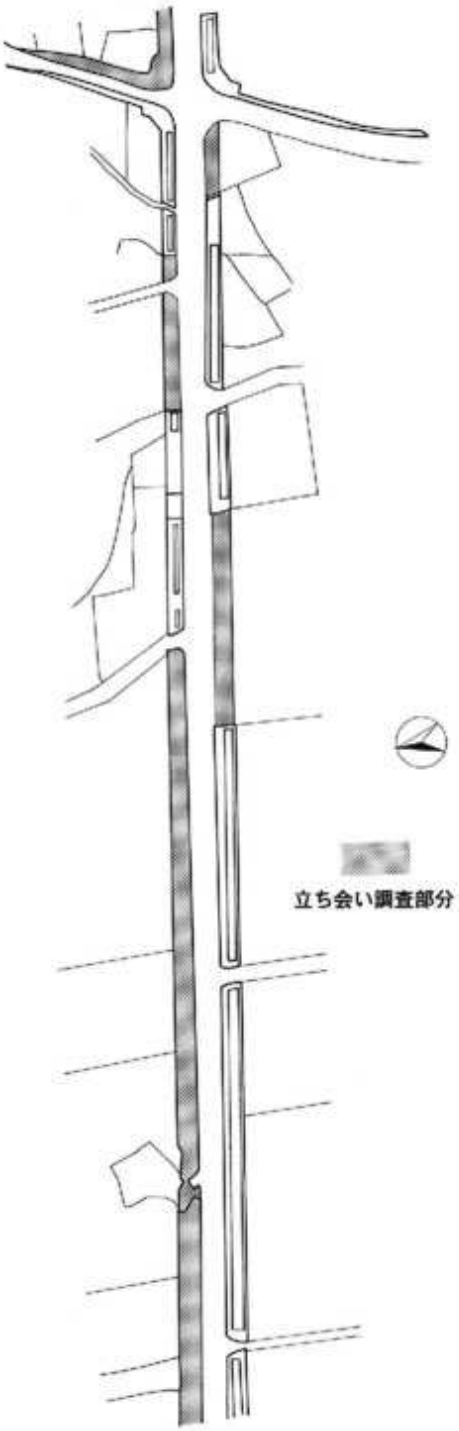
土層説明
1．黒褐色土(10yr2/3)
耕作土。

2．黒褐色土(10yr2/2)
小礫を少量含む。

3．暗褐色土(10yr3/3)
地山ローム、小礫を含む。

溝状遺構　平面・セクション図（1：100）

調査風景（確認調査・東から）



姫小石遺跡Ⅱ・長塚遺跡　調査全体図②（1：1,000）

一本柳遺跡群
西一本柳遺跡X

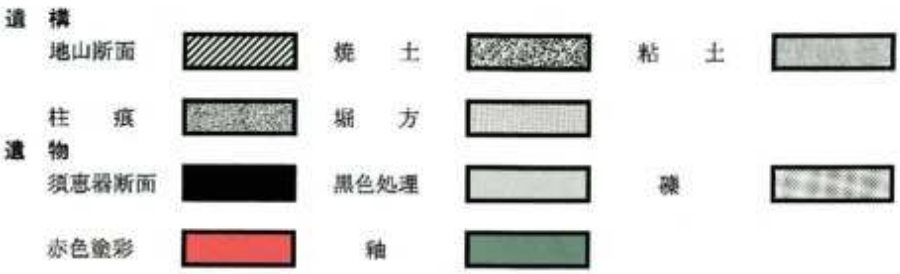
NISHI IPPON YANAGI
（平安時代・掘立柱建物址・試掘編）

長野県佐久市大字岩村田
西一本柳遺跡X発掘調査報告書

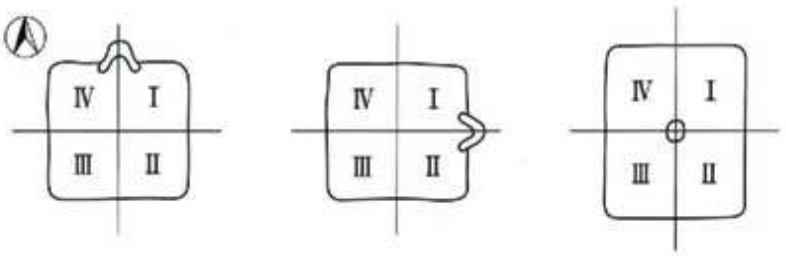
佐武建設株式会社
長野県佐久市教育委員会

凡　例

1．挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。



2．遺物の出土地点は下図の分割図によるものである。



3．遺物の縮尺は原則として1/4に、石製品・鉄製品は異なる縮尺のものがあり、図中に明記してある。

4．試掘調査及び遺構の分布については、佐久市埋蔵文化財調査報告書第127集『一本柳遺跡群　西一本柳遺跡Ⅹ』の「第3図　西一本柳遺跡Ⅹ全体図」を参照されたい。遺物の写真・遺構一覧表も同書に掲載されている。

遺跡名 西一本柳遺跡X（INPX）
所在地 佐久市大字岩村田字下樋田1780－1　他
調査委託者 佐武建設株式会社
開発事業名 ㈱ヤマダ電気店舗建設
調査期間 平成15年6月11日～8月5日
調査面積 1,500㎡
調査担当者 須藤隆司・上原　学・出澤　力・森泉かよ子

西一本柳遺跡X位置図（1：50,000）

経過と立地

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川右岸の台地上にある。岩村田市街地の南西1km、標高690mを測る。浅間第1軽石流が地盤をなしているが、その上に南に流れる湯川の河川堆積層である砂層が堆積している。一本柳遺跡群は台地上を東西の帯状に展開し、中央から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北部を北一本柳遺跡と呼称している。本遺跡群内では昭和43年には東一本柳遺跡が、また昭和46年度には金銅製馬具の飾り金具などを出土した東一本柳古墳が発掘され、貴重な資料を得ている。さらに国道141号線の開通に伴い、西一本柳遺跡を南北に貫く調査がなされ、平成4年の公共下水道事業に伴う西一本柳遺跡Ⅱ、また平成7・8年度の国道141号線の工事に伴う西一本柳遺跡Ⅲ～Ⅵ、平成12・13年度の市道11－1号線緊急地方道路整備事業に伴う西一本柳遺跡Ⅶ、平成14年の店舗新築に伴う西一本柳遺跡Ⅸが調査される。西一本柳遺跡Ⅰ～Ⅸまでの調査で竪穴住居址405棟が検出され、密集した古代集落であることが判明している。弥生時代中期から中世に至るまで連綿と人々の痕跡が残されている佐久市内でも有数な遺跡の一つであり、一本柳遺跡群は県の重要遺跡とされている。

今回、㈱ヤマダ電気店舗建設が計画され、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、遺構が破壊される部分を発掘調査し、破壊されない部分は埋土保存することとなった。

佐武建設株式会社より委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が発掘調査を実施することとなった。

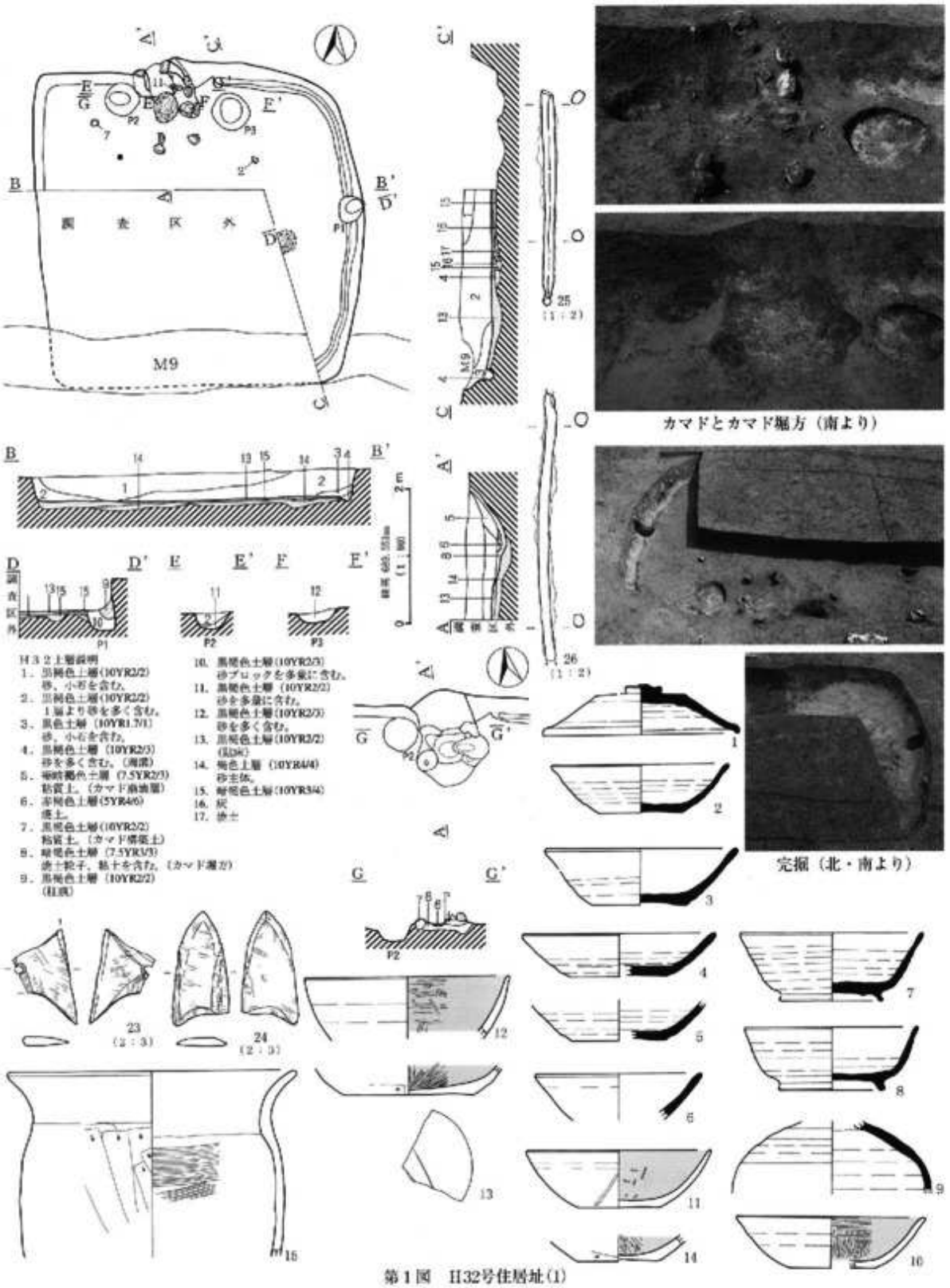
調査の概要

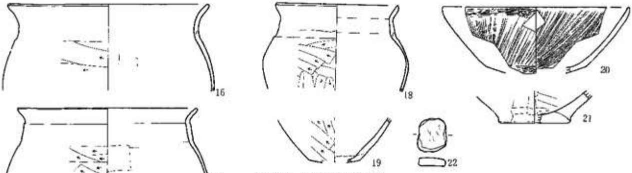
検出遺構

竪穴住居址	105棟	掘立柱建物址	14棟
弥生時代中期	34棟（紀元前1・2C頃～）	土坑	19基
弥生時代後期	12棟（1・2C頃）	溝址	14本
古墳時代中期	12棟（5C頃）	単独ピット	151個
古墳時代後期	15棟（6C～7C頃）		
奈良時代	21棟（8C頃）		
平安時代	9棟（9～11C頃）		
時期不明	2棟		

出土遺物

縄文時代
　縄文土器（鉢・深鉢）、石鏃、スクレイパー
弥生式時代
　弥生土器（鉢・高杯・壺・甕・蓋）、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、小形扁平片刃石斧、磨製石鏃、打製石鏃、石鏃、スリ切り石・勾玉・管玉・土製管玉、磨石、砥石
古墳時代
　土師器（小型丸底壺・壺・甕・杯・高杯・甑）、須恵器（甕・壺・鉢・杯・高杯）、ガラス小玉、臼玉、石製模造品（剣形・勾玉）、編物石、磨石、砥石
奈良・平安時代
　土師器（杯・鉢・甕）、須恵器（杯・杯蓋・甕・壺）、灰釉陶器（杯・皿・壺）、鉄製品（刀子・紡錘車・鉄鏃）、砥石・炭化材・骨


調査区外
M9
P1
P2
P3
H32上層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/2) 砂、小石を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/2) 1層より砂を多く含む。
3. 黒色土層 (10YR1.7/1) 砂、小石を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂を多く含む。(焼漬)
5. 暗赤褐色土層 (7.5YR2/3) 粘質土。(カマド袖構築土)
6. 赤褐色土層(5YR4/6) 焼土。
7. 黒褐色土層(10YR2/2) 粘質土。(カマド構築土)
8. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 焼土粒子、粘土を含む。(カマド掘方)
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱痕)
10. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂ブロックを多量に含む。
11. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂を多量に含む。
12. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂を多く含む。
13. 黒褐色土層(10YR2/2) (貼床)
14. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。
15. 暗褐色土層(10YR3/4)
16. 灰
17. 地山
カマドとカマド堀方（南より）
完掘（北・南より）
第1図　H32号住居址(1)



第2図　H32号住居址(2)

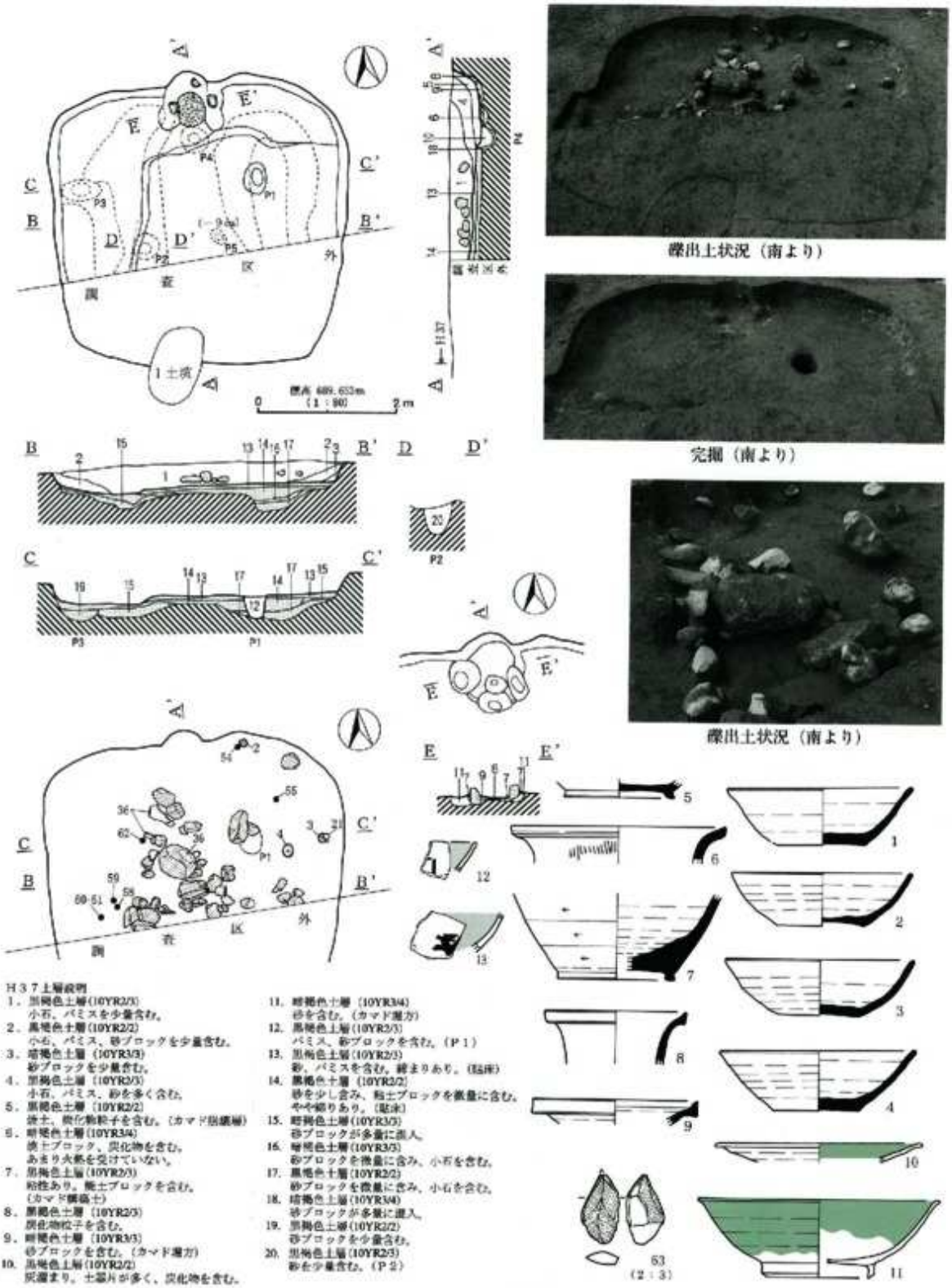
第1表　INPX　H32号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 蓋	(13.6) – 3.7	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→天井部右回転ヘラケズリ→つまみ貼付	内　10YR4/1（褐灰） 外　10YR4/1（褐灰）	まれに1mm大砂粒、細長石・細石英含む。	口縁1/6 回転実測 火だすき内外	I区 II区
2	須恵器 杯	(13.2) 6.0 3.6	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転糸切り	内　10YR7/1（灰白） 外　10YR7/1（灰白）	ごくまれに1～2mm大砂含み、細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3 回転実測 火だすき内外	No.3
3	須恵器 杯	(14.4) 7.0 4.2	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転糸切り	内　10YR6/1（褐灰） 外　10YR6/1（褐灰）	まれに1.5mm大砂粒、細長石・細石英含む。	底部3/4 完全実測	I区 IV区 IV区南方　P2
4	須恵器 杯	(14.4) 7.1 3.2	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部右回転糸切り	内　10YR7/1（灰白） 外　10YR7/1（灰白）	まれに1～3mm大砂粒、細長石・細石英含む。	口縁1/8 回転実測 火だすき	I区 IV区
5	須恵器 杯	– (6.8) (2.9)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転糸切り	内　10YR7/1（灰白） 外　10YR7/1（灰白）	ごくまれに1～3mm大砂粒含み、細長石・細石英粒子含む。	底部1/4 回転実測	I区
6	須恵器 杯	(12.4) (3.5)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　10YR6/1（褐灰） 外　10YR7/1（灰白） 10YR4/1（褐灰）	まれに1mm大砂粒、細長石・細石英含む。	口縁1/3 回転実測 火だすき	H30検出 H32 I区
7	須恵器 有台杯	13.7 (7.3) 5.1	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転糸切り→高台	内　10YR4/1（褐灰） 外　10YR4/1（褐灰）	まれに2mm大砂粒含む。0.5mm大長石粒子多く含み、細石英粒子含む。	口縁2/3 完全実測 火だすき内外	No.2
8	須恵器 有台杯	(13.0) (7.0) 4.7	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転糸切り→高台	内　10YR7/1（灰白） 外　10YR7/1（灰白）	まれに1～3mm大砂粒含む。細長石・細石英含む。	底部3/4 回転実測 火だすき内外	カマド南方 I区 IV区
9	須恵器 長頸壺	-	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→体部上右回転ヘラケズリ	内　10YR6/1（褐灰） 外　10YR6/1（褐灰）	まれに5mm大砂粒含む。細長石・細石英粒子含む。	体部1/4 回転実測	I区
10	土師器 杯	(14.1) (6.3) (3.9)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→底部回転糸切り	内　7.5YR1.7/1（黒） 5YR5/6（明赤褐） 外　5YR6/4（にぶい橙）	まれに1mm大砂粒、細長石・細石英含む。	底部1/2 回転実測	カマド カマド南方 H30 III区2層
11	土師器 杯	(13.8) (6.0) 4.3	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→底部右回転糸切り→ヘラナデ	内　7.5YR1.7/1（黒） 5YR5/6（明赤褐） 外　5YR6/4（にぶい橙）	まれに1mm大砂粒、細長石・細石英含む。	底部1/2 回転実測	No.1 IV区 IV区南方
12	土師器 杯	(15.3) – (4.7)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　5YR7/3（にぶい橙）	まれに1mm大砂粒、細長石・細石英含む。	口縁1/8 回転実測	IV区 検出
13	土師器 杯	– (9.7) (2.2)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→体部下端底部ヘラケズリ	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　5YR6/6（橙）	まれに1mm大砂粒、細長石・細石英含む。	底部1/4 回転実測 ヘラ記号	I区
14	土師器 杯	– (6.0) (1.9)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→底部右回転糸切り→体部下端ヘラケズリ	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　5YR6/6（橙）	0.5mm大砂粒、細長石・細石英含む。	底部1/2 回転実測	IV区南方
15	土師器 甕	(21.4) – (14.0)	内　体部ヘラナデ（板目）→口縁ヨコナデ 外　体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内　2.5YR6/6（橙） 外　2.5YR6/6（橙）	～1mm大長石・石英・砂粒含む。	口縁1/6 回転実測 外面炭付着	H32 I区 IV区南方 H31検出
16	土師器 甕	21.3 – (9.3)	内　体部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外　体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内　2.5YR5/6（明赤褐） 外　2.5YR5/8（明赤褐）	まれに2mm大砂粒、細長石・細石英粒子含む。	口縁5/6 完全実測	I区 カマド No.1
17	土師器 甕	(19.0) – (7.5)	内　体部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外　体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内　2.5YR5/6（明赤褐） 外　2.5YR5/8（明赤褐）	まれに2mm大砂粒、細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	検出 I区 IV区
18	土師器 小型甕	(13.0) – (9.1)	内　体部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外　体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内　5YR4/2（灰赤） 外　5YR5/3（にぶい赤褐）	まれに2mm大砂粒、細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測 器肉薄い	I区 IV区
19	土師器 甕	– (5.4) (4.4)	内　ヘラナデ 外　ヘラケズリ	内　2.5YR5/6（明赤褐） 外　2.5YR5/3（にぶい赤褐）	まれに1mm大砂粒、細長石・細石英粒子含む。	底部1/4 回転実測	IV区
20	土師器 高杯	(19.8) – (7.1)	内　ナデ　暗文 外　ナデ　暗文	内　2.5YR6/6（橙） 外　2.5YR5/6（明赤褐）		口縁1/8 回転実測	IV区 IV区南方 H30 I区
21	土師器 甕	– (7.6) (3.4)	内　ヘラナデ 外　ヘラナデ	内　2.5YR5/4（にぶい赤褐） 外　2.5YR3/1（暗赤灰）	まれに5mm大砂粒、細石英・細長石含む。	底部1/4 回転実測	カマド
22	土師器 土板	縦 3.5 横 3.1 厚 0.8	内　ミガキ　黒色処理 外　ミガキ	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　2.5YR5/6（明赤褐）	細長石・細石英粒子含む。	完全実測 坏または杯転用	IV区南方

番号	器種	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
23	大形剣形石製品	26.0	18.0	2.5	0.9	結晶片岩。右側のみ残存。器体加工研磨・穿孔。	II区
24	剣形石製未製品	32.0	16.0	2.0	1.5	粘板岩。器体加工研磨	No.5
25	釘	81.0	4.0	4.0	3.8	鉄製品。	
26	釘	99.0	5.0	4.0	6.5	鉄製品。	

第2表　INPX　H37号住所址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	(13.5) 6.4 4.1	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　10YR6/1（褐灰） 外　10YR6/1（褐灰）	細石英・細長石粒子含む。 1mm大砂粒含む。	底部完形 口縁1/6 完全実測	Ⅳ区
2	須恵器 杯	13.2 6.9 3.8	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　10YR6/2（灰黄褐） 外　10YR6/2（灰黄褐）	細石英・細長石粒子含む。	4/5 完全実測	No.1
3	須恵器 杯	13.8 6.0 4.1	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　10YR7/1（灰白） 外　10YR7/1（灰白）	細石英・細長石粒子含む。	4/5 完全実測	No.3
4	須恵器 杯	14.3 6.2 4.3	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　10YR6/2（灰黄褐） 外　10YR6/2（灰黄褐）	細石英・細長石粒子含む。 1mm大砂粒含む。	完形品 内外面にスス付着。完全実測	Ⅱ区2層
5	須恵器 有台杯	- (8.0) (1.3)	内　ロクロナデ 外　底部回転糸切り→高台	内　7.5YR5/2（灰褐） 外　7.5YR5/2（灰褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	検出
6	須恵器 甕	(15.6) - (2.7)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　平行タタキ	内　10YR5/1（褐灰） 外　10YR4/1（褐灰）	細石英・細長石粒子、0.5mm～1mm大白色粒子多く含む。	口縁1/8 回転実測	Ⅳ区
7	須恵器 壺	- (8.6) (6.3)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ→高台	内　2.5Y6/1（黄灰） 外　5Y5/1（灰）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	Ⅰ区トレンチ
8	須恵器 蓋	(10.4) - (3.8)	内　ロクロナデ　自然釉付着 外　ロクロナデ	内　10YR3/1（黒褐） 外　10YR4/1（褐灰）	細石英粒子、0.5mm大黒色粒子含む。	口縁1/6 回転実測	検出
9	須恵器 壺	(12.0) - (1.8)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　2.5Y8/1（灰白） 外　2.5Y8/1（灰白）	細長石・細石英粒子含む。 ～1mm大砂粒含む。	口縁1/5 回転実測	Ⅰ区
10	灰釉陶器 皿	(15.2) - (1.4)	内　ロクロナデ　施釉 外　ロクロナデ　施釉	内　5Y8/1（灰白） 外　10YR8/1（灰白）	緻密。1mm大粒子含む。	口縁1/4 回転実測	検出
11	灰釉陶器 椀	(17.6) (8.2) (5.7)	内　ロクロナデ　施釉（漬けかけ） 外　ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ→高台 施釉（漬けかけ）	内　釉5Y7/2（灰白） 外　釉5Y7/2（灰白） 地5Y7/1（灰白）	緻密。	1/5 回転実測	Ⅰ区 Ⅳ区カマド掘方
12	土師器 杯	-	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　5YR1.7/1（黒） 外　5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁破片 墨書 破片実測	Ⅱ区1層
13	土師器 杯	-	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　5YR1.7/1（黒） 外　5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。 赤色粒子含む。	破片実測 墨書	Ⅲ区トレンチ
14	土師器 杯	12.7 6.0 3.6	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部回転糸切り	内　5YR1.7/1（黒） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子、 ～3mm大白色粒子含む。	口縁1/6 底部完形 完全実測	カマド掘方 Ⅰ区掘方
15	土師器 杯	(12.4) (5.8) (4.0)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　杯下部手持ちヘラケズリ　底部回転糸切り	内　5YR5/6（明赤褐） 外　7.5YR6/6（橙）	細長石、1mm大石英、砂粒多く含む。	1/5 回転実測	Ⅰ区
16	土師器 杯	(15.0) (6.0) (4.5)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　5YR7/6（橙）	細石英・細長石粒子、1mm大赤色粒子含む。	口縁1/5 回転実測	Ⅳ区掘方
17	土師器 杯	14.2 6.5 4.7	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　5YR1.7/1（黒） 外　5YR5/6（明赤褐）	細石英・細長石粒子、 1～3mm大砂粒含む。	1/4 回転実測	Ⅰ区
18	土師器 杯	(14.4) (6.0) 4.6	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ 体部下端及び底部手持ちヘラケズリ・ミガキ	内　5YR2/1（黒褐） 外　5YR6/8（橙）	細石英・細長石粒子、まれに白・赤色粒子含む。	1/2 回転実測	Ⅳ区トレンチ
19	土師器 杯	(14.0) (6.0) (3.8)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　5YR1.7/1（黒） 外　5YR6/6（橙）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	1/3 「中」墨書あり 回転実測	検出 Ⅳ区 H39検出
20	土師器 杯	(14.8) (5.4) (3.8)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　5YR1.7/1（黒） 外　5YR6/6（橙）	細長石・細石英粒子、まれに1mm大赤色粒子含む。	1/4 墨書あり 回転実測	Ⅲ区トレンチ
21	土師器 杯	13.6 5.6 3.9	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　10YR1.7/1（黒） 外　5YR6/8（橙）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	1/2 完全実測 墨書「功」?	No.2
22	土師器 杯	(14.0) - (3.2)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　5YR1.7/1（黒） 外　5YR6/8（橙）	細石英・細長石粒子、1mm大赤色粒子含む。	口縁2/3 回転実測	カマド Ⅰ区
23	土師器 杯	- (6.8) (2.0)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り　ヘラ記号あり	内　5YR4/1（褐灰） 外　5YR6/6（橙）	細石英・細長石粒子、1mm大赤色粒子含む。	底部2/3 回転実測	Ⅰ区
24	土師器 椀	16.1 (5.6)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　10YR1.7/1（黒） 外　5YR5/3（にぶい赤褐）	細長石・細石英粒子、1mm大砂粒含む。	2/3　完全実測 外面油煙付着 高台欠損	Ⅱ区トレンチ
25	土師器 皿 (黒色土器)	(15.0) - (1.4)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　黒色処理　ミガキ	内　5YR1.7/1（黒） 外　5YR1.7/1（黒）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/5 回転実測	Ⅳ区掘方
26	土師器 皿	(14.2) - (1.5)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　5YR5/4（にぶい赤褐） 外　5YR2/1（黒褐）	細長石・細石英粒子まれに1mm大砂粒含む。	口縁1/4 回転実測	Ⅰ区1層
27	土師器 甕	(13.6) - (4.9)	内　ヨコナデ　ヘラナデ 外　ヨコナデ　ヘラナデ	内　7.5YR4/3（褐） 外　2.5YR3/3（暗赤褐）	細長石・細石英粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/4 武蔵甕 回転実測	Ⅰ区
28	土師器 甕	(18.8) - (7.4)	内　口縁ヨコナデ　ヘラナデ（板目） 外　口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	内　7.5YR4/3（褐） 外　7.5YR5/4（にぶい褐）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 武蔵甕 回転実測	Ⅳ区
29	土師器 甕	(19.6) - (6.7)	内　口縁ヨコナデ　ヘラナデ 外　口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	内　5YR5/4（にぶい赤褐） 外　7.5YR6/4（にぶい橙）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3 武蔵甕 回転実測	Ⅰ区 Ⅲ区トレンチ
30	土師器 甕	(18.8) - (6.9)	内　口縁ヨコナデ　ヘラナデ 外　口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	内　5YR3/3（暗赤褐） 外　7.5YR4/3（褐）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 武蔵甕 回転実測	カマド
31	土師器 甕	(18.2) - (5.6)	内　口縁ヨコナデ　ヘラナデ 外　口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	内　5YR4/3（にぶい赤褐） 外　7.5YR5/2（灰褐）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/3 武蔵甕 回転実測	Ⅰ区トレンチ
32	土師器 甕	(23.0) (9.2) (25.2)	内　口縁ヨコナデ　ナデ 外　ヨコナデ　胴部ヘラナデ（板目）　胴下部ヘラケズリ	内　5YR2/1（黒褐） 外　5YR5/4（にぶい赤褐）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/6 底部1/4 回転実測	Ⅰ区カマド
33	土師器 甕	(20.4) - (22.4)	内　ヘラナデ 外　ヨコナデ　ヘラケズリ	内　5YR6/6（橙） 外　5YR3/1（黒褐）	細長石・細石英粒子含む。	口縁～体部1/3 武蔵甕 回転実測	カマド Ⅰ区 Ⅳ区掘方



礫出土状況（南より）

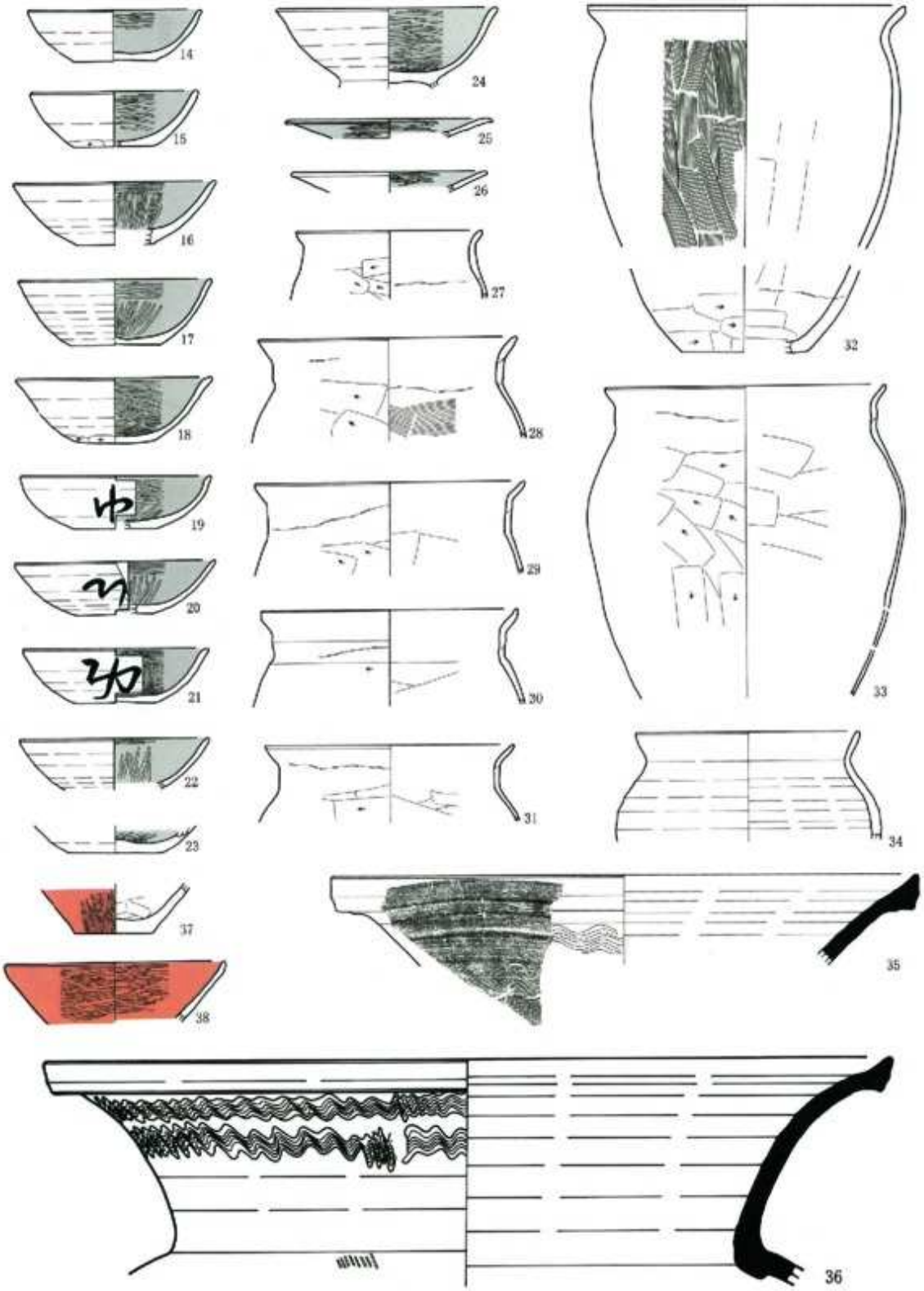
完掘（南より）

礫出土状況（南より）

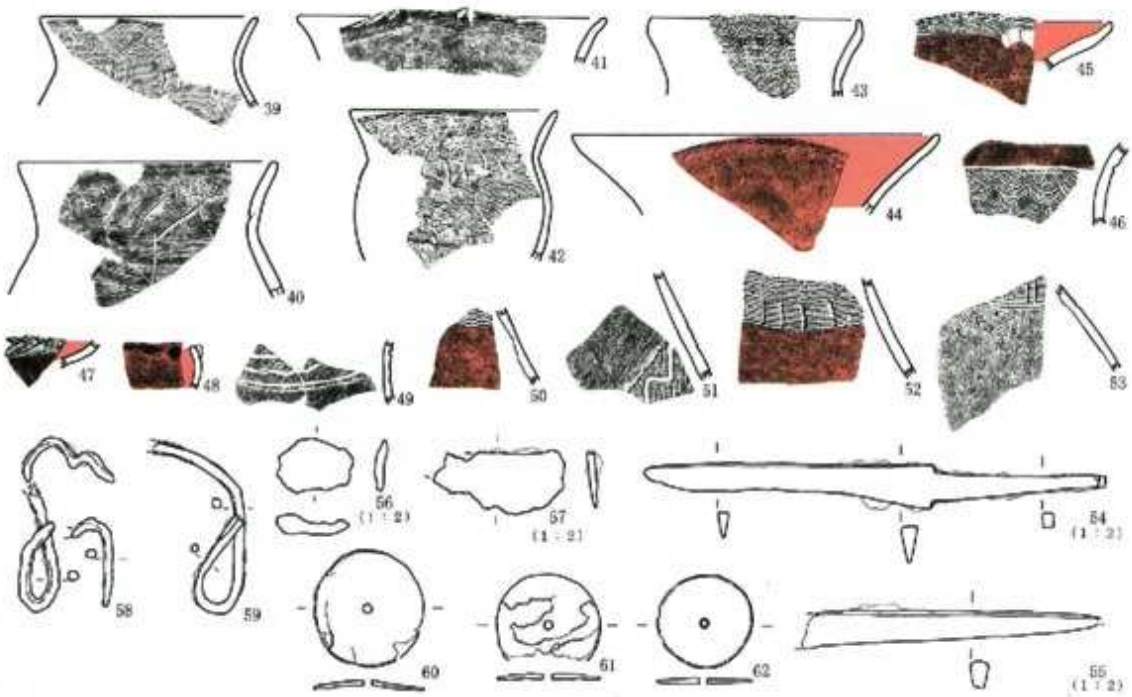
H37土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3)
小石、パミスを少量含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/2)
小石、パミス、砂ブロックを少量含む。
3. 暗褐色土層（10YR3/3)
砂ブロックを少量含む。
4. 黒褐色土層（10YR2/3)
小石、パミス、砂を多く含む。
5. 黒褐色土層（10YR2/2)
焼土、微化物粒子を含む。（カマド袖構築）
6. 暗褐色土層(10YR3/4)
焼土ブロック、炭化物を含む。
あまり火熱を受けていない。
7. 黒褐色土層(10YR2/3)
粘性あり。焼土ブロックを含む。
（カマド構築土）
8. 黒褐色土層（10YR2/3)
炭化物粒子を含む。
9. 暗褐色土層（10YR3/3)
砂ブロックを含む。（カマド廃棄）
10. 黒褐色土層(10YR2/2)
灰層まり。土器片が多く、炭化物を含む。
11. 暗褐色土層（10YR3/4)
砂を含む。（カマド廃棄）
12. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミス、砂ブロックを含む。（P1）
13. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂、パミスを含む。締まりあり。（貼床）
14. 黒褐色土層（10YR2/2)
砂を少し含み、粘土ブロックを微量に含む。
やや締りあり。（貼床）
15. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂ブロックが多量に混入。
16. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂ブロックを微量に含み、小石を含む。
17. 黒褐色土層(10YR2/2)
砂ブロックを微量に含み、小石を含む。
18. 暗褐色土層(10YR3/4)
砂ブロックが多量に混入。
19. 黒褐色土層(10YR2/2)
砂ブロックを少量含む。
20. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂を少量含む。（P2）

第3図　H37号住居址(1)



第4図　H37号住居址(2)



第5図　H37号住居址(3)

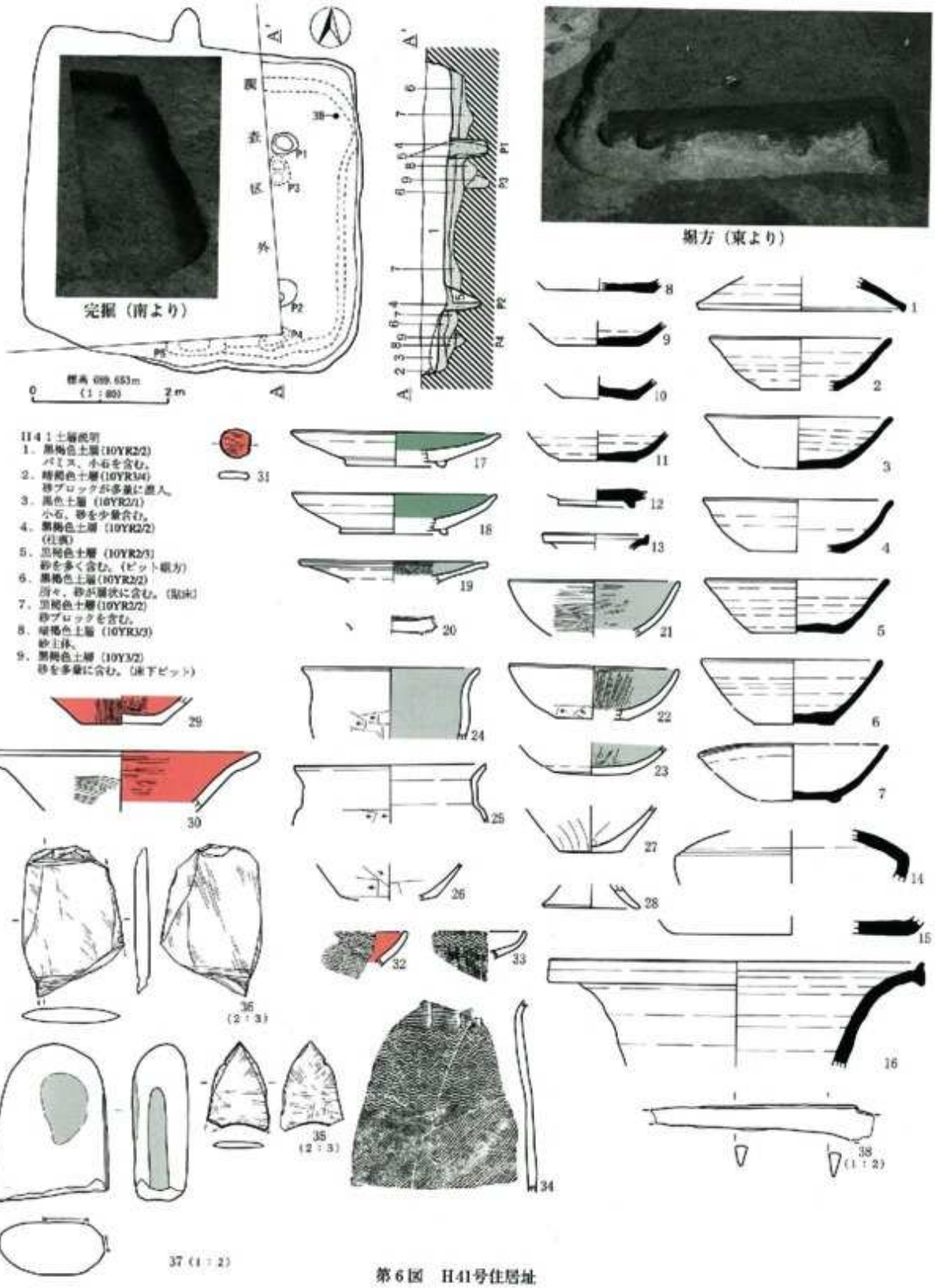
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
34	土釧器 甕	(16.2) ～ (7.9)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　7.5YR6/4（にぶい橙） 外　7.5YR7/6（橙）	細長石・細石英粒子含む。 ～3mm大白色粒子含む。	口縁1/4 回転実測	I区
35	短恵器 甕	(12.6) ～ (6.6)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　横描波状文	内　7.5Y4/1（灰） 外　7.5Y4/1（灰）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/10 回転実測	I区 IV区
36	短恵器 甕	(61.2) ～ (16.4)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　口縁横描波状文（6本）　体部平行タタキ	内　7.5Y4/1（灰） 外　5YR2/1（黒）	細長石・細石英粒子含む。 1～2mm大砂粒含む。	口縁1/3 回転実測	No.10・11・17 I区トレンチ
37	弥生 壺	～ 5.7 (3.6)	内　ナデ（一部指頭） 外　ミガキ　赤色塗彩　底部ヘラケズリ	内　2.5YR4/6（赤褐） 外　10R3/4（暗赤）	細石英・細長石粒子含む。	底部4/5 完全実測	III区堀方
38	弥生 鉢	(16.4) ～ (4.3)	内　ミガキ　赤色塗彩 外　ミガキ　赤色塗彩	内　10R4/6（赤） 外　10R4/6（赤）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 完全実測	IV区堀方
39	弥生 甕	13.0 ～ (5.4)	内　ミガキ 外　横描波状文　横描簾状文（8本）	内　7.5YR4/2（灰褐） 外　7.5YR4/2（灰褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	IV区堀方
40	弥生 甕	(15.4) ～ (8.0)	内　ナデ 外　横描波状文　横描簾線文　ヘラ描垂下文	内　7.5YR4/2（灰褐） 外　7.5YR5/3（にぶい褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/3 回転実測	IV区
41	弥生 甕	(18.2) ～ (2.7)	内　ヨコナデ 外　ヨコナデ　口縁部縄文	内　7.5YR4/2（灰褐） 外　7.5YR4/2（灰褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	焼焦 II区1層
42	弥生 甕	(12.4) ～ (8.9)	内　ミガキ 外　口縁・胴上部横描波状文 　　型部横描簾状文（10本1連止）	内　7.5YR4/2（灰褐） 外　7.5YR4/3（褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	カマド堀方 H39
43	弥生 甕	(12.2) ～ (4.7)	内　ミガキ 外　ヘラナデ（縦目）　口縁上部横描波状文（8本1組） 　　型部横描簾状文（1連止）	内　10YR7/3（にぶい黄橙） 外　10YR7/3（にぶい黄橙）	細石英、径1mm以下の長石含む。	口縁1/8 回転実測	I区
44	弥生 壺	(21.8) ～ (4.8)	内　ミガキ　赤色塗彩 外　ミガキ　赤色塗彩　口縁横描斜走文	内　10R4/8（赤） 　　口縁部7.5YR7/6（橙） 外　10R4/8（赤）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	検出 IV区、H38トレンチ II区2層

番号	器種	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
54	刀子	130.0	13.0	5.0	13.2	鉄製品。	No.5
55	刀子	87.0	9.0	5.0	13.7	鉄製品。茎欠損。	No.15
56	鎌	22.5	16.0	6.0	2.3	鉄製品。小片。	トレンチ
57	鎌	39.0	16.0	2.0	6.5	鉄製品。小片。	
58	鉄	280.0	5.0	5.0	26.5	鉄製品。屈曲している。	No.7
59	鉄	200.2	5.0	5.0	24.9	鉄製品。屈曲している。	No.8
60	鉄鎌車	－	69.0	3.0	29.4	鉄製品。	No.9
61	鉄鎌車	－	62.0	3.0	19.4	鉄製品。	No.9
62	鉄鎌車	－	57.0	3.0	21.0	鉄製品。	No.6
63	磨板石錘	19.0	10.0	3.5	0.6	断片。片沿	

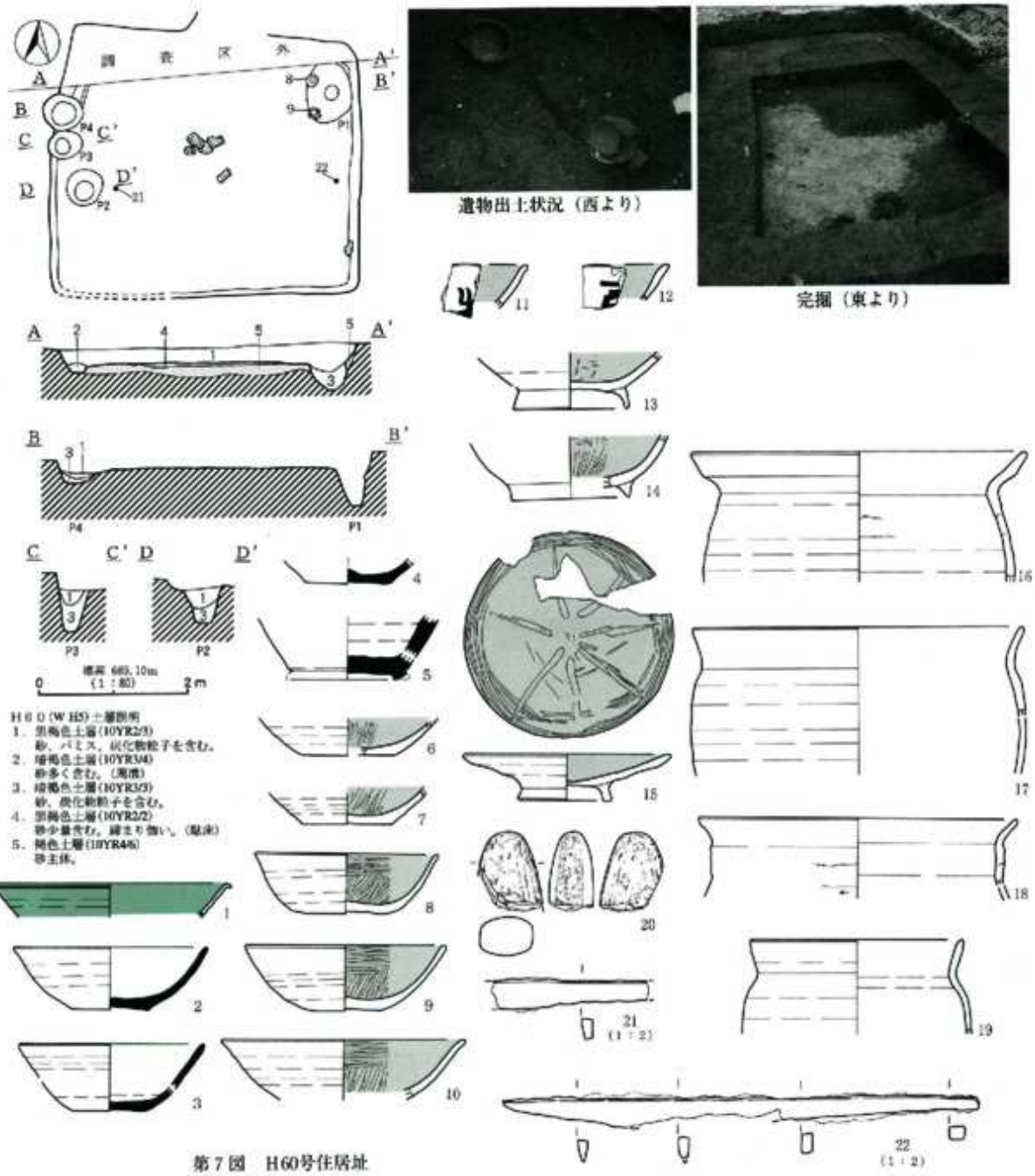
第3表 INPX H41号住所址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 蓋	(14.9) – (2.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 7.5Y5/1（灰） 外 7.5Y4/1（灰）	細石英・細長石粒子、0.5mm大砂粒含む。	口縁1/8 回転実測 火だすき内外	II区掘方
2	須恵器 杯	(13.6) (5.8) (3.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 7.5YR6/4（にぶい橙） 外 7.5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子、2～3mm大赤色粒子まれに含む。	底部1/3 回転実測	
3	須恵器 杯	14 (6.5) 3.9	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 10YR4/1（褐灰） 外 10YR4/1（褐灰）	1mm大白色粒子多く含む。	口縁1/2 完全実測	I区
4	須恵器 杯	(14.2) (7.0) (3.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 10YR5/1（褐灰） 外 7.5YR5/1（褐灰）	細石英・0.5mm大長石、砂粒含む。	底部1/3 回転実測 火だすき内外	掘方
5	須恵器 杯	(13.8) (7.0) 4.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 10YR6/1（褐灰） 外 10YR6/2（灰黄褐）	細石英・細長石粒子、1～2mm大砂粒含む。	底部完形 完全実測	II区掘方
6	須恵器 杯	(13.6) 6.0 4.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 10YR5/1（褐灰） 外 10YR6/2（灰黄褐）	1mm大白色粒子多く、1mm大砂粒含む。	底部完形 完全実測 火だすき内外	II区
7	須恵器 杯 (片口?)	14.2 (5.9) 3.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 10YR5/1（褐灰） 外 10YR5/1（褐灰）	1mm大白色粒子多く、1mm大砂粒含む。	口縁7/8 完全実測	I区 掘方
8	須恵器 杯	– (8.0) (1.1)	内 ロクロナデ 外 底部回転糸切り	内 10YR4/2（灰黄褐） 外 5Y4/1（灰）	緻密。	底部3/8 回転実測 火だすき内	
9	須恵器 杯	(6.3) (1.9)	内 ロクロナデ（磨滅） 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 5Y8/2（灰白） 外 5Y7/2（灰白）	緻密。	底部1/4 回転実測 [illegible]	I区
10	須恵器 杯	– (5.4) (1.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 2.5Y7/1（灰白） 外 2.5Y5/1（黄灰）	細石英・細長石粒子、1～3mm砂粒含む。	底部完形 完全実測	掘方
11	須恵器 杯	– (3.8) (2.3)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 5Y5/1（灰） 外 5Y5/1（灰）	細長石・細石英粒子含む。緻密。	底部1/2 回転実測	検出
12	須恵器 高台杯	– (5.6) (1.4)	内 ロクロナデ 外 底部回転糸切り→高台	内 5Y5/1（灰） 外 5Y5/1（灰）	細石英・細長石粒子含む。緻密。	底部5/12 回転実測 高台[illegible]	
13	須恵器 壺	(8.0) – (1.2)	内 ヨコナデ 自然釉付着 外 ヨコナデ 自然釉付着	内 10YR5/2（灰黄褐） 外 10YR5/2（灰黄褐）	緻密。	口縁1/12 回転実測	検出
14	須恵器 壺		内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR5/2（灰褐） 外 2.5YR5/4（にぶい赤褐）	細長石・細石英粒子含む。	上部1/8 回転実測	検出
15	須恵器 甕	– (18.4) (1.4)	内 ナデ 外 ヘラナデ	内 10YR5/2（灰黄褐） 外 10YR5/2（灰黄褐）	細長石・細石英粒子含む。	底部1/6 回転実測	II区
16	須恵器 甕	(20.8) – (7.9)	内 ロクロナデ自然釉付着 外 ロクロナデ自然釉付着	内 10YR5/1（褐灰） 外 10YR5/1（褐灰）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	検出
17	灰釉 皿	(15.6) (7.3) (2.6)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台	内 5Y7/2（灰白） 外 2.5Y7/2（灰黄）	緻密。	底部1/4 回転実測	I区掘方
18	灰釉 皿	(15.2) (7.9) (3.0)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→体部～底部回転ヘラケズリ→高台	内 5Y7/1（灰白） 外 2.5Y7/2（灰黄）	緻密。	底部1/8 回転実測	検出
19	土師器 皿	(14.1) – (1.7)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 7.5YR1.7/1（黒） 外 7.5YR6/4（にぶい橙）	細長石・細石英粒子含む。	口縁3/16 回転実測	
20	土師器 椀	–	内 ミガキ 黒色処理 外 底部糸切り→高台	内 7.5YR1.7/1（黒） 外 5YR6/6（橙）	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 回転実測、上板として転用か?	
21	土師器 杯	(12.8) – (4.2)	内 ミガキ 黒色処理 外 体部ヘラケズリ→ミガキ	内 10YR2/1（黒） 外 5YR6/8（橙）	細長石・細石英粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	検出
22	土師器 杯	(12.8) (5.3) (3.9)	内 ミガキ 黒色処理 外 ナデ→体部下端～底部 手持ヘラケズリ	内 5YR1.7/1（黒） 外 5YR6/6（橙）	細石英・細長石粒子、2mm大砂粒含む。	底部3/4 回転実測	
23	土師器 杯	– 5.7 (2.3)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 7.5YR1.7/1（黒） 外 7.5YR6/6（橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部7/8 完全実測 底部ヘラ記号	検出
24	土師器 鉢	16.1 – (5.3)	内 口縁ヨコナデ・ナデ 黒色処理 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR2/1（黒褐） 外 5YR5/8（明赤褐）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	1/5 回転実測	掘方
25	土師器 甕	(14.3) – (4.4)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR5/4（にぶい赤褐） 外 5YR5/6（明赤褐）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	掘方
26	土師器 甕	– (7.2) –	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR7/4（にぶい橙） 外 2.5YR5/4（にぶい赤褐）	細長石・細石英粒子、0.5mm大砂粒含む。	底部1/4 回転実測	掘方
27	土師器 甕	– 4.6 (3.5)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR6/6（橙） 外 7.5YR4/2（灰褐）	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	
28	土師器 台付甕	7.3 (1.8)	内 ナデ 外 ナデ	内 2.5YR4/4（にぶい赤褐） 外 5YR5/4（にぶい赤褐）	細長石・細石英粒子含む。	底部1/4 完全実測	I区
29	弥生 鉢	(6.0) (2.1)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/8（赤） 外 10R4/8（赤） 底 10R4/8（赤）	細長石・細石英粒子含む。	底部3/4 回転実測	II区
30	弥生 壺	(20.6) – (4.5)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 口縁ナデ 体部ヘラナデ（板目）	内 10R5/8（赤） 外 7.5YR7/3（にぶい橙）	細長石・細石英粒子、1mm大赤色、白色粒子含む。	口縁1/12 回転実測	検出
31	弥生 土板	2.1 2.2 0.45	内 ヘラナデ（板目） 外 ミガキ 赤色塗彩	内 5YR5/2（灰褐） 外 10R4/8（赤）	細長石・細石英粒子含む。	完全実測	

番号	器種	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
35	磨製石斧未製品	25.0	17.0	1.5	0.8	緑色片岩。左右側欠損	検出
36	磨製石斧分割剥片	42.0	28.0	4.0	6.7	凝灰岩。	
37	砥石	5.8	4.3	2.1	70.0	砂岩。部分的に研面あり。	II区
38	刀子	83.0	12.0	4.0	8.9		No.1


完掘（南より）
堀方（東より）
H41土層説明
1．黒褐色土層(10YR2/2)
パミス、小石を含む。
2．暗褐色土層(10YR3/4)
砂ブロックが多量に混入。
3．黒色土層（10YR2/1）
小石、砂を少量含む。
4．黒褐色土層（10YR2/2）
（柱痕）
5．黒褐色土層（10YR2/3）
砂を多く含む。（ピット堀方）
6．黒褐色土層(10YR2/2)
所々、砂が縞状に含む。（貼床）
7．黒褐色土層(10YR2/2)
砂ブロックを含む。
8．暗褐色土層（10YR3/3）
砂土様。
9．黒褐色土層（10YR3/2）
砂を多量に含む。（床下ピット）
0 (1：80) 2m
(2：3)
(1：2)

第6図　H41号住居址



第7図　H60号住居址

第4表　INPX　H60号住所址出土遺物一覧表

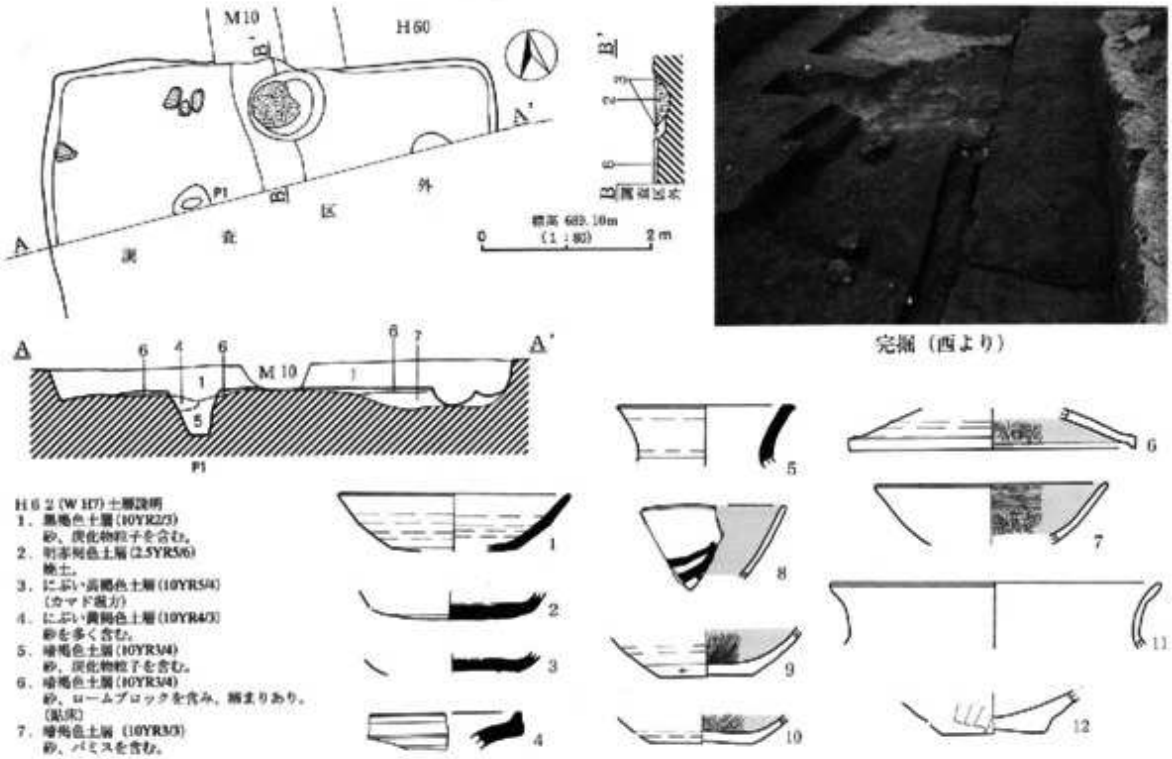
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	灰釉陶器 椀	(16.5) – (2.3)	内 ロクロナデ→施釉（ハケ塗） 外 ロクロナデ→施釉（ハケ塗）	内 5Y8/1（灰白） 外 7.5Y6/1（浜）	緻密。	口縁1/8 回転実測	周辺
2	須恵器 杯	13.2 5.3 4.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 2.5Y6/1（黄灰） 外 2.5Y7/1（浜白）	細石英・雲母石粒子、まれに1mm大砂粒含む。	口縁1/2 完全実測	
3	須恵器 杯	(12.6) (5.0) (4.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 右回転糸切り	内 2.5Y7/3（浅黄） 外 2.5Y7/3（浅黄）	細石英・雲母石粒子含む。まれに1mm大砂粒含む。	底部1/2 完全実測	周辺
4	須恵器 杯	– (6.0) (1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 5Y7/1（灰白） 外 2.5Y4/1（黄灰）	細石英・細長石粒子、まれに1mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測	
5	須恵器 壺	–	内 ロクロナデ 外 ナデ 高台大半欠損	内 2.5GY4/1（暗オリーブ灰） 外 2.5GY4/1（暗オリーブ灰）	0.5mm大石英・細長石粒子、1・2mm大砂粒含む。	底部端部欠損 回転実測	

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
6	土師器 杯	– (6.6) (2.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部1/4 回転実測	
7	土師器 杯	– (6.2) (2.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部5/8 回転実測	周辺
8	土師器 杯	12.5 6.6 4.1	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り（一部ヘラケズリ）	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 5YR5/8 (明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。1~3mm大砂粒まれに含む。	口縁7/8 完全実測	No.1
9	土師器 杯	13.7 5.1 4.4	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。1mm大砂（赤色）粒子含む。	口縁3/4 完全実測	No.2 H61 II区
10	土師器 椀	(16.6) – (4.1)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	周辺
11	土師器 杯	–	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	破片実測 墨書	
12	土師器 杯	–	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1~2mm大砂粒含む。	破片実測 墨書	P1
13	土師器 椀	– 7.9 (3.8)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部回転糸切り→高台	内 2.5Y4/1 (黄灰) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部3/4 完全実測	P1 H61 II区
14	土師器 椀	– 8.0 (4.2)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→高台	内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部1/8 回転実測	
15	土師器 皿	14.2 6.3 3.2	内 口縁ミガキ 暗文 黒色処理 外 ロクロナデ 底部回転糸切り→高台	内 5YR2/1 (赤黒) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	ほぼ完形 完全実測	P1
16	土師器 甕	(22.8) – (8.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	周辺
17	土師器 甕	(22.4) – (10.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	周辺
18	土師器 甕	(21.6) – (6.5)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	周辺
19	土師器 甕	(14.4) – (6.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁3/10 回転実測	

番号	器種	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
20	両刃石斧断片	54.0	43.0	30.0	107.9	緑色岩類。刃部欠損・器体破損、基部断片。	
21	刀子	(53.5)	10.0	5.0	5.4	鉄製品。	No.4
22	刀子	161.0	9.0	5.0	18.0	鉄製品。	No.3

第5表 INP X H62号住所址出土遺物一覧表

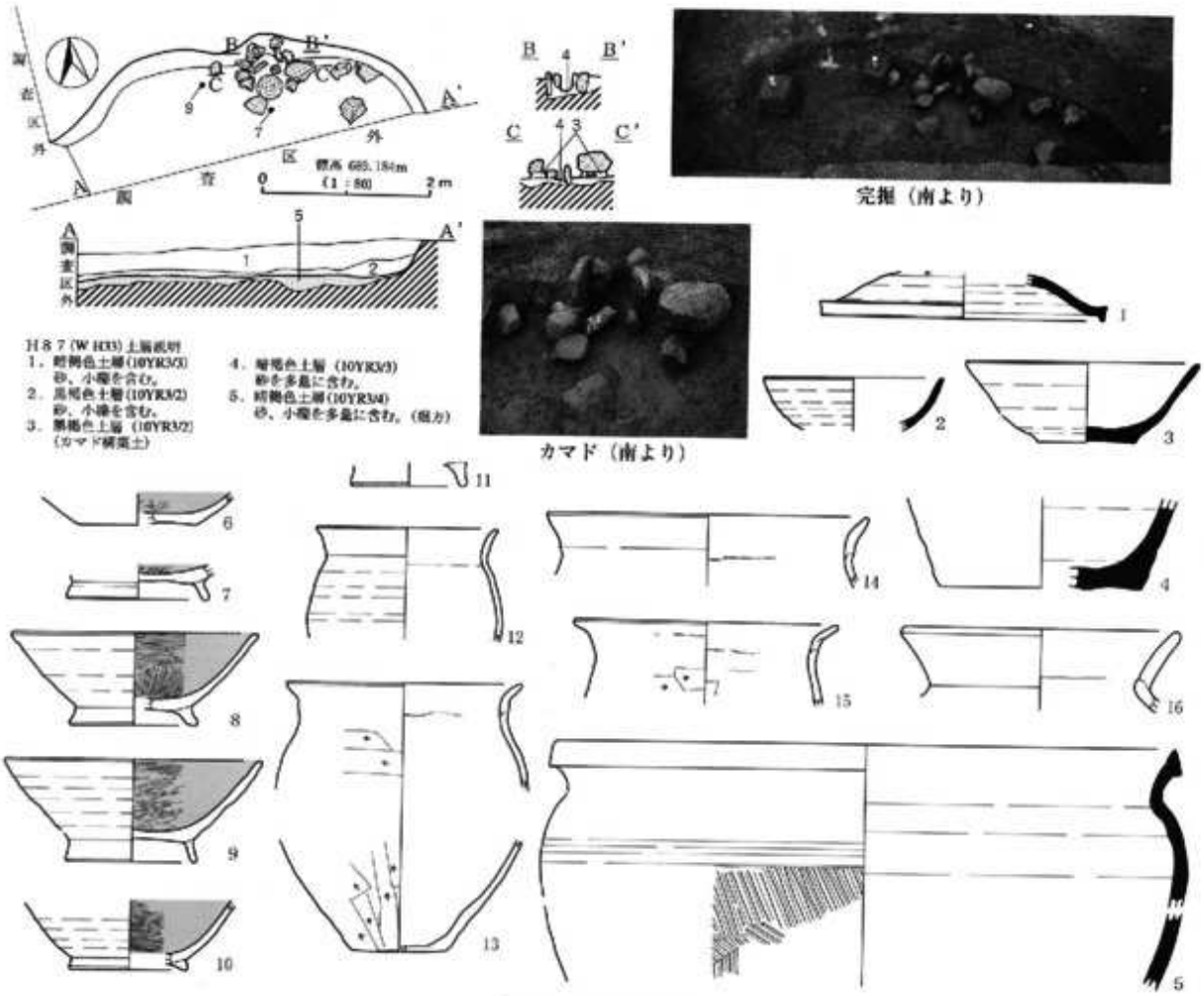
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	(13.7) (7.4) (3.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内 10Y4/1 (灰) 外 5Y5/1 (灰)	細石英・細長石粒子、1~3mm大砂粒含む。	口縁1/4 回転実測	
2	須恵器 杯	– 7.8 (1.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転ヘラケズリ	内 5Y8/4 (淡黄) 外 5Y8/3 (淡黄)	細石英・細長石粒子、7mmの小石含む。	底部3/4 完全実測	
3	須恵器 有台杯	–	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転ヘラケズリ→高台欠損	内 5Y5/1 (灰) 外 5Y5/1 (灰)	細石英・細長石粒子含む。1mm大砂粒含む。	底部3/4 回転実測	
4	須恵器 甕	–	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 内外自然釉付着	内 7.5YR2/1 (黒) 外 7.5YR2/1 (黒) 断 7.5YR4/2 (灰褐)	1mm大長石・石英粒子含む。	口縁 破片	
5	須恵器 盌	(10.6) – (3.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5Y5/1 (灰) 外 2.5Y5/1 (黄灰) 断 5YR5/3 (にぶい赤褐)	0.5mm大長石粒子多く含む。	口縁1/8 回転実測	
6	土師器 蓋	(16.0) – (2.4)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	内 5YR1.7/1 (黒) 外 5YR6/8 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	
7	土師器 杯	(13.8) – (3.6)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	
8	土師器 杯	–	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁破片 破片実測 墨書	
9	土師器 杯	– (6.4) (2.8)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→杯下端~底部右回転ヘラケズリ	内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR6/8 (橙)	~1mm大細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測	
10	土師器 杯	– 6.0 (1.8)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 5YR1.7/1 (黒) 外 5YR6/8 (橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒まれに含む。	底部完形 完全実測	
11	土師器 甕	(19.6) – (3.9)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測 武蔵甕	
12	土師器 甕	– 6.1 (2.4)	内 ナデ 外 ナデ 底部周辺ヘラケズリ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm大細石英・細長石粒子多く含む。	底部完形 完全実測	



第8図　H62号住居址

第6表　INPX　H87号住所址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 盌	(16.2) – (2.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→天井部右回転ヘラケズリ	内 5Y5/1（灰） 外 10Y86/1（褐灰）	細石英・細長石、1mm大白色粒子含む。	口縁1/5 回転実測 大だすき	覆方
2	須恵器 杯	(19.8) – (3.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5Y7/1（灰白） 外 5Y7/1（灰白）	細石英・細長石粒子、まれに1mm大砂粒含む。	口縁1/5 回転実測	覆方
3	須恵器 杯	(14.0) 5.9 4.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 5Y6/1（灰） 外 5Y5/1（灰）	細石英・細長石粒子、まれに1mm大砂粒含む。	底部完形 完全実測	覆方
4	須恵器 壺	– (12.0) (5.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 自然釉付着	内 N2/（黒） 外 N2/（黒）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部1/6 回転実測	
5	須恵器 甕	(37.0) – (14.3)	内 ロクロナデ 外 体部叩き目→ロクロナデ	内 7.5Y5/1（灰） 外 7.5Y5/1（灰）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/8 回転実測	
6	土師器 杯	– (7.0) (1.9)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 7.5YR4/2（灰褐） 外 7.5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/5 回転実測	
7	土師器 椀	– 8.3 (2.1)	内 ミガキ 黒色処理 外 底部回転糸切り→高台	内 7.5YR2/1（黒） 外 7.5YR6/3（にぶい褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	No.1
8	土師器 椀	(14.8) (7.6) (5.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→高台	内 7.5YR2/1（黒） 外 7.5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。1mm大赤色粒子含む。	口縁5/16 回転実測	H83埋出
9	土師器 椀	(15.4) 7.8 6.1	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部回転糸切り→高台	内 2.5YR3/1（暗赤灰） 外 2.5YR5/4（にぶい赤褐）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/2 完全実測	No.2
10	土師器 椀	– (7.1) (4.2)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→高台	内 7.5YR1.7/1（黒） 外 7.5YR5/3（にぶい褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/5 回転実測	
11	土師器 椀（高台）	– 6.9 (1.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 7.5YR7/4（にぶい橙） 外 7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	
12	土師器 甕	(10.8) – (6.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR2/1（黒褐） 外 5YR4/1（褐灰）	細石英・細長石含む。	口縁1/4 回転実測	覆方
13	土師器 甕	(14.0) (5.6) (12.0)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR5/4（にぶい赤褐） 外 5YR5/2（灰褐）	細石英・細長石含む。	底部1/5 口縁3/8 回転実測	
14	土師器 甕	(19.2) – (4.2)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	内 5YR5/3（にぶい赤褐） 外 5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石含む。	口縁3/16 回転実測	
15	土師器 甕	(15.8) – (4.8)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR6/4（にぶい橙） 外 5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石含む。	口縁1/8 回転実測	
16	土師器 甕	(16.8) – (4.9)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	内 5YR5/4（にぶい赤褐） 外 7.5YR6/3（にぶい褐）	細石英・細長石含む。	口縁1/3 回転実測 重入品	



完掘（南より）

カマド（南より）

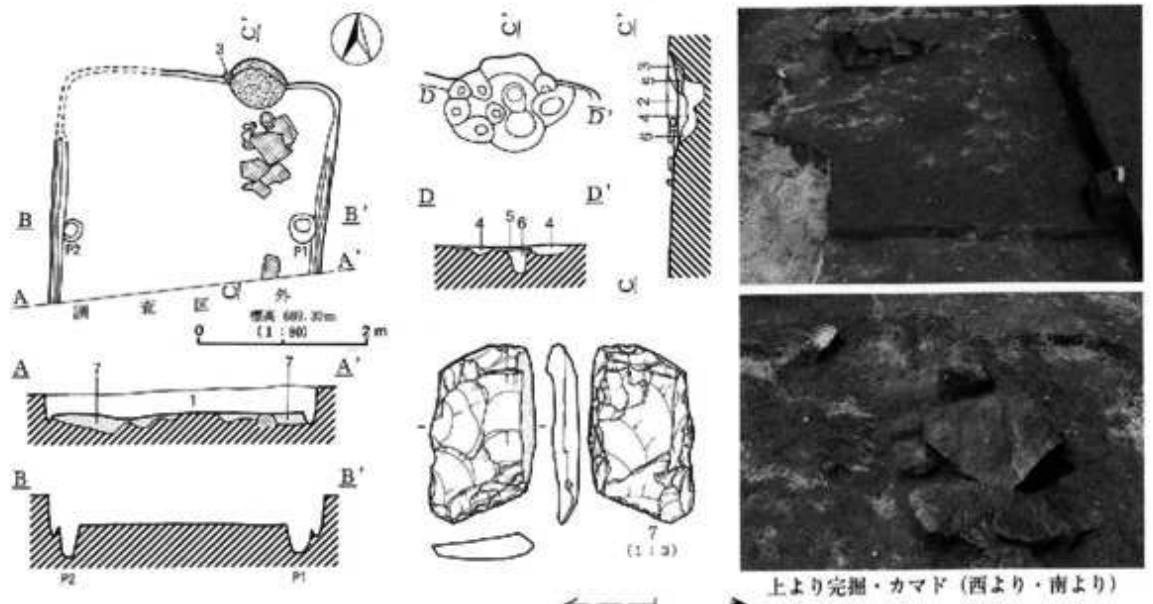
H87（W H33）土層説明
1．暗褐色土層（10YR3/3）
砂、小礫を含む。
2．黒褐色土層（10YR3/2）
砂、小礫を含む。
3．黒褐色土層（10YR3/2）
（カマド構築土）
4．暗褐色土層（10YR3/3）
砂を多量に含む。
5．暗褐色土層（10YR3/4）
砂、小礫を多量に含む。（焼力）

第9図　H87号住居址

第7表　INPX　H90号住所址出土遺物一覧表

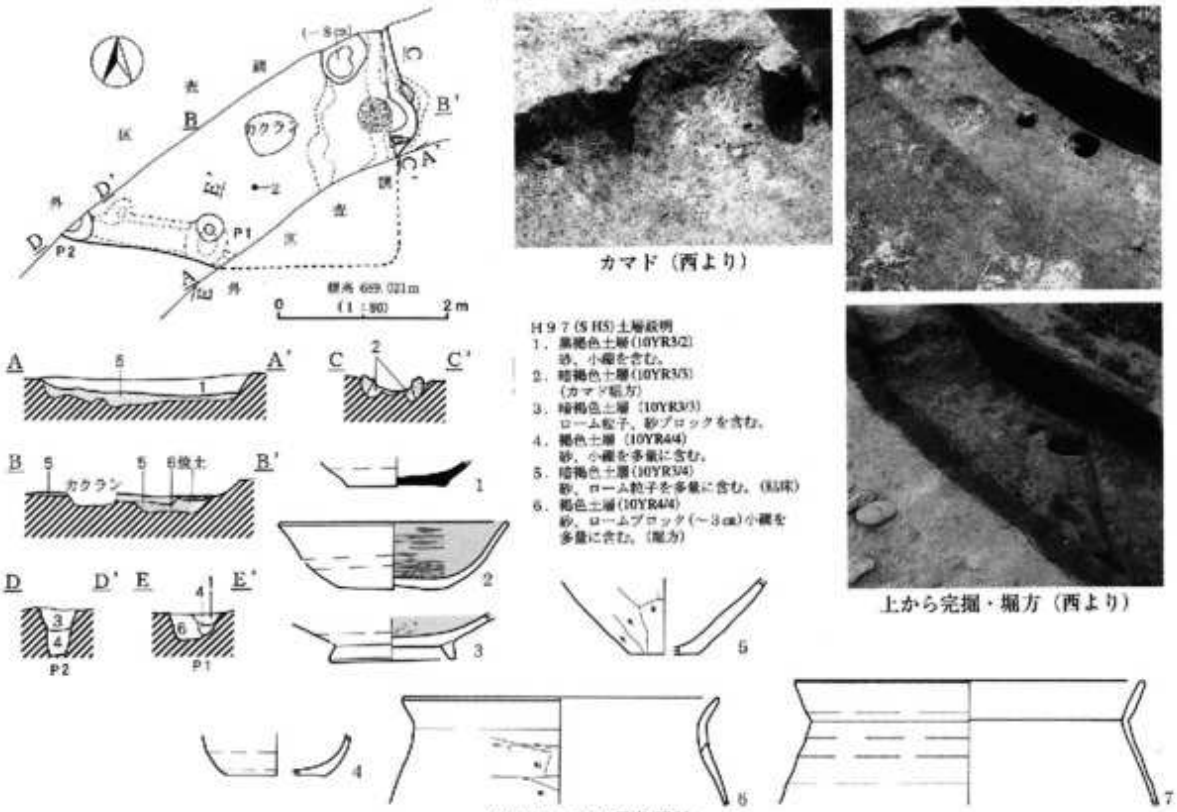
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 蓋	(15.0) — (2.1)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　N4/（灰） 外　N4/（灰）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/10 回転実測 火だすき痕	
2	須恵器 杯	— (6.2) (2.3)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部回転糸切り	内　10YR7/1（灰白） 外　10YR7/1（灰白）	細石英・細長石粒子、1mm～2mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測	
3	須恵器 杯	13.2 6.9 3.5	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り　火だすき痕	内　2.5GY4/1（暗オリーブ灰） 外　2.5GY5/1（オリーブ灰）	細石英・細長石粒子含む。 砂粒含む。	2/3 完全実測 火だすき痕	No.1
4	須恵器 杯	— (6.0) (1.2)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　2.5Y6/1（黄灰） 外　10YR5/1（褐灰）	細石英・細長石粒子、1mm～2mm大砂粒含む。	底部2/3 回転実測	
5	土師器 椀	(17.8) — (4.0)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　10YR1.7/1（黒） 外　10YR6/4（にぶい黄橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	
6	土師器 杯	— 7.0 (1.9)	内　ロクロナデ　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部回転糸切り	内　5YR2/1（黒褐） 外　5YR6/6（橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	

番号	器種	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
7	打製石斧	79.0	47.0	12.0	55.1	ホルンフェルス。刃部縁辺整形加工直後、器体加工直後。	



上より完掘・カマド（西より・南より）

第10図　H90号住居址



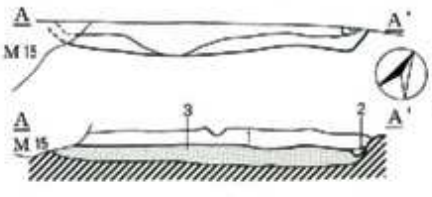
カマド（西より）

上から完掘・堀方（西より）

第11図　H97号住居址

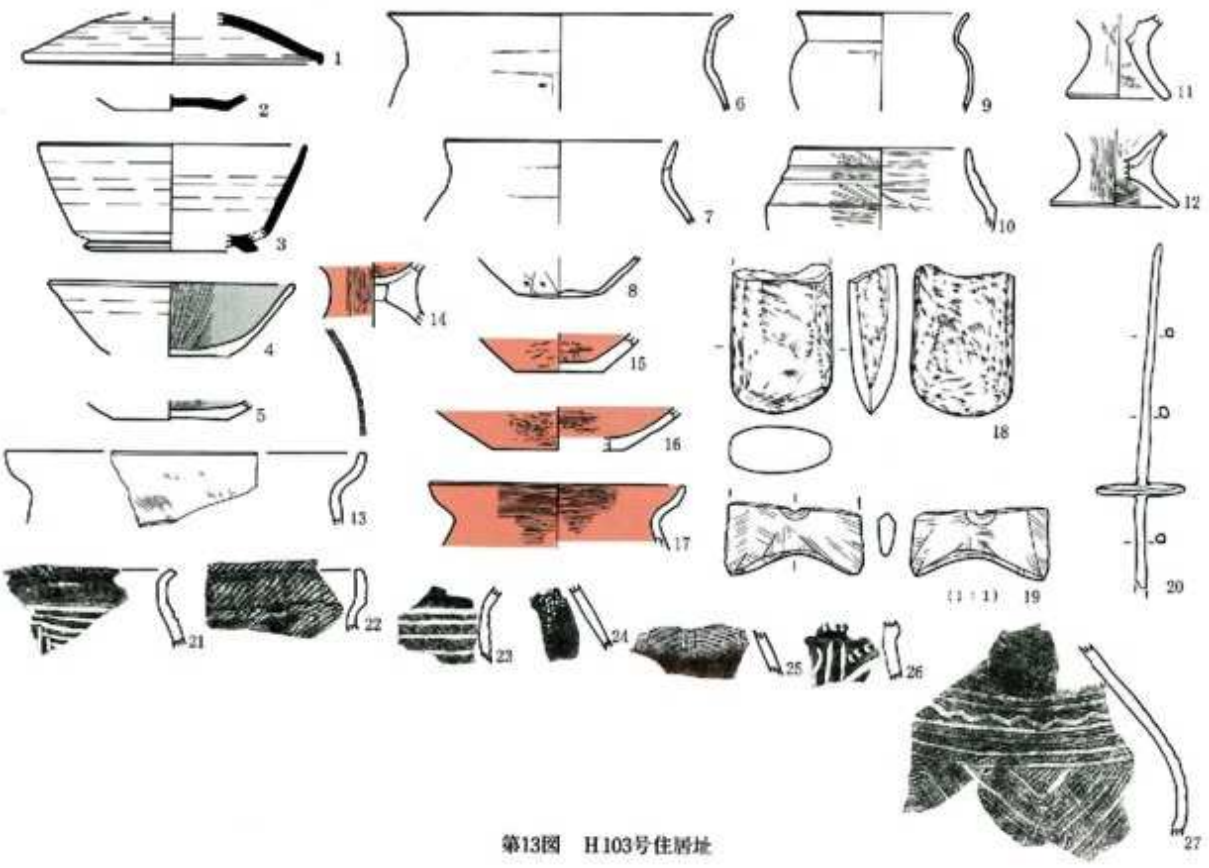
第８表　INPX　H97号住所址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	－ (15.6) (1.5)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　2.5Y5/1（黄灰） 外　2.5Y5/1（黄灰）	細石英粒子やや多く、長石粒子含む。	底部1/2 回転実測	
2	土師器 杯	(13.6) 6.4 4.0	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　2.5Y3/1（黒） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/2 完全実測	No.1
3	土師器 鉢	－ 7.4 (2.7)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→高台	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　5YR7/6（橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	カマド堀方
4	土師器 小型甕	－ (5.8) (2.5)	内　ナデ 外　ロクロナデ　底部回転糸切り	内　7.5YR4/3（褐） 外　7.5YR4/3（褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	カマド堀方
5	土師器 甕	－ (4.1) (4.5)	内　ヘラナデ 外　ヘラケズリ	内　7.5YR4/4（褐） 外　10YR3/1（黒褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 回転実測	
6	土師器 甕	(18.8) － (6.4)	内　口縁ヨコナデ　体部ナデ 外　口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ	内　5YR5/4（にぶい赤褐） 外　7.5YR6/3（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	
7	土師器 甕	(20.8) － (7.4)	内　ヨコナデ 外　ロクロナデ	内　7.5YR6/4（にぶい橙） 外　7.5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/3 回転実測	

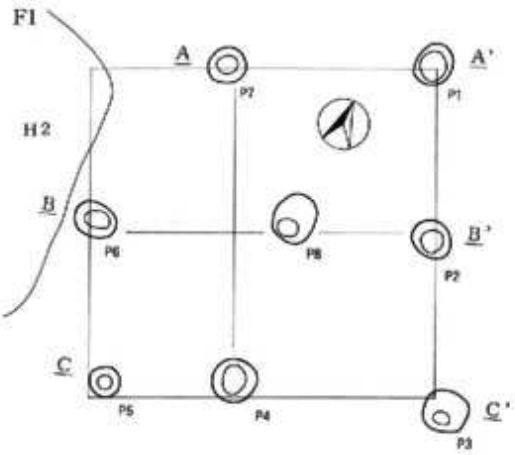


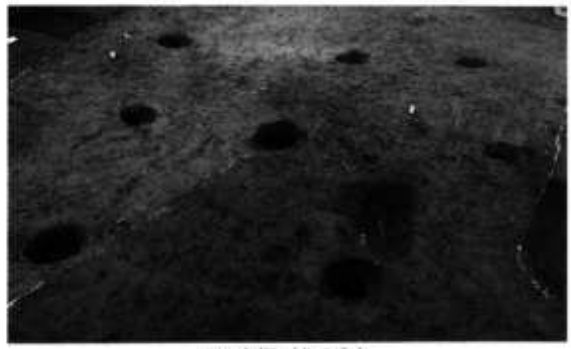
堀方（南より）

第12図　H99号住居址

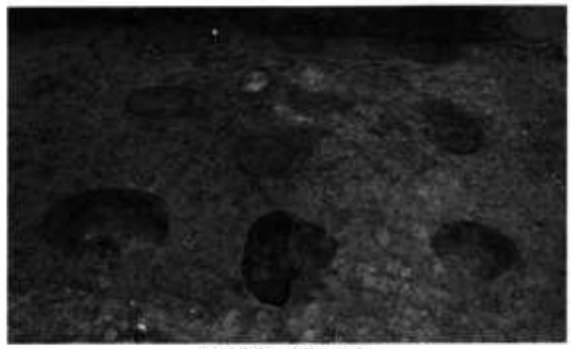


第13図　H103号住居址

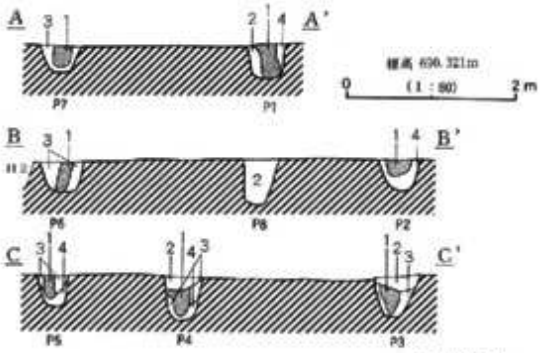




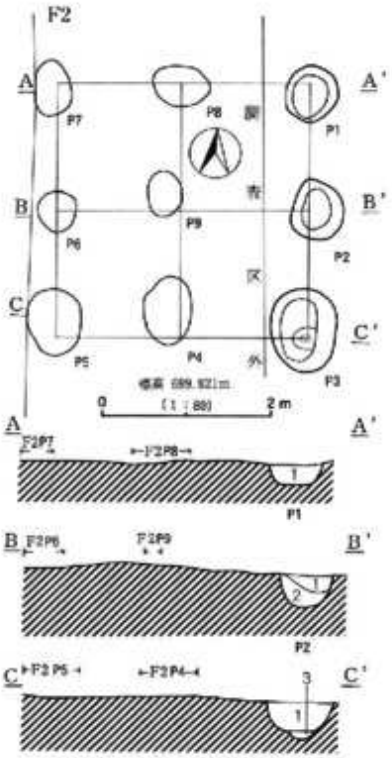
F1 完掘（北より）



F2 完掘（東より）

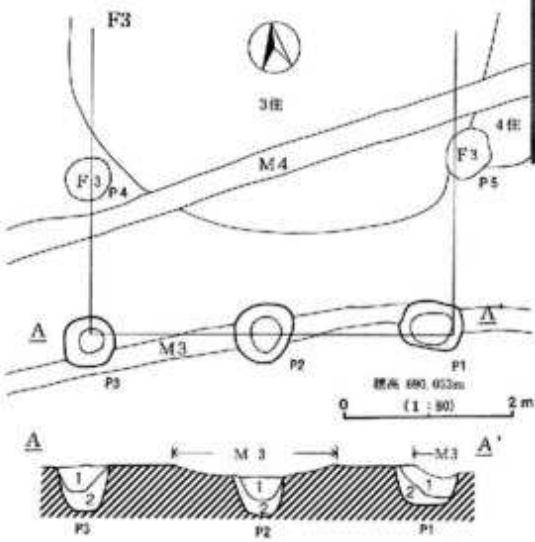


F3 完掘（西より）



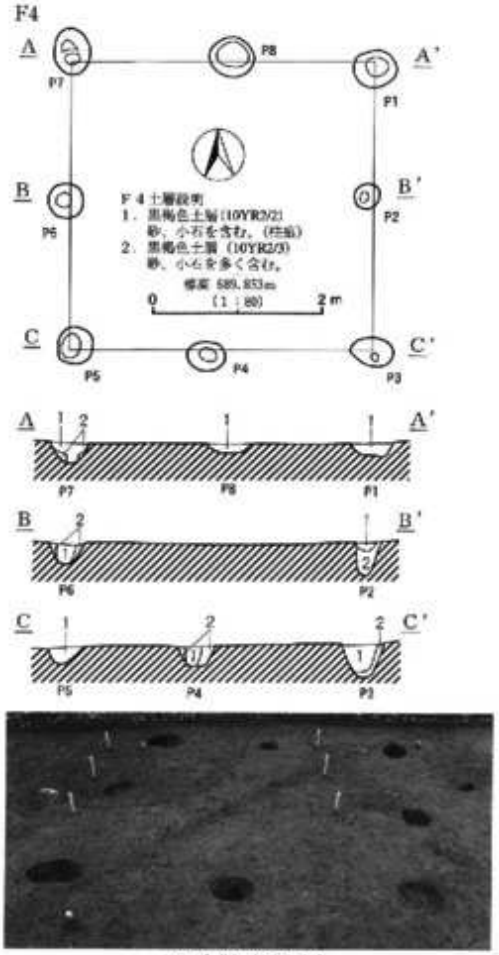
F1土層説明
1．黒褐色土層(10YR2/2)
（柱痕）
2．黒褐色土層(10YR2/3)
砂、小石を含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）
砂、小石を多く含む。
4．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
砂主体。

F2土層説明
1．暗褐色土層(10YR3/3)
パミス、砂を少量含む。
2．暗褐色土層(10YR3/4)
パミスを多く含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）

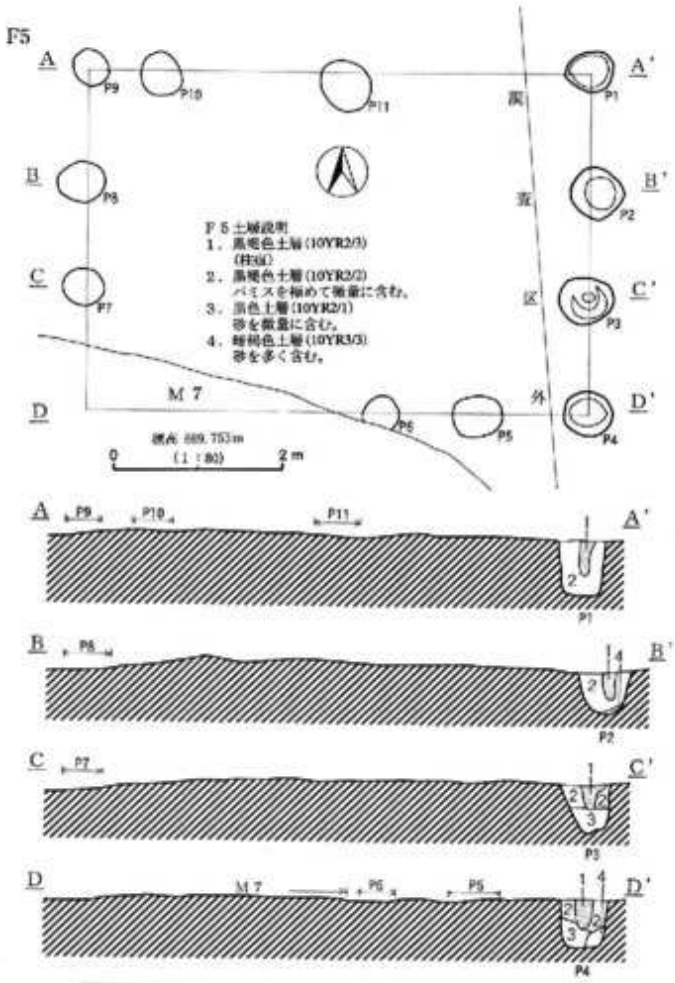


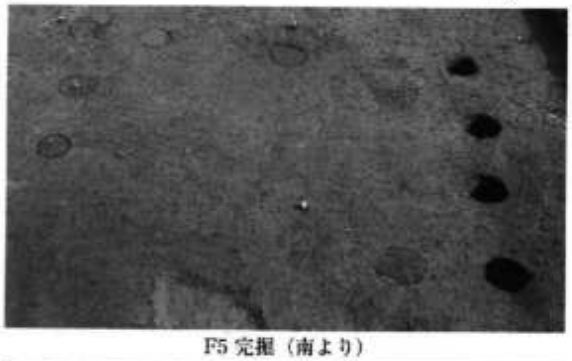
F3土層説明
1．黒褐色土層(10YR2/2)
砂、小石を含む。
2．黒褐色土層(10YR2/3)
砂ブロックを多く含む。

第14図　F1～3号掘立柱建物址

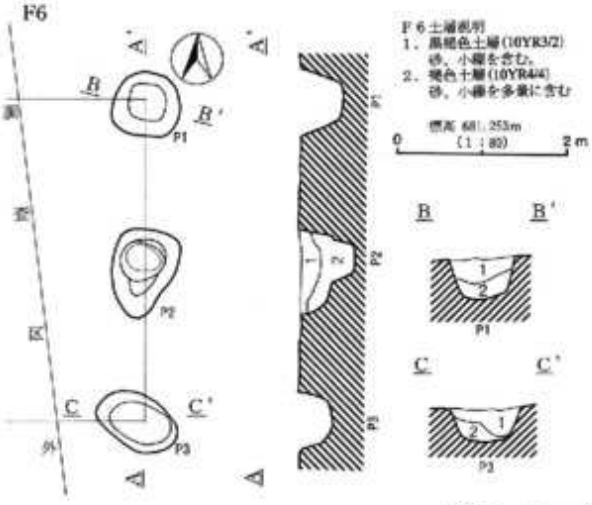


F4 完掘（西より）





F5 完掘（南より）

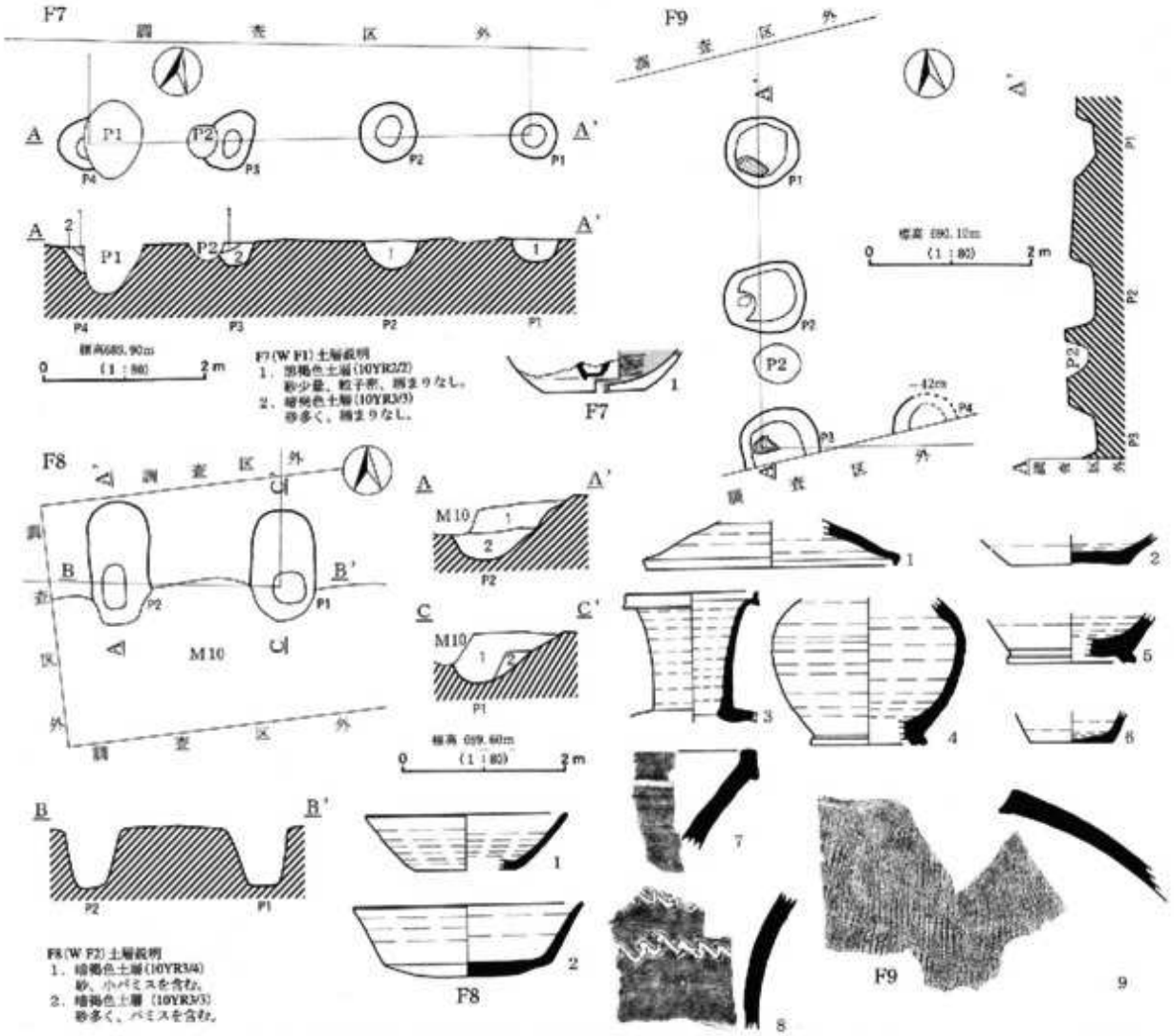


F6 完掘（南より）

第15図　F４～６号掘立柱建物址

第９表　INPX　F８号掘立柱建物址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・重さ	出土位置
1	須恵器 杯	(12.5) (6.2) 3.5	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5Y6/1（灰） 外 5Y6/1（灰）	0.5mm大長石粒子，1mm大 砂粒含む．	1/5 同転実測	P1
2	須恵器 杯	(14.4) (10.4) 4.4	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部ヘラキリ→ヘラナデ	内 2.5Y7/1（灰白） 外 2.5Y7/1（灰白）	細石英・細長石粒子，まれに 1mm大砂粒含む．	底部完形 口縁1/3 回転実測	P2



F7 完掘（南より）

F8 完掘（南より）

F9 完掘（南より）

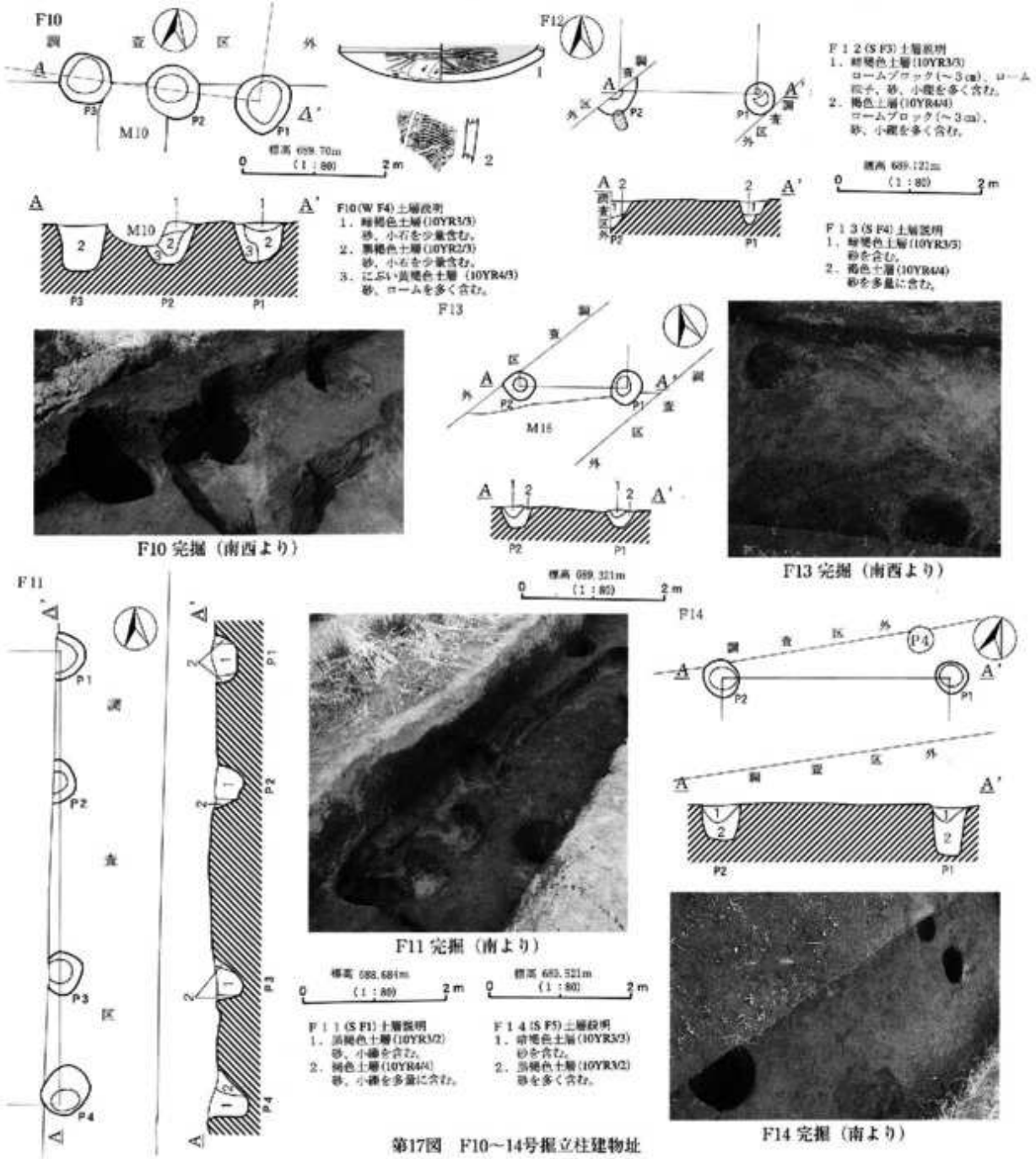
第16図　F７～９号掘立柱建物址

第10表　INPX　F７号掘立柱建物址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	－ (6.4) (2.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部ヘラケズリ	内 10YR1.7/1（黒） 外 2.5YR5/6（明赤褐）	粗長石・細石英粒子、 1～3mm大赤色粒子含む。	底部1/2 回転実測 墨書	P2

第11表　INPX　F９号掘立柱建物址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 蓋	(15.6) － (2.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5Y6/2（灰オリーブ） 外 5Y6/2（灰オリーブ）	粗長石・細石英粒子、1mm 大砂粒まれに含む。	口縁1/8 回転実測	
2	須恵器 杯	－ (7.5) (1.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部右回転糸切り	内 5Y7/1（灰白） 外 5Y6/1（灰）	粗長石・細石英粒子、1・2・ 5mm大砂粒含む。	底部2/3 回転実測	P4
3	須恵器 壺蓋or	(8.4) － (8.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5Y5/1（灰） 外 N5/（灰）	粗長石・細石英粒子含む。	口縁1/2 回転実測	P3

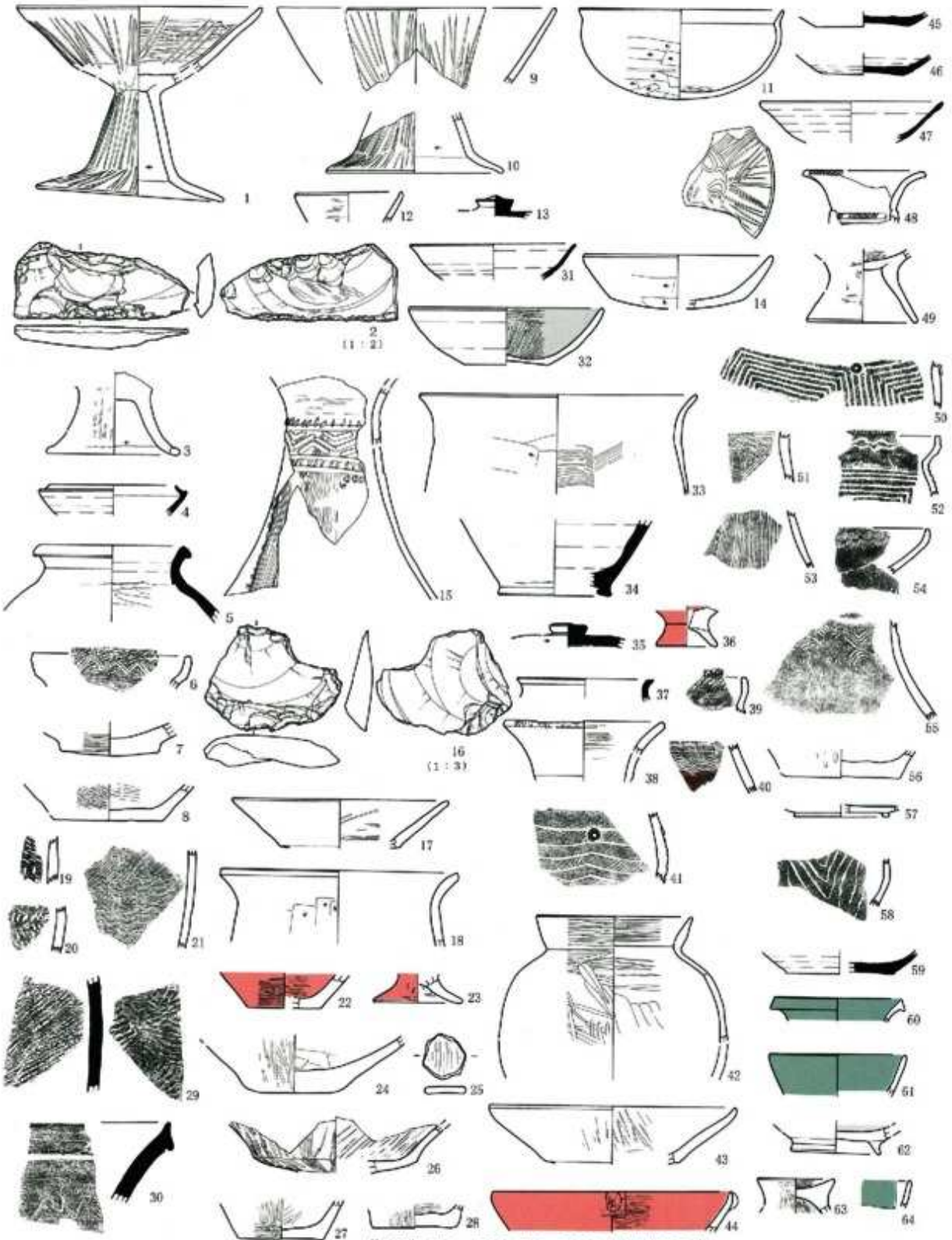


第17図　F10～14号掘立柱建物址

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
4	頭虫器 壺	－ (7.2) (9.1)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　自然釉付着→高台	内　N3/（灰） 外　N3/（暗灰）	雄長石・細石英粒子含む。	体部～底部1/4 回転実測	P3 P4
5	頭虫器 壺	－ (5.0) (3.1)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→高台	内　N3/（灰） 外　N3/（暗灰）	雄長石・細石英粒子、1mm大砂粒まれに含む。	底部1/4	
6	頭虫器 小瓶	－ (5.2) (1.9)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部回転糸切り	内　2.5Y5/1（黄灰） 外　5Y6/1（灰）	雄長石・細石英粒子含む。 1mm大砂粒少量含む。	底部1/3 回転実測	P3

第12表　INPX　F10号掘立柱建物址出土遺物一覧表

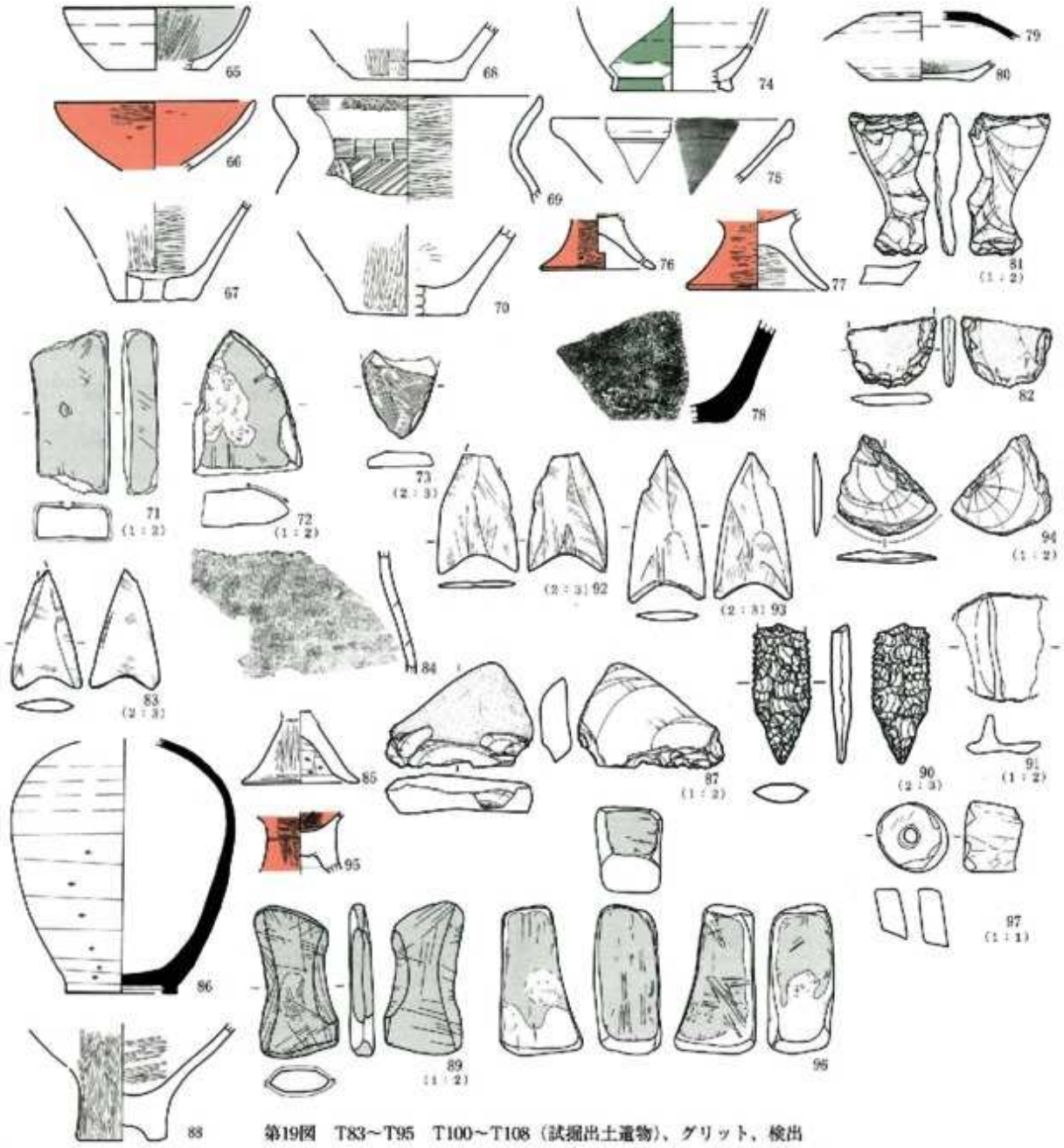
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	－ (14.4) (2.5)	内　ミガキ　黒色処理 外　ヘラケズリ→ミガキ	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　7.5YR5/3（にぶい褐）	雄長石・細石英粒子、 1～3mm大赤色粒子含む。	底部1/4 回転実測	P3



第18図　T 1 ～T86　T97～T106（試掘出土遺物）

第13表　INPX　試掘・グリット・表採出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 高杯	18.6 (14.2) 14.5	内　杯部ナデ→暗文 脚部ナデ→ヘラケズリ 外　口縁ナデ→脚部ヘラケズリ→脚部ヘラナデ(縦目)→全体　暗文	内　5YR6/6（橙） 外　5YR6/6（橙）	0.5mm大長石・石英粒子 1mm大赤色粒子含む。	口縁7/8 完全実測	試掘1
番号	器種	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
2	削器	20.0	67.0	8.0	18.3	頁岩。刃部刃こぼれ、刃部縁辺整形加工あり、器体加工研磨。	試掘8－1
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
3	土師器 高杯	－ (10.1) (6.2)	内　杯　ミガキ　黒色処理 脚部ヨコナデ→ヘラケズリ 外　ミガキ	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　5YR7/6（橙）	細石英・細長石粒子含む。 1・3mm大赤色粒子含む。	底部1/16 回転実測	試掘11
4	須恵器 杯	(9.6) (11.2) (2.3)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　5Y4/1（灰） 外　5Y4/1（灰）	細長石・細石英粒子含む。 緻密。	口縁1/8 回転実測	試掘23
5	須恵器 短頸壺	(10.8) － (5.8)	内　体部ナデ→口縁ヨコナデ 外　口縁ヨコナデ　胴部ナデ	内　7.5Y5/1（灰） 外　7.5Y4/1（灰）	細石英・細長石粒子、1mm大黒色粒子含む。	口縁3/10 回転実測	試掘25
6	弥生 甕	(12.0) － (2.5)	内　ミガキ 外　口唇部縄文　口縁部縄文→櫛描山形文	内　7.5YR6/4（にぶい橙） 外　10YR6/4（にぶい黄橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	試掘30
7	土師器 甕	－ (7.4) (2.5)	内　ナデ 外　ミガキ	内　7.5YR6/4（にぶい橙） 外　7.5YR1.7/1（黒）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	試掘30
8	弥生 壺	－ 8.2 (2.8)	内　ヘラナデ（縦目） 外　ミガキ	内　10YR7/3（にぶい黄橙） 外　10YR7/4（にぶい黄橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部3/4 完全実測	試掘30
9	土師器 高杯	(21.2) － (6.3)	内　ナデ→暗文 外　ナデ→暗文	内　5YR4/3（にぶい赤褐） 外　5YR4/2（灰褐）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/12 回転実測	試掘33
10	土師器 高杯	－ (13.4) (4.6)	内　裾部ナデ　脚部ヘラケズリ 外　ナデ→暗文	内　2.5YR5/6（明赤褐） 外　2.5YR5/6（明赤褐）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部7/12 回転実測	試掘33
11	土師器 杯	(15.6) － 6.8	内　ナデ→ミガキ 外　底部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内　10YR5/4（にぶい黄褐） 外　7.5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	試掘33
12	土師器 小型丸底壺	(8.2) － (2.3)	内　ナデ 外　ミガキ　赤色塗彩？	内　2.5YR5/4（にぶい赤褐） 外　2.5YR5/4（にぶい赤褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	試掘33
13	須恵器 蓋	－	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→つまみ貼付	内　7.5YR4/1（褐灰） 外　7.5YR4/1（褐灰）	1mm大長石・細石英粒子含む。	つまみ 完全実測	試掘33
14	土師器 杯	(14.4) (10.2) (3.6)	内　ナデ→畿内系暗文 外　口縁ヨコナデ→体部手持ヘラケズリ	内　7.5YR7/4（にぶい橙） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石、1mm大赤色粒子含む。	口縁1/6 回転実測	試掘33
15	弥生 壺		内　ナデ 外　口縁ミガキ　頸部ヘラ描横刺突文 ヘラ描平行線文 ヘラ描山形文　胴上部懸垂文	内　7.5YR7/4（にぶい橙） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	頸部3/4 回転実測	試掘38
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
16	掻器	60.0	77.0	14.0	62.1	安山岩。刃部縁辺整形加工丁寧、急角度の刃部加工のため、掻器と分類した。	試掘40
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
17	土師器 杯	(16.2) － (3.7)	内　ナデ→ミガキ 外　口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	内　7.5YR7/6（橙） 外　7.5YR7/6（橙）	細石英・細長石粒子、1～3mm大砂粒含む。	口縁1/5 回転実測	試掘42
18	土師器 甕	(18.0) － (5.6)	内　口縁ヨコナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　7.5YR7/6（橙） 外　7.5YR7/6（橙）	細石英・細長石、1mm大赤色粒子含む。	口縁1/4 回転実測	試掘42
22	弥生 鉢	－ (5.6) (2.7)	内　ミガキ　赤色塗彩 外　ミガキ　赤色塗彩	内　10R4/6（赤） 外　10R4/6（赤） 底　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石、1mm大赤色粒子含む。	底部5/12 回転実測	試掘43
23	弥生 高杯	－ (6.8) (2.2)	内　脚部ナデ 外　ナデ→赤色塗彩	内　7.5YR4/3（褐） 外　2.5YR4/6（赤褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	試掘43
24	土師器 甕	－ 6.7 (4.5)	内　ヘラナデ 外　ミガキ 底　ヘラナデ	内　2.5YR6/6（橙） 外　2.5YR6/6（橙）	～0.5mm大長石・石英粒子 1mm大赤色粒子含む。	底部完形 完全実測	試掘43
25	土師器 土板	縦3.5 横3.3 厚0.55	内　ミガキ 外　ミガキ	内　7.5YR7/4（にぶい橙） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石含む。	完全実測	試掘43
26	土師器 高杯	－	内　ヨコナデ→暗文 外　ヨコナデ→暗文	内　2.5YR5/6（明赤褐） 外　2.5YR5/6（明赤褐）	細石英・細長石粒子含む。 1・2mm大砂粒含む。	杯底1/4 回転実測	試掘44
27	弥生 甕	－ 6.4 (3.2)	内　ナデ→ミガキ 外　ミガキ	内　7.5YR4/2（灰褐） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部3/4 完全実測	試掘46
28	弥生 甕	－ 6.3 (1.8)	内　ミガキ 外　ミガキ	内　7.5YR8/3（浅黄橙） 外　10YR3/1（黒褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	試掘46
29	須恵器 甕	－	内　あて具痕 外　平行叩き目	内　5Y6/1（灰） 外　5Y5/1（灰）	細長石・細石英粒子含む。	拓本	試掘49
30	須恵器 甕	－	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→口縁櫛描波状文	内　7.5YR6/1（褐灰） 外　7.5YR1.7/1（黒） 断　2.5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	拓本	試掘49
31	須恵器 杯	(12.6) － (2.7)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　N5/（灰） 外　N5/（灰） 断　2.5YR4/2（灰赤）	細石英・細長石粒子含む。 緻密。	口縁3/16 回転実測	試掘52
32	土師器 杯	(14.8) (6.2) 4.3	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子、2mm大砂粒含む。	口縁1/3 回転実測	試掘52



第19図　T83～T95　T100～T108（試掘出土遺物）、グリット、検出

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
33	土師器 甕	(21.2) - (7.5)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ（横位） 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 7.5YR5/4（にぶい褐） 外 7.5YR5/4（にぶい褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	試掘54
34	須恵器 壺	- (8.6) (5.8)	内 ロクロナデ 外 体部回転ヘラケズリ→高台	内 10YR4/1（褐灰） 外 10YR5/1（褐灰）	細石英・細長石、1・2mm大白色粒子含む。	底部1/2 回転実測	試掘54
35	須恵器 蓋	-	内 ロクロナデ 外 天井部右回転ヘラケズリ→つまみ貼付	内 N5/（灰） 外 N5/（灰）	0.5mm大長石粒子、細石英粒子含む。	つまみ 完全実測	試掘54
36	高杯 （ミニチュア）	- (4.6) (3.0)	内 杯部ナデ 赤色塗彩 脚部ナデ 外 ナデ 赤色塗彩	内 7.5YR6/4（にぶい橙） 外 2.5YR5/4（にぶい赤褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	試掘54
37	須恵器 壺	(10.3) - (1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 N6/（灰） 外 N3/（暗灰）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	試掘55
38	弥生 壺	(12.2) - (4.6)	内 ミガキ 外 ナデ→口縁部刻み目 頸部ヘラ描横線文	内 10YR7/3（にぶい黄橙） 外 10YR7/3（にぶい黄橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁5/12 回転実測	試掘56
42	土師器 坏	(11.8) - (12.4)	内 口縁ミガキ 体部ヘラナデ→ミガキ 外 ナデ→ミガキ	内 5YR4/2（灰褐） 外 5YR4/2（灰褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	試掘56
43	土師器 高杯	(18.8) - (4.4)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR7/8（黄橙） 外 7.5YR7/8（黄橙）	細石英・細長石粒子、細砂粒多く含む。	口縁1/5 回転実測	試掘60
44	弥生 鉢	(18.0) (3.1)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR5/6（明赤褐） 外 2.5YR5/6（明赤褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測 口縁突起あり	試掘61
45	須恵器 杯	- (7.0) (1.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部右回転糸切り	内 5Y6/2（灰オリーブ） 外 5Y7/1（灰白）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測 火だすき	試掘61
46	須恵器 杯	- (6.2) (1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	内 2.5Y5/2（暗灰黄） 外 10YR5/2（灰黄褐）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測 火だすき	試掘61
47	須恵器 杯	(13.9) (3.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5YR5/1（褐灰） 外 7.5YR6/1（褐灰）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	試掘61
48	弥生 壺	(9.5) (4.0)	内 ナデ 外 ナデ→口唇部縄文 頸部縄文→ヘラ描平行線文	内 7.5YR7/4（にぶい橙） 外 7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	試掘61
49	弥生 台付甕	- (8.4) (5.6)	内 杯部ミガキ 脚部ナデ 外 ナデ→ミガキ	内 7.5YR7/4（にぶい橙） 外 7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 完全実測	試掘61
56	弥生 甕	- 8.8 (2.2)	内 剥離 外 ナデ→ミガキ	内 7.5YR4/2（灰褐） 外 7.5YR5/2（灰褐）	0.5mm大長石粒子多く、細石英粒子含む。	底部1/2 完全実測	試掘62
57	灰釉陶器 皿	- (6.6) (0.9)	内 施釉 外 底部回転ヘラケズリ→高台	内 2.5GY7/1（明オリーブ灰） 外 N8/1（灰白）	緻密。	底部1/4 回転実測	試掘67
59	須恵器 杯	- (8.2) (1.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	内 2.5GY4/1（暗オリーブ灰） 外 2.5GY4/1（暗オリーブ灰）	細石英・細長石粒子、1mm大黒色粒子含む。	底部3/8 回転実測 火だすき	試掘75
60	灰釉陶器 壺	(9.6) - (11.7)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	内 7.5Y6/3（オリーブ黄） 外 10YR7/4（にぶい黄橙）	緻密。	口縁1/8 回転実測	試掘80
61	陶器 椀	(10.4) - (3.2)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	内 5Y7/1（灰白） 外 5Y7/1（灰白）	緻密。	口縁1/8 回転実測 灰釉	試掘97
62	土師器 椀	- (6.8) (2.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 底部回転糸切り→高台	内 5YR5/1（褐灰） 外 2.5YR6/6（橙）	細長石多く、細石英粒子含む。	底部1/2 回転実測	試掘99
63	弥生 蓋	- - (2.7)	内 ミガキ 黒色処理 外 ミガキ	内 7.5YR1.7/1（黒） 外 7.5YR6/6（橙）	細石英・細長石粒子含む。	つまみ部 完全実測	試掘102
64	陶器 椀	-	内 施釉 外 施釉	内 2.5Y5/3（黄褐） 外 2.5Y5/3（黄褐）		口縁一部 鉄釉	試掘106
65	土師器 杯	(12.6) (6.8) (4.3)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリ	内 7.5YR1.7/1（黒） 外 7.5Y7/6（橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	試掘83
66	弥生 鉢	(13.6) - (4.8)	内 ミガキ 赤色塗彩剥落 外 ミガキ 赤色塗彩	内 外 2.5YR4/8（赤褐）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	試掘83
67	弥生 甑	- 5.5 (6.7)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR7/4（にぶい橙） 外 7.5YR7/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測 1孔 1.4cm	試掘83
68	弥生 甕	- 7.6 (4.0)	内 ナデ 外 ヘラナデ（縦位） 底部ナデ	内 5YR4/1（褐灰） 外 5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	底部完形 完全実測	試掘83
69	弥生 甕	(18.0) - (7.3)	内 ミガキ 外 口縁部ナデ→櫛描波状文 体部ヘラ描斜走文 →頸部櫛描簾状文	内 7.5YR6/3（にぶい褐） 外 5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	試掘83
70	弥生 甕	8.2 (6.1)	内 ミガキ 外 ミガキ	内 7.5YR6/3（にぶい褐） 外 7.5YR6/2（灰褐）	細石英・細長石粒子含む。	底部7/8 完全実測	試掘83

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
71	砥石	5.5	2.6	1.2	28.9	凝灰岩。	試掘83
72	砥石	4.9	3.7	1.3	28.0	砂岩。器体中央に敲打痕あり。	試掘86
73	石製模造品	22.0	19.0	4.0	2.1	滑石。	試掘90

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
74	灰釉陶器 碗	－ (8.2) (5.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→高台→施釉	内 2.5Y7/1（灰白） 外 7.5Y7/1（灰白）	緻密。	底部1/8 回転実測	試掘94
75	白磁 碗	(16.1) (4.3)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	内 5Y8/2（灰白） 外 5Y8/2（灰白）	緻密。	口縁1/12 回転実測	試掘94
76	弥生 高杯	－ 7.8 (3.8)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 杯2.5Y4/8（赤褐） 脚7.5YR7/4（にぶい橙） 外 2.5YR5/6（明赤褐）	細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測 蓋として転用か 焼成前穿孔	試掘95
77	弥生 高杯	9.6 (5.5)	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ミガキ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 杯2.5YR5/6（明赤褐） 脚5YR5/2（灰褐） 外 2.5YR5/6（明赤褐）	細長石・細石英粒子含む。	底部3/4 完全実測	試掘95
78	須恵器 甕	－	内 ナデ 外 体部叩き目→体部下端ヘラケズリ	内 5YR6/2（灰褐） 外 7.5YR4/1（褐灰）	細石英0.5mm大、長石粒子含む。	底部 拓本	試掘95
79	須恵器 蓋	－ (2.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 天井部右回転ヘラケズリ	内 5Y4/1（灰） 外 5Y4/1（灰）	細石英・細長石、1mm大砂粒含む。	体部1/4 回転実測 火だすき	試掘100
80	土師器 杯	－ (7.0) (1.5)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部回転糸切り	内 7.5YR3/1（黒褐） 外 7.5YR6/3（にぶい褐）	細長石・細石英粒子含む。	底部1/2 回転実測	試掘100

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
81	ピエス・エスキーユ	48.0	27.0	7.0	8.5	頁岩。器体加工両極。	試掘100
82	打製石斧	48.0	60.0	9.0	31.5	安山岩。刃部磨耗痕、刃部縁辺整形加工直接、器体加工直接。	試掘108
83	磨製石鏃	30.0	18.0	3.0	1.6	粘板岩。刃部縁辺加工研磨、器体加工研磨	Aえ9

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
84	弥生 甕	－	内 ミガキ 外 体部ヘラナデ→ミガキ 頸部櫛描簾状文	内 10YR5/3（にぶい黄褐） 外 10YR6/4（にぶい黄橙）	細長石・細石英粒子含む。	体部 拓本	Aお7
85	土師器 高杯	7.9 (4.9)	内 杯部ミガキ 黒色処理 脚部ヘラケズリ 裾部ナデ 外 ミガキ	内 7.5YR7/6（橙） 外 7.5YR6/6（橙）	細長石・細石英粒子、まれに1mm大砂粒含む。	底部完形 完全実測	Aえ3
86	須恵器 壺	－ 7.6 (17.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→体部下半右回転ヘラケズリ→高台	断 5YR5/2（灰褐） 外 7.5Y5/1（灰）	細石英・細長石粒子、1～2mm大砂粒含む。	底部完形 完全実測 肩部自然釉付着 不整形	Aか3

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
87	二次加工剥片	35.0	49.0	12.0	23.1	頁岩。完形。器体加工直接。	Bう6

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
88	弥生 台付甕	－ (7.9)	内 ミガキ 外 ミガキ 脚部たたみ付部スリあり	内 10YR6/3（にぶい黄橙） 外 7.5YR5/6（明褐）	細長石・細石英粒子含む。	脚部完形 台付甕転用 完全実測	W4・5 検出

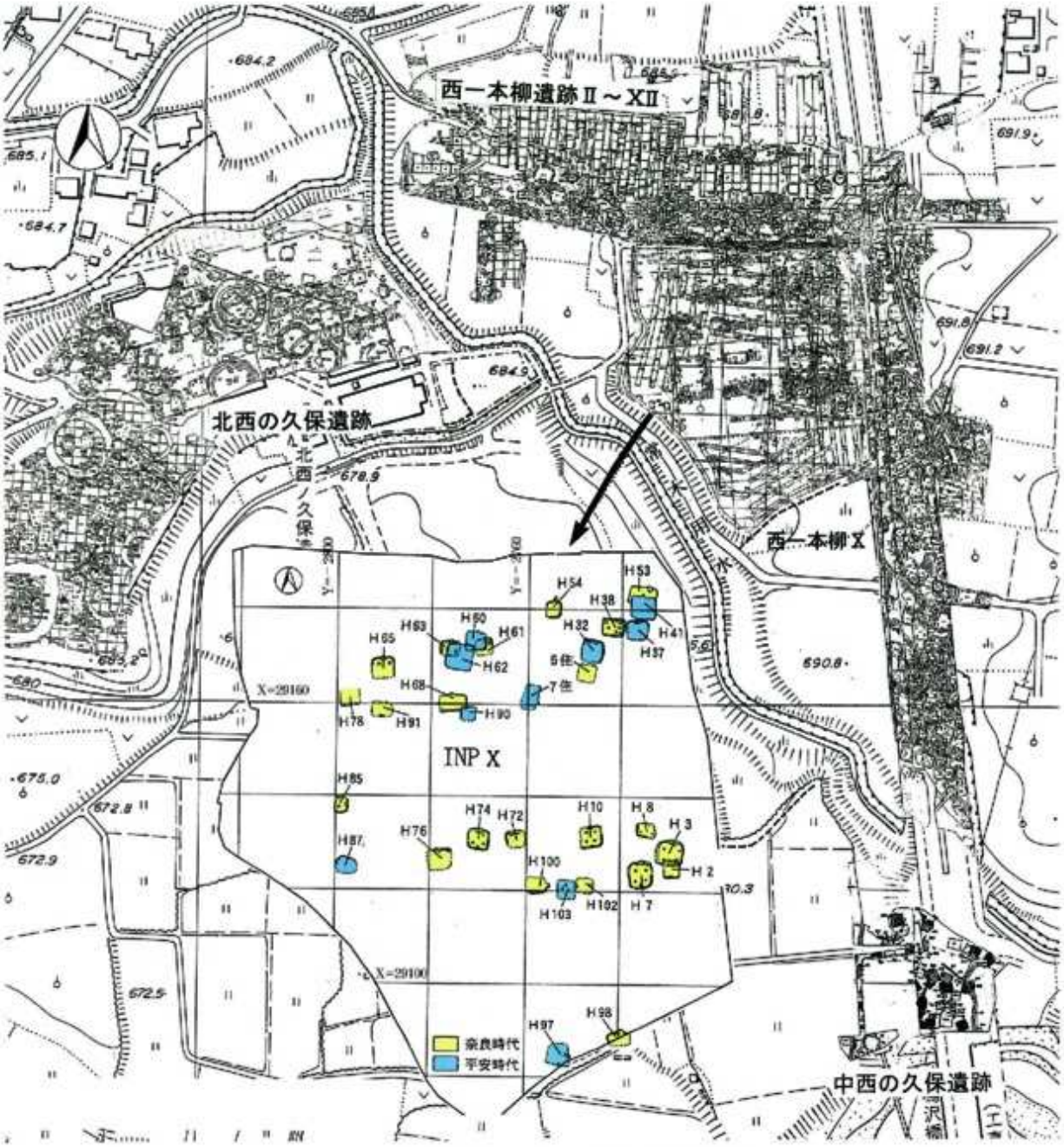
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
89	砥石	56.0	22.0	8.0	14.3	砂岩。	W1検出
90	長身石鏃	33.5	14.8	4.9	2.5	黒曜石。先端部欠損。刃部縁辺整形加工押圧剥離・鋸歯、器体加工押圧剥離－鋸歯。	W7 検出
91	鉄製品	37.0	29.0	13.0	18.8	器種不明。	W2 検出
92	磨製石鏃未製品	30.0	20.5	1.5	1.6	先端欠損、緑色片岩。刃部縁辺整形加工研磨、器体加工研磨。	試掘
93	磨製石鏃未製品	38.0	20.0	2.5	1.9	緑色片岩。刃部縁辺整形加工研磨。器体加工研磨。	試掘
94	擦切石器	34.1	33.7	4.6	4.0	頁岩。刃部横方向磨耗痕。	試掘

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
95	弥生 高杯	－ (4.2)	内 ミガキ 赤色塗彩 脚部内面ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R5/6（赤） 外 7.5YR7/4（にぶい橙） 10R5/6（赤）	細礫石多く含む。	脚部 完全実測	W6 う－1 検出

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
96	砥石	111.0	55.0	66.0	354.0	凝灰岩。	表採
97	臼玉	12.5	11.5	10.0	2.07	孔径4.0mm。滑石。	表採

試掘調査地点出土遺物一覧

地点名	グリッド	本調査遺構名・出土遺物	遺構推測時代
1	Aか3	M8	弥生中期
2	Aう4	H41・H53	奈良・平安
3	Aい4	H40・H42	弥生中期・古墳中期
4	Aい7	H26・H52	弥生中期・弥生後期
5	Aう9	無彩壺・杯	弥生中期
6	Bう2	無彩杯、赤彩杯、土師杯	弥生中期・古墳中期
7	Bい5	11件・M2・M4	弥生中期
8	Bい7	H2~5・F1	弥生中期・古墳・奈良
9	Bい10	H6、研磨痕のある剥片	弥生中期
10	Cい2	波状文甕、無彩壺、土師甕	弥生中期・古墳後期
11	Cう1	土師武蔵甕・杯・高杯	奈良
12	Bえ10	斜走文甕・土師器甕	古墳後期
13	Bう4	H25・M4	弥生中期
14	Aう10	H23・D3	弥生中期
15	Aう5	H35・H37・H41	弥生後期・平安
16	Aえ5	H37~H39・12件	弥生中後期・古墳・平安
17	消滅		
18	Aえ7	H27・H28・M8	弥生中期・後期
19	Bお1	H21	弥生中期
20	Bえ4	3・4件	古墳後期・奈良
21	Bえ6	H8・M1・M22	奈良
22	Bえ8	H7	奈良
23	Bえ10	波状文・斜走文甕、土師杯、須恵器杯・甕	弥生~古墳
24	Bか10	壺、甕、土師器杯・甕	古墳後期
25	Bく3	H17・H18	弥生中期
26	Bき3	H19	弥生中期
27	Bか4	H24	弥生中期
28	Bか6	H9・M2	古墳中期
29	Bけ6	H13・H50	弥生後期・奈良
30	Bか8	H105、無彩壺、赤彩杯	弥生中期
31	Bけ8	H13・H50	弥生後期・奈良
32	Bこ7	壺、甕、須恵杯（糸切り）、土師甕	弥生中期・古~平安
33	Eあ8	H100・波状文甕、赤彩杯、土師器高杯	古墳中期・奈良・平安
34	Fい1	赤彩壺・杯、土師杯	弥生中期?古墳中・後期
35	Fあ3	無彩壺、赤彩壺	弥生中期
36	Cけ2	無彩壺、甕、土師壺	古墳中期・後期
37	Cく1	無彩壺、赤彩壺、甕、土師甕・杯	弥生中期・奈良
38	Cき2	無彩壺、甕	弥生中期
39	Cけ3	須恵甕、土師甕・杯	古墳後期
40	Fあ4	無彩壺、甕、土師甕、スクレイパー	弥生中期
41	Fう5	無彩壺、土師杯	弥生・古墳中期
42	Fう2	波状文甕、土師甕・高杯	古墳後期
43	Fう4	赤彩壺、高杯、土師高杯・甕・土板	弥生後期・古墳後期
44	Fく1	無彩壺、赤彩杯、斜走文甕、須恵蓋・杯・甕	弥生後期・平安
45	Fく4	須恵甕、土師武蔵甕	奈良・平安
46	Fき4	無彩壺、斜走文甕、赤彩杯、須恵甕、土師甕	弥生中期
47	Fお4	無彩壺、斜走文甕、赤彩杯、土師甕・杯	弥生中期・古墳後期
48	Fさ5	須恵高台杯・甕、土師武蔵甕・杯	奈良
49	Fう6	須恵甕、土師甕・杯（底部回転ヘラケズリ）	古墳後期・奈良
50	Cく5	斜走文甕	弥生中期
51	Cき4	土師小型丸底	古墳中期
52	Cこ6	須恵杯・甕、土師武蔵甕・高杯	平安
53	Fえ9	土師甕・椀	古墳後期・平安
54	Cこ7	H97、須恵甕・盤・蓋、土師武蔵甕・杯・皿	平安
55	Cさ6	赤彩壺、甕、土師甕、須恵短頸壺	古墳後期
56	Eこ9	無彩壺、須恵甕、土師甕	古墳後期
57	Iい7	赤彩壺、土師甕・杯	古墳中・後期
58	Iい7	須恵杯・土師武蔵甕	奈良・平安
59	Iう6	須恵甕・土師高杯	古墳後期
60	Iえ1	土師甕・高杯	古墳中期
61	Hい4	無彩壺、赤彩鉢、須恵甕・杯、土師甕	弥生中期~奈良
62	Hあ2	無彩壺、土師器杯・甕	弥生中期・古墳後期
63	Hあ1	無彩壺、土師器杯・甕	弥生中期・古墳後期
64	Dけ1	無彩壺、須恵蓋、土師器杯・甕	平安
65	Dく1	H59	弥生中期
66	Dか1	H58	古墳後期
67	Dこ3	無彩壺、須恵甕・有台杯、土師武蔵甕・杯	弥生中期~奈良
68	Hあ7	無彩壺、須恵甕、土師器武蔵甕・杯	奈良・平安
69	Hい10	赤彩壺・鉢、波状文甕、土師高杯	弥生後期・古墳中期
70	Iう4	赤彩鉢、波状文甕	弥生中期
71	Iい5	土師高杯	古墳中期
72	Iあ2	H86	弥生中期
73	Dこ9	H77	弥生後期
74	Dこ7	H78・D15・D16	平安
75	Dけ5	無彩壺、土師甕、須恵杯	弥生中期・古墳
76	Dけ3	H59壺、甕、土師武蔵甕	弥生中期・奈良・平安
77	Eこ2	H85	奈良
78	Eけ1	H77・H79	弥生後期・中期
79	消滅		
80	Dき3	甕、壺、土師甕、灰釉壺	弥生中期・平安
81	消滅		
82	Eく1	H81・14件	弥生中期
83	Dか7	H80・H91、土師器杯、弥生鉢・甑	弥生後期・奈良
84	Dお4	H60・H61・H64・8件・D12	古墳中期・奈良・平安
85	Dお4	須恵蓋・杯・甕、土師杯	奈良・平安
86	Dえ3	H57、砥石	古墳後期
87	Dい2	H56・D10	古墳後期
88	Dあ2	斜走文甕	弥生中期
89	Aく2	H48	弥生後期
90	Aお2	M8、石製模造品	古墳中期
91	Aう2	H43・9件	弥生中期・古墳後期
92	Aけ4	H34~H36・H54・M8	弥生後期・中期・奈良
93	Dう3	M10	平安
94	Aこ5	H34・M8、灰釉壺、白磁碗	弥生後期
95	Aか7	H30・H32・M9、弥生高杯、須恵甕	古墳後期・平安
96	Aき8	H15・D9	古墳後期
97	Aけ7	M8、灰釉瓶	古墳中期
98	Dあ7	壺、甕、土師杯・甕	奈良・平安
99	Dい7	須恵甕、土師杯・武蔵甕	奈良・平安
100	Dう6	H62	平安
101	Dえ6	14件	古墳後期
102	Aこ9	H66~68、弥生蓋	弥生中期・古墳後期・平安
103	Aお10	H15・H16・1件	古墳後期
104	Dお9	H69	弥生中期
105	Dう10	無彩壺、赤彩壺、甕	弥生中期
106	Dあ10	甕、無彩壺、赤彩壺	弥生中期
107	Dか2	H17・H19	弥生中期
108	Bか2	H21・H22、石鏃	弥生中期



第20図　西一本柳遺跡X　奈良・平安時代遺構分布図

一本柳遺跡群
西一本柳遺跡XI

NISHI IPPON YANAGI

長野県佐久市大字岩村田
西一本柳遺跡XI発掘調査報告書

鈴与商事株式会社
長野県佐久市教育委員会

一本柳遺跡群　西一本柳遺跡XI

所 在 地　佐久市大字岩村田17971－1　外7筆
調査委託者　鈴与商事株式会社
調査受託者　佐久市教育委員会
開発事業名　鈴与佐久平ガソリンスタンド建設
調 査 期 間　平成15年8月18日～8月22日（現場）
調 査 面 積　270㎡
調査担当者　上原　学

例言・凡例

1. 本書は平成15年度に調査を行った長野県佐久市大字岩村田に所在する西一本柳遺跡XIの発掘調査報告書である。
2. 作成・執筆は上原が行った。
3. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
4. 遺跡の略称（INP XI）
5. 遺構の略称　竪穴住居址－H　　溝跡－M　　ピット－P　　住居内土坑－D
6. スクリーントーンの表示は以下の通りである。

遺　構	地山断面		焼　　土		床　　下		
遺　物	赤色塗彩		石器使用痕				

7. 挿図の縮尺　　遺構　住居址・土坑・溝跡－1/80
　　遺物　土器－1/4　石器－1/3
8. 調査グリッドは公共座標に基づき大グリッド40×40m、小グリッド4×4mに設定。
9. 写真図版中の番号と同一遺構の遺物実測図番号は一致する。
10. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
11. 土説・土器色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

立地と経過

西一本柳遺跡は、佐久市岩村田市街地の西側に東西方向に長く展開する一本柳遺跡群の西端地域、標高685～702mを測る湯川右岸の台地上に位置する。調査対象地周辺は、佐久市内を南北に通過する国道141号臼田バイパス東側に接し、佐久市内でも有数の遺跡密集地域で弥生時代中期から平安時代を主とする遺構が多数検出されている。近年は遺跡群北方の新幹線佐久平駅開業に伴い、道路整備をはじめ多くの開発が進んでいる。

今回、株式会社鈴与商事による給油所建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。その結果、弥生時代の住居址（中期１軒・後期１軒）、溝跡が多数認められたため、開発主体者と協議の結果、遺構が破壊される地域の記録保存を目的として佐久市教育委員会が主体となり発掘調査を実施した。

西一本柳遺跡Ⅺ位置図（１：50,000）

調査概要

調査は重機によって遺構の破壊される地域の表土除去を行った後、遺構検出を開始した。結果、今回調査対象となったのは弥生時代後期の住居址１軒及び、溝跡６条のそれぞれ一部分である。遺物は住居址内及び溝跡から弥生時代後期の弥生式土器が多量に出土した。なお、今回試掘で確認され、調査対象とならなかった遺構は弥生時代中期後半の住居址１軒、この住居址に切られる溝跡１条である。また調査を行った溝跡も遺構が破壊される周辺以外の部分は埋土保存とした。

調査区内確認遺構

住居址－２軒（弥生時代中期１軒　後期１軒）
溝　跡－６条

調査遺構

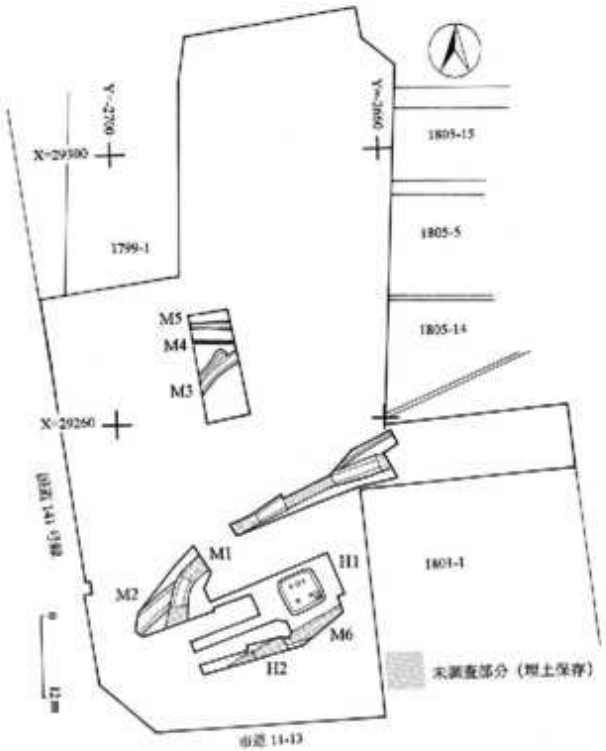
住居址－１軒（弥生時代後期）
溝　跡－５条（弥生時代後期に切られる溝１条、後期１条、不明３条）

出土遺物

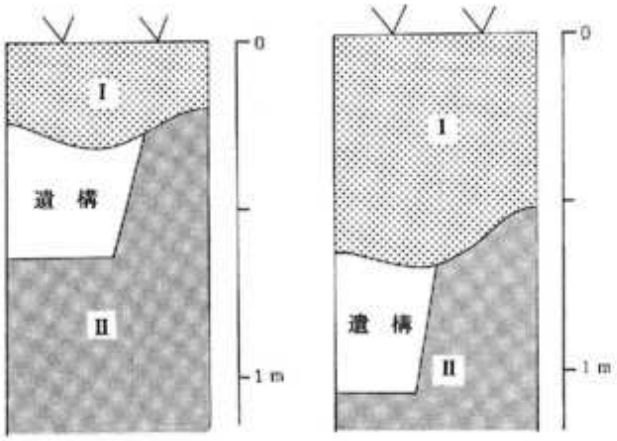
弥生式土器－甕・壺・蓋・鉢・高坏
石　製　品－磨製石斧・砥石・敲き石・みがき石・磨石

基本層序

調査地域は南に広がるほぼ平坦な台地が北に向かって緩やかに傾斜し始める境界付近である。遺構確認面までの深さは、南側で黄褐色のローム層上面までもっとも浅い地域で20cm内外を測り、北に向かって徐々に深さを増して行き最深部では60cmとなる。住居址は南側の斜面上部に限られ、低地となる北では認められない。住居址に近接する北側には台地と低地の境付近である縁を東西方向及び調査地域内で「L」状に東、南方向にのびる溝跡が存在することから調査区付近は集落の北端地域であると考えられる。

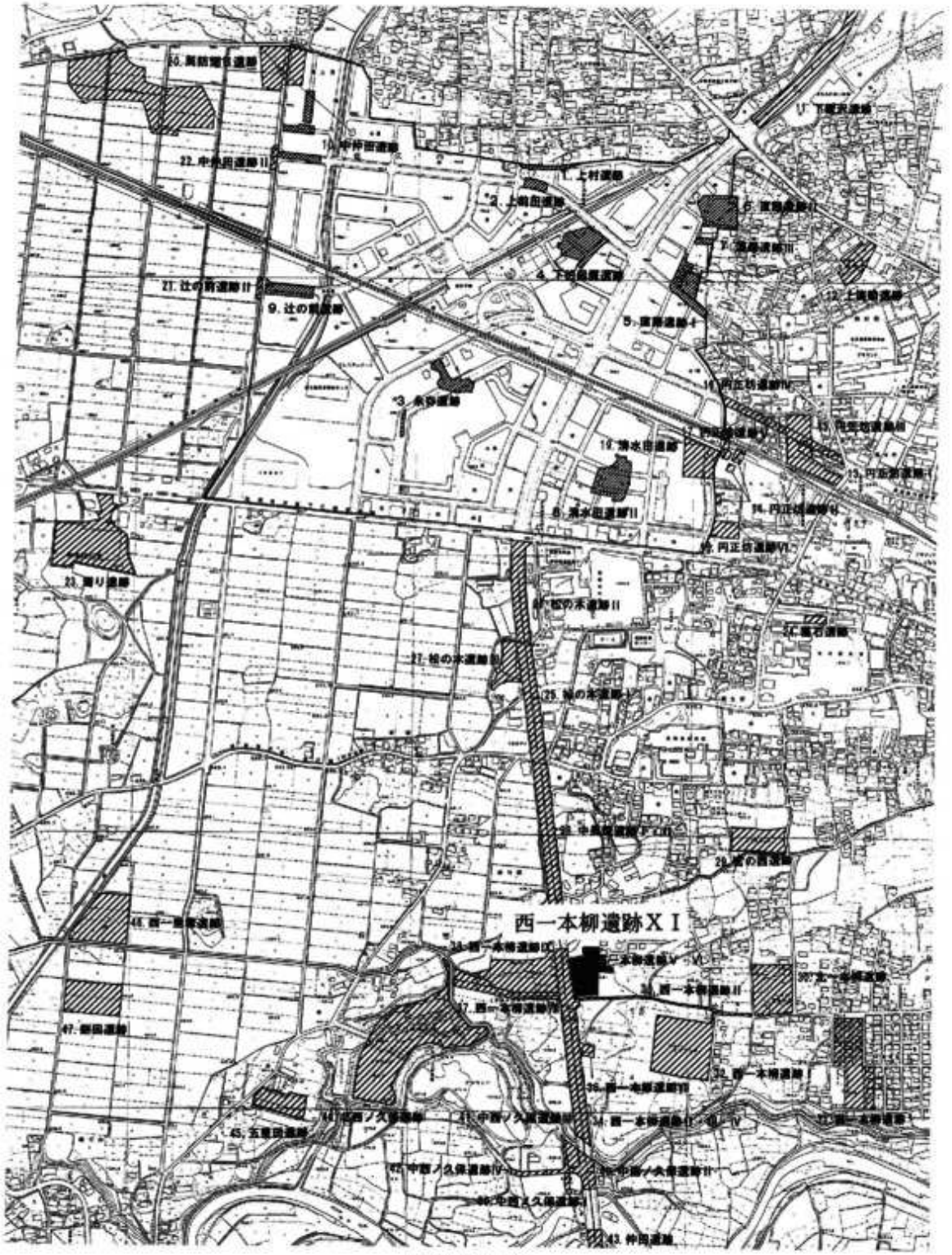


遺構配置図（１：1,000）



Ⅰ　黒褐色土　耕作土　　Ⅰ　黒褐色土　耕作土（やや粘性）
Ⅱ　黄褐色土　ローム　　Ⅱ　黄褐色土　ローム（水性）

基本層序模式図

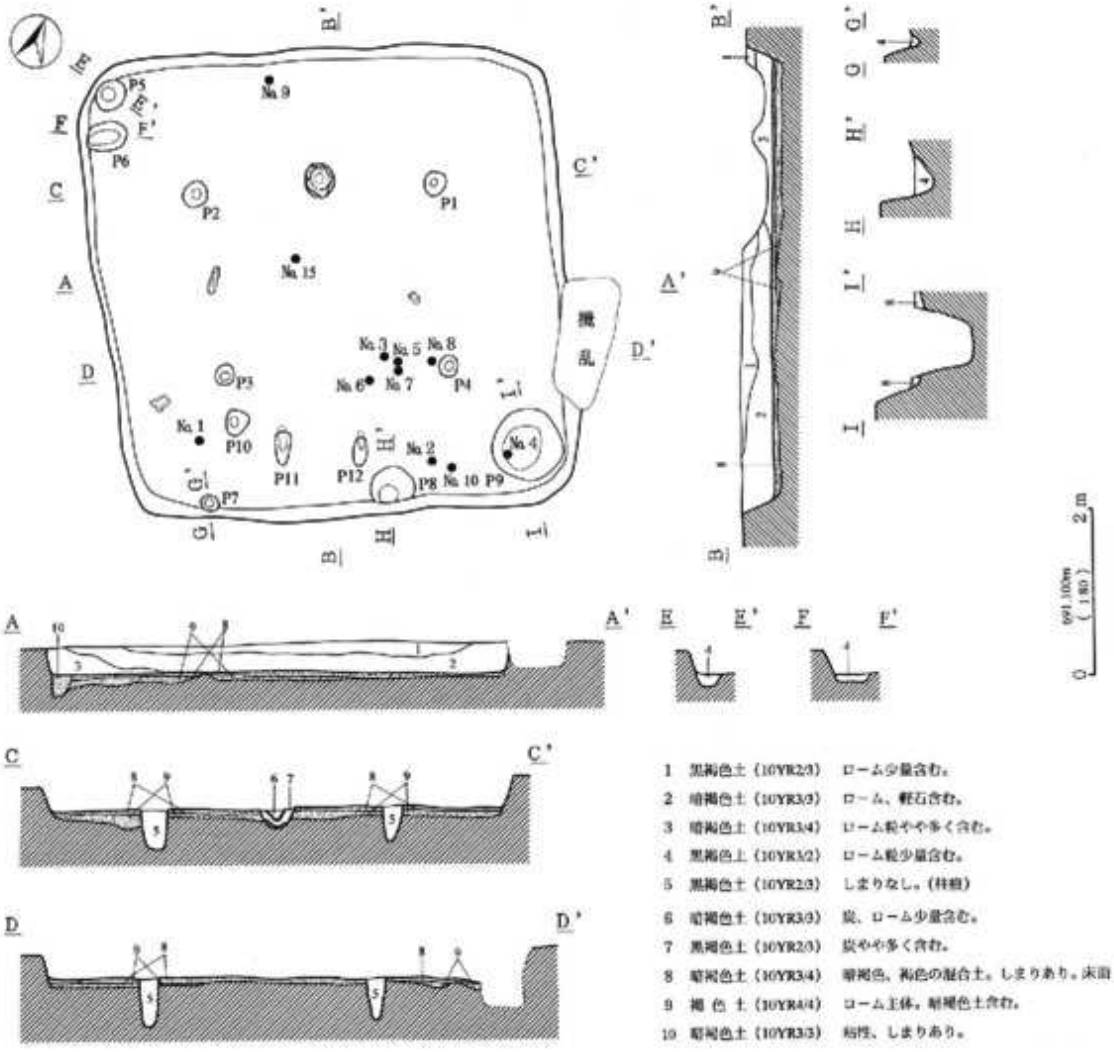


周辺遺跡位置図

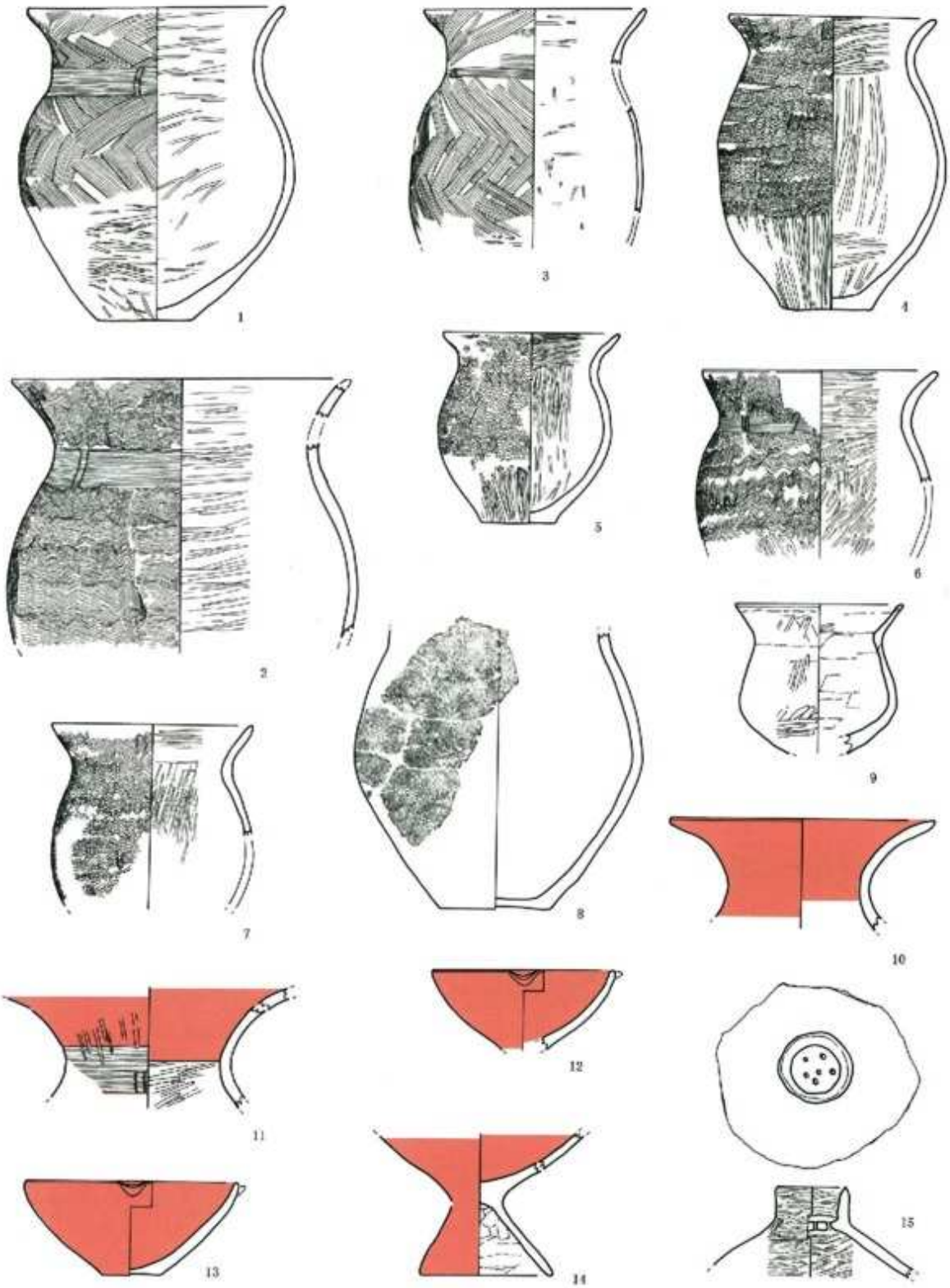
H1号住居址

遺構は調査区南寄りのやや北方向に傾斜する台地上に位置する。規模は東西5.65m、南北5.6m、床面までの深さは35cm内外を測る。平面形は方形である。床面はほぼ平坦で硬質である。ピットは床面上で12個認められ、P1～P4が主柱穴、P5・6が入口施設に関係するものと考えられる。南東コーナーには径84cm、深さ70cmの土坑が存在し、底面上40cm付近まで湧水が認められるが、住居生活時の水位は現在より低かったと考えられる。炉は中央から北によった主柱穴間に設置されている。形状は径80cmの円形で大小二つの土器底部を二重に埋設しており、周辺が焼土化していた。

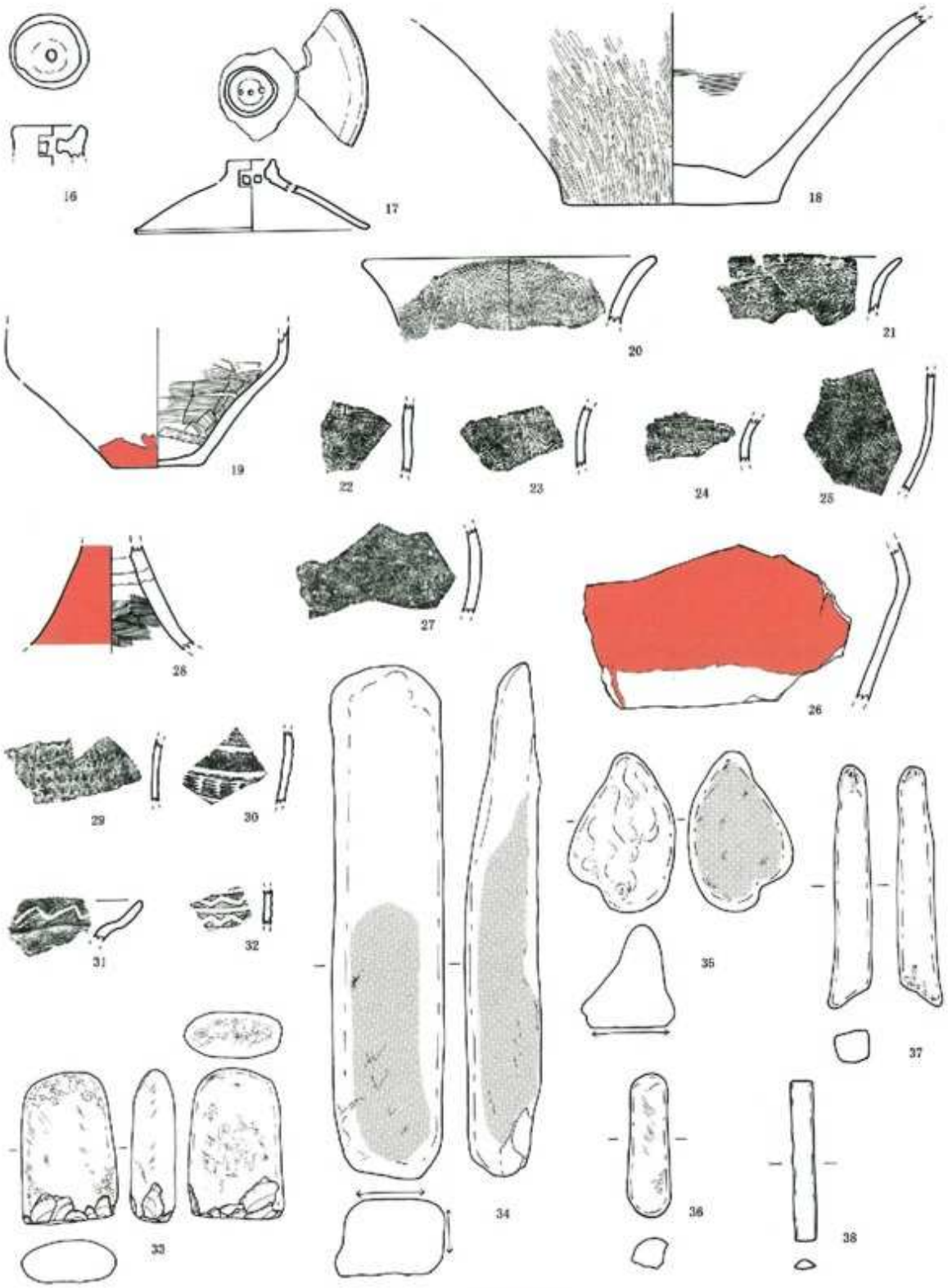
遺物は床面上及び土坑内から弥生式土器の甕・壺・蓋・高坏・鉢、石製品などが多数出土した。図示したのは38点である。



H1号住居址実測図



H１号住居址遺物実測図(1)



H１号住居址遺物実測図(1)

H1号住居址遺物観察表

番号	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調(外面/内面)
1	弥生式土器	甕	18.6	6.6	22.9	口縁体部外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　体部下半ヘラミガキ 内面横ヘラミガキ　部赤色痕	95	良	褐色 黄褐色
2	弥生式土器	甕	24.4	–	–	口縁体部外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　内面横ヘラミガキ	75	良	褐色 暗褐色
3	弥生式土器	甕	16.0	–	–	口縁体部外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　内面横ヘラミガキ	60	良	褐色 褐色
4	弥生式土器	甕	14.9	6.4	21.3	口縁体部外面櫛描波状文　体部下半横ヘラミガキ　内面縦横ヘラミガキ	85	良	明褐色 明褐色
5	弥生式土器	甕	12.6	5.3	13.8	口縁体部外面櫛描波状文　体部下半横ヘラミガキ　内面縦横ヘラミガキ	95	良	暗褐色 黒褐色
6	弥生式土器	甕	16.9	–	–	口縁体部外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　体部下半ヘラミガキ 内面縦横ヘラミガキ	60	良	明褐色 黒褐色
7	弥生式土器	甕	14.4	–	–	口縁体部外面櫛描波状文　内面縦横ヘラミガキ	50	良	鈍い黄褐色 橙色
8	弥生式土器	甕	–	–	–	口縁体部外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　内面横ヘラミガキ	底部～胴部上部	良	暗赤褐色 暗赤褐色
9	弥生式土器	甕	[12.0]	–	–	外面ナデ・ミガキ　内面口縁横ミガキ　内面ナデ	50	良	黒褐色 黒褐色
10	弥生式土器	壺	19.0	–	–	内外面赤色塗彩	口縁～頸部100	良	赤褐色 赤褐色
11	弥生式土器	壺	・	–	–	内外面赤色塗彩　頸部櫛描簾状文	頸部周辺破片	良	赤褐色 明赤褐色
12	弥生式土器	高坏	13.1	–	–	内外面赤色塗彩	坏部30	良	赤色 赤色
13	弥生式土器	鉢	15.0	4.1	6.8	内外面赤色塗彩	25	良	赤色 赤色
14	弥生式土器	高坏	–	[9.6]		外面・坏部内面赤色塗彩　脚部内面ナデ	10	良	赤色 赤色
15	弥生式土器	蓋	つまみ 5.3		–	内外面ミガキ　つまみ多孔(6)	40	良	鈍い褐色 橙色
16	弥生式土器	蓋	つまみ 5.6		–	つまみ中央に孔(1)	つまみ100	良	鈍い褐色 暗褐色
17	弥生式土器	蓋	つまみ 3.3	–	–	内外面ミガキ　内黒　つまみ多孔(3)	30	良	褐色 灰褐色
18	弥生式土器	壺	–	15.6	–	外面ミガキ　内面剥離　炉に使用	底部～胴部下半	良	橙色 鈍い橙色
19	弥生式土器	壺	–	6.4	–	外面ナデ　内面ハケ状工具によるナデ	底部～胴部下半	良	鈍い橙色 褐色
20	弥生式土器	甕	[21.1]	–	–	口縁櫛描波状文　頸部櫛描簾状文	口縁30	良	暗赤褐色 鈍い赤褐色
21	弥生式土器	甕		–	–	口縁櫛描波状文	口縁破片	良	鈍い赤褐色 暗赤褐色
22	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文	頸部下半～胴部	良	明褐色 鈍い橙色
23	弥生式土器	甕	–		–	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文	頸部破片	良	橙色 鈍い橙色
24	弥生式土器	甕		–	–	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文	頸部破片	良	鈍い橙色 明黄褐色
25	弥生式土器	甕	–		–	外面櫛描波状文　内面ナデ	胴部破片	良	暗褐色 灰褐色
26	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描波状文　内面ナデ	胴部破片	良	褐色 明褐色
27	弥生式土器	甕	–	–	–	外面上半赤色塗彩　下半縦ミガキ　内面ナデ	胴部破片	良	赤色 明黄褐色
28	弥生式土器	高坏	–		–	外面赤色塗彩　内面ナデ	脚部破片	良	赤色 鈍い黄橙色
29	弥生式土器	壺	–	–	–	縦櫛描直線文　横櫛描波状文　内面ナデ　混入か？	頸部破片	良	灰褐色 灰褐色
30	弥生式土器	壺	–	–	–	櫛描簾状文　横沈線　混入か？	破片	良	鈍い橙色 灰褐色
31	弥生式土器	壺	–	–	–	口唇部縄文　口縁縄斜文　内面横ミガキ　混入品　中期の土器	口縁破片	良	赤褐色 褐色
32	弥生式土器	壺		–	–	鋸歯文	破片	良	鈍い橙色 鈍い黄橙色

番号	出土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
33	覆土	磨製石斧	[11.0]	7.2	3.1	450	砥石・敲き石に転用
34	Ⅱ区床上10cm	砥石	26.3	5.8	3.8	960	裏面欠損　表面・側面使用
35	Ⅰ区床上6cm	敲き石	8.8	1.7	1.1	25	両端部に敲打痕あり
36	覆土	みがき石	5.2	1.6	1.2	13.7	
37	覆土	磨石	11.4	7.5	7.4	720	突起部を持ち裏面の平坦面使用
38	検出	不明	5.8	0.9	0.32	1.9	

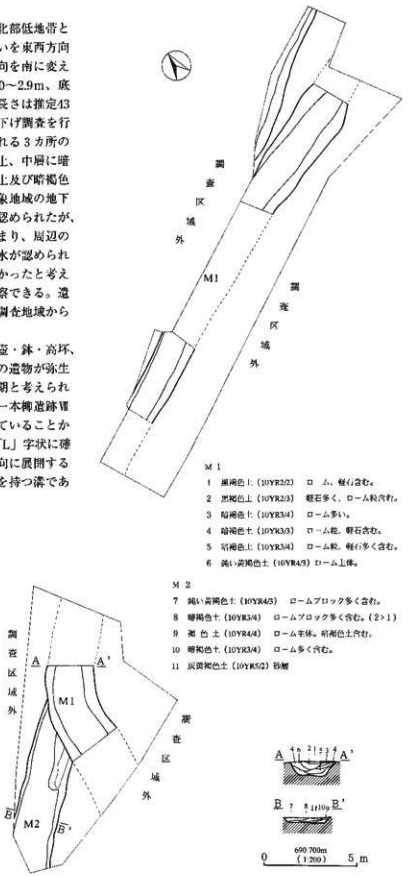
M１号溝跡

遺構は調査区内中央を南北方向に区切る北部低地帯と南部台地の地形変換地域である台地北端沿いを東西方向にはしり、調査区西端付近で「L」字に方向を南に変え調査区外に至る。規模は確認面上での幅2.0～2.9m、底幅1.7m内外、深さ80cmを測る。確認できた長さは推定43mを測り、M２号溝跡を切る。実際に掘り下げ調査を行ったのは工事によって遺構の破壊が予測される３カ所の限られた地域である。覆土は上層に黒褐色上、中層に暗褐色土、下層に黄褐色土が堆積し、黄褐色上及び暗褐色土下層に多く遺物が含まれていた。調査対象地域の地下水位は高く、溝底面上20cm付近まで湧水が認められたが、住居址の貯蔵穴底面上40cm付近まで水がたまり、周辺の遺跡においては同時期の住居址床面まで湧水が認められることなどから、当時の水位は現在より低かったと考えられ、溝は通常、空堀であった可能性が推察できる。遺物は弥生時代後期が大半を占め、特に東側調査地域からは多量の土器が出土した。

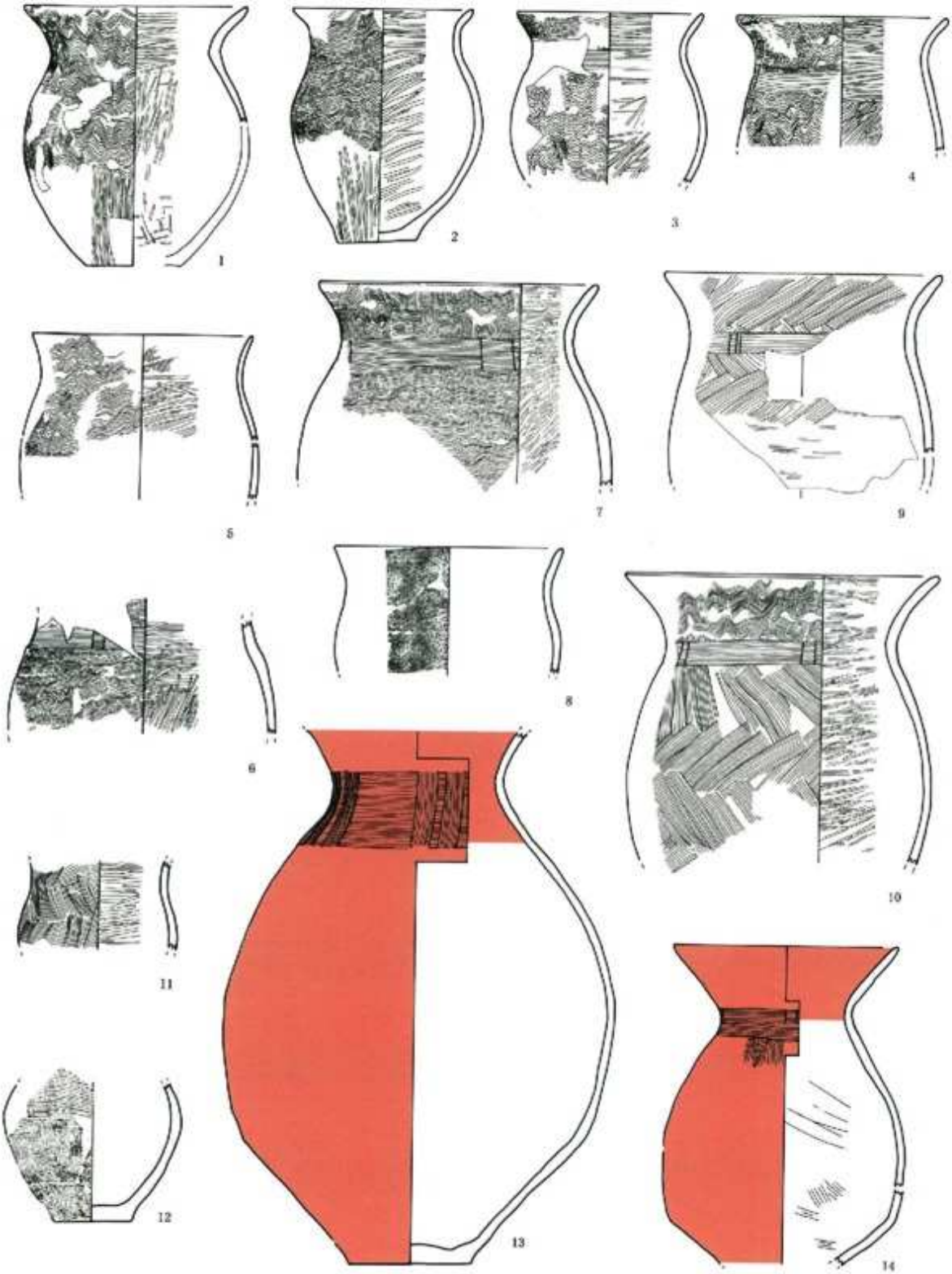
図示したのは弥生式土器の甕・壺・小型壺・鉢・高坏、磨石（敲き石）33点である。時期は遺構内の遺物が弥生時代後期箱清水期であることからほぼ同時期と考えられる。南方向には平成10年に調査を行った西一本柳遺跡Ⅷが所在し、南北方向に走る溝跡が調査されていることから本遺構と同一遺構である可能性が高く、「L」字状に確認されたコーナーを起点とし、南及び東方向に展開する弥生時代後期の集落を取り囲む環濠的役割を持つ溝であった可能性が考えられる。

M２号溝跡

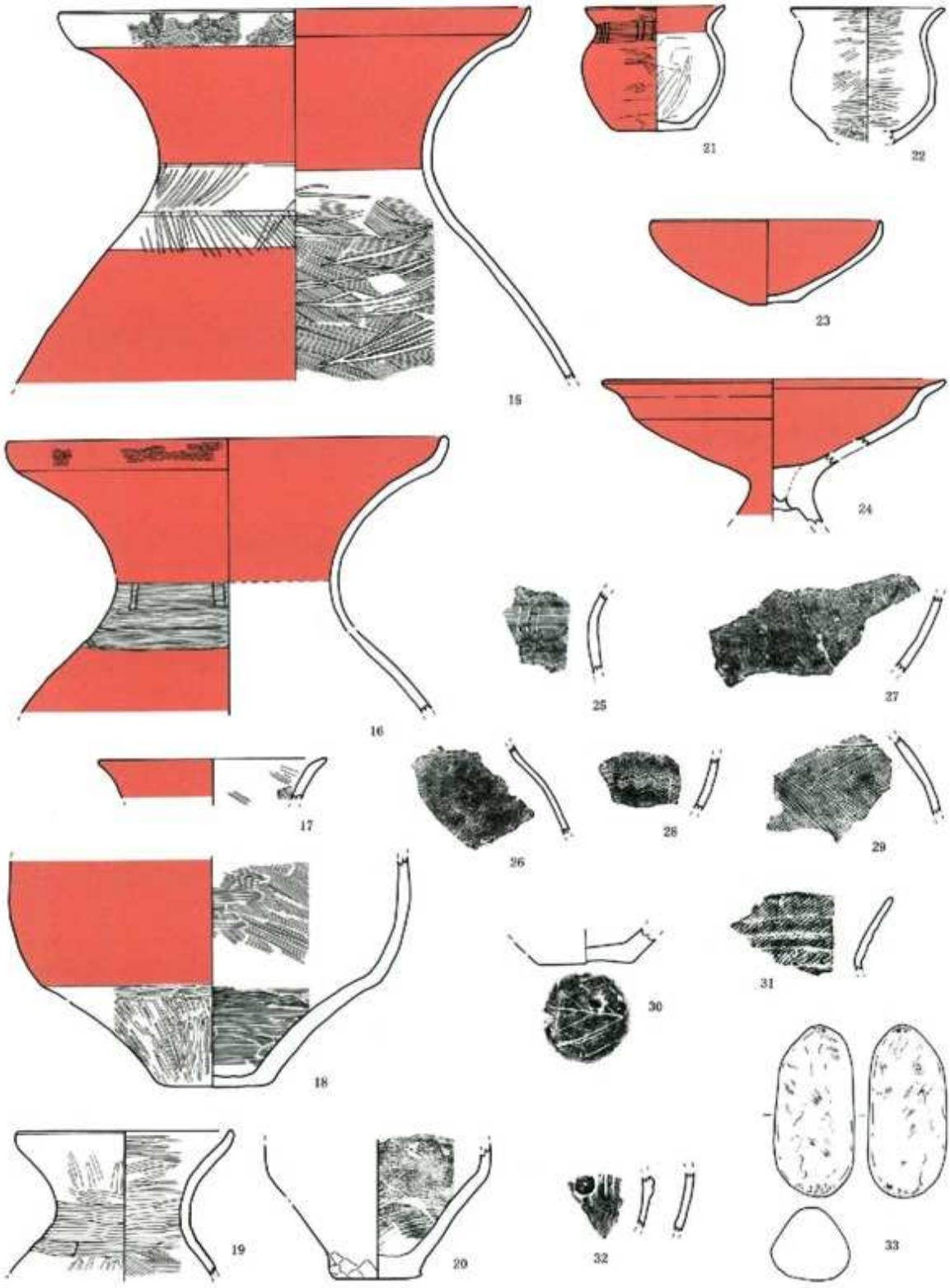
遺構はM１号溝跡とほぼ同じ地形変換地域である台地北端沿いを東西方向に走り、M１号溝跡に切られる。確認面上での幅2.2m内外、底幅1.8m内外、深さは20～30cmを測り、M１に比して浅く覆土はやや明るい。遺物は弥生式土器が僅かに出土した。時期は、弥生時代後期の溝跡に切られており、調査区内からは弥生時代中期の住居址も確認されていることから、弥生時中期から後期に至る遺構と考えられる。



M1・2号溝跡実測図



M１号溝跡遺物実測図(1)

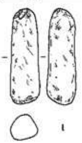


M1号溝跡遺物実測図(2)

M1号溝跡遺物観察表

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調 (外面)(内面)
1	弥生式土器	甕	16.2	[6.7]	[19.1]	外面櫛描波状文　胴部下半縦ミガキ　口縁内面横ミガキ	70	良	赤褐色 明褐色
2	弥生式土器	甕	13.0	5.6	17.2	外面櫛描波状文　胴部下半縦ミガキ　口縁内面横ミガキ	80	良	赤褐色 褐色
3	弥生式土器	甕	[13.5]	–	–	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　口縁内面横ミガキ	口縁～胴上半部	良	赤褐色 褐色
4	弥生式土器	甕	[14.4]	–	–	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　口縁内面横ミガキ	口縁～胴上半部	良	鈍い褐色 鈍い黄褐色
5	弥生式土器	甕	[16.0]	–	–	外面櫛描波状文	口縁～胴上半部	良	鈍い黄褐色 暗褐色
6	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文	頸部～胴上半部	良	灰黄褐色 鈍い黄褐色
7	弥生式土器	甕	[20.3]	–	–	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　口縁頸部内面横ミガキ	口縁～胴上半破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄褐色
8	弥生式土器	甕	16.5	–	–	外面櫛描波状文　内面横ミガキ	口縁～胴上半破片	良	鈍い褐色 鈍い橙色
9	弥生式土器	甕	[20.2]	–	–	外面櫛描羽状文　頸部櫛描簾状文	口縁～胴上半破片	良	鈍い黄褐色 鈍い黄褐色
10	弥生式土器	甕	[22.9]	–	–	外面口縁櫛描波状文　胴部外面櫛描羽状文　頸部櫛描簾状文 内面横ミガキ	口縁～胴上半破片	良	鈍い黄褐色 鈍い橙色
11	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描羽状文　内面横ミガキ	胴上半破片	良	鈍い赤褐色 鈍い褐色
12	弥生式土器	甕	–	5.6	–	外面上半櫛描斜状文　下部縦ミガキ　内面斜めミガキ	底部～胴部	良	鈍い橙色 鈍い橙色
13	弥生式土器	壺	–	[8.7]	–	外面赤色塗彩　頸部櫛描横線文・縦垂下文 内面口縁赤色塗彩　横ミガキ	60	良	赤色 鈍い橙色
14	弥生式土器	壺	[16.4]	–	–	外面赤色塗彩　頸部上部櫛描簾状文・下部櫛描横線文 内面口縁赤色塗彩　横ミガキ　内面　ハケ目　ナデ	50	良	赤色 鈍い橙色
15	弥生式土器	壺	[34.0]	–	–	外面赤色塗彩　口辺櫛描波状文　頸部矢羽状文 内面口縁赤色塗彩　ハケナデ　ミガキ	口縁～胴上半	良	赤色 鈍い橙色
16	弥生式土器	壺	[31.8]	–	–	外面・内面口縁赤色塗彩　外面口縁櫛描波状文　頸部櫛描簾状文・ 櫛描横線文	口縁～胴上半	良	赤色 鈍い橙色
17	弥生式土器	甕	[17.0]	–	–	外面赤色塗彩　内面ハケ目	口縁45	良	赤色 鈍い橙色
18	弥生式土器	壺	–	8.5	–	外面赤色塗彩　外面下部縦ミガキ　内面斜め　横ハケ目	底部～胴部下半	良	赤色 赤褐色
19	弥生式土器	壺	15.7	[10.5]	–	外面ミガキ　頸部櫛描横線文　内面横ミガキ　ハケ目	口縁～胴上半部	良	橙色 橙色
20	弥生式土器	壺	–	6.8	–	外面縦ミガキ　底部直上周縁ナデ　内面櫛目	底部～胴部下半	良	橙色 橙色
21	弥生式土器	壺	9.9	6.1	9.0	外面・内面口縁赤色塗彩　外面頸部櫛描簾状文　内面ナデ・ミガキ	口縁一部欠損	良	赤色 褐灰色
22	弥生式土器	壺	11.0	–	–	内外面横ミガキ	80	良	灰黄褐色 明黄褐色
23	弥生式土器	鉢	16.7	3.4	6.1	内外面赤色塗彩	ほぼ完形	良	赤色 赤色
24	弥生式土器	高坏	24.7	–	–	内外面赤色塗彩　脚部欠損	坏部80	良	赤色 赤色
25	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描波状文　櫛描簾状文　内面ミガキ	頸部～胴部破片	良	鈍い橙色 鈍い橙色
26	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描波状文　櫛描簾状文　内面ミガキ	頸部～胴部破片	良	鈍い橙色 鈍い橙色
27	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描波状文　内面横ミガキ	胴部破片	良	鈍い褐色 鈍い褐色
28	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描波状文　内面横ミガキ	胴部破片	良	鈍い赤褐色 鈍い橙色
29	弥生式土器	甕	–	–	–	外面櫛描羽状文　櫛描横線文　内面ミガキ	頸部～胴部破片	良	灰褐色 鈍い橙色
30	弥生式土器	甕	–	–	–	底部木葉痕　内面ヘラナデ	底部	良	鈍い橙色 鈍い黄橙色
31	弥生式土器	甕	–	–	–	外面輪積み痕・縄文　内面横ミガキ	口縁破片	良	鈍い褐色 褐色
32	弥生式土器	甕	–	–	–	外面円形貼り付け文　縦沈線　内面横ハケ目	胴部破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色

番号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
33	III区	磨り・敲き石	12.4	5.9	5.3	520	両端部に敲打痕あり


1

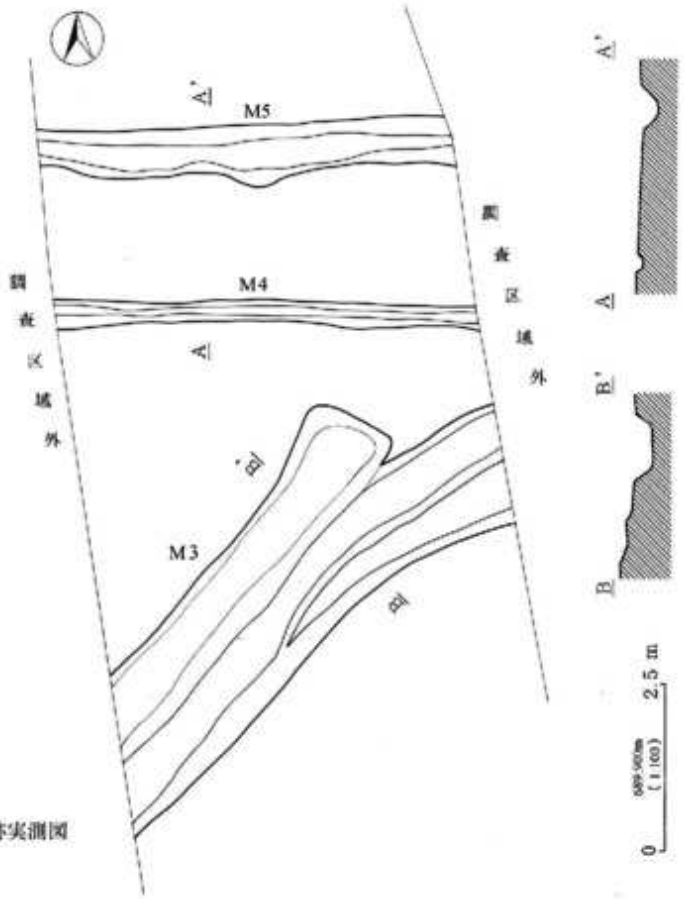
M2号溝跡遺物実測図

M2号溝跡遺物観察表

番号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)
1	III区	磨り・敲き石	10.1	3.2
備考			厚さ (cm)	重量 (g)
両端に敲打痕あり			2.8	141.9

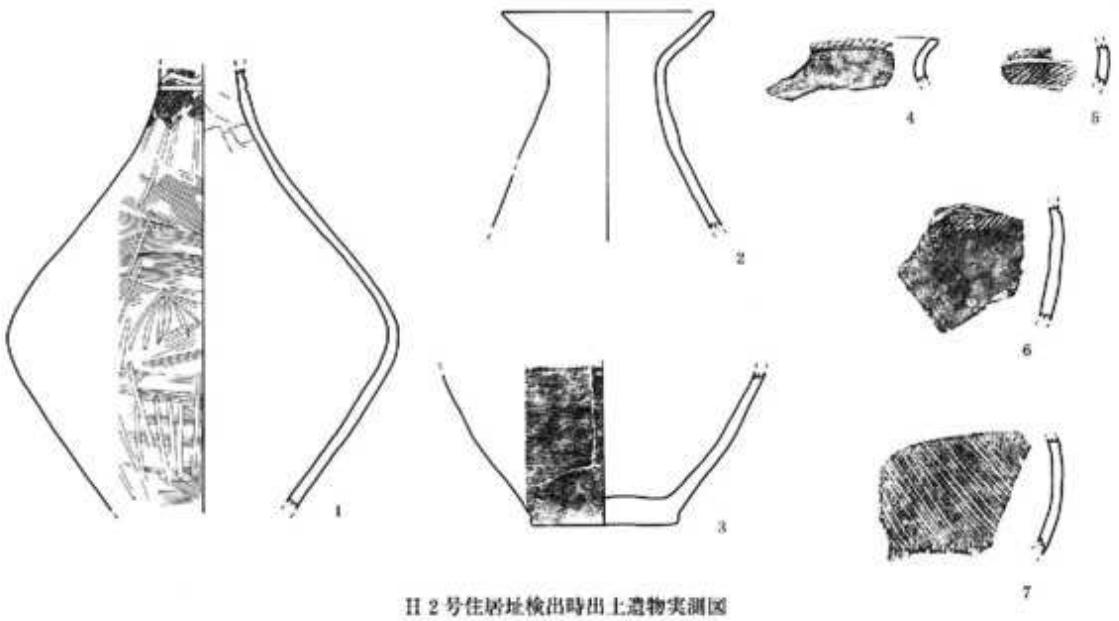
M3、4、5号溝跡

遺構は調査区南の低地帯にあり、M4、5は東西方向に、M3はやや向きを北東から南西方向に向けて走る。規模はM3が幅3m～1.5m、深さ45cm、長さは調査規模で7mを測る。M4は幅40cm、深さ20cm、長さは調査規模で6.2mを測る。M5は幅80cm内外、深さ30cm、長さは調査規模で6.2mを測る。遺物は各遺構とも出土しなかった。低地に走る自然の流路である可能性が考えられる。



M3・4・5号溝跡実測図

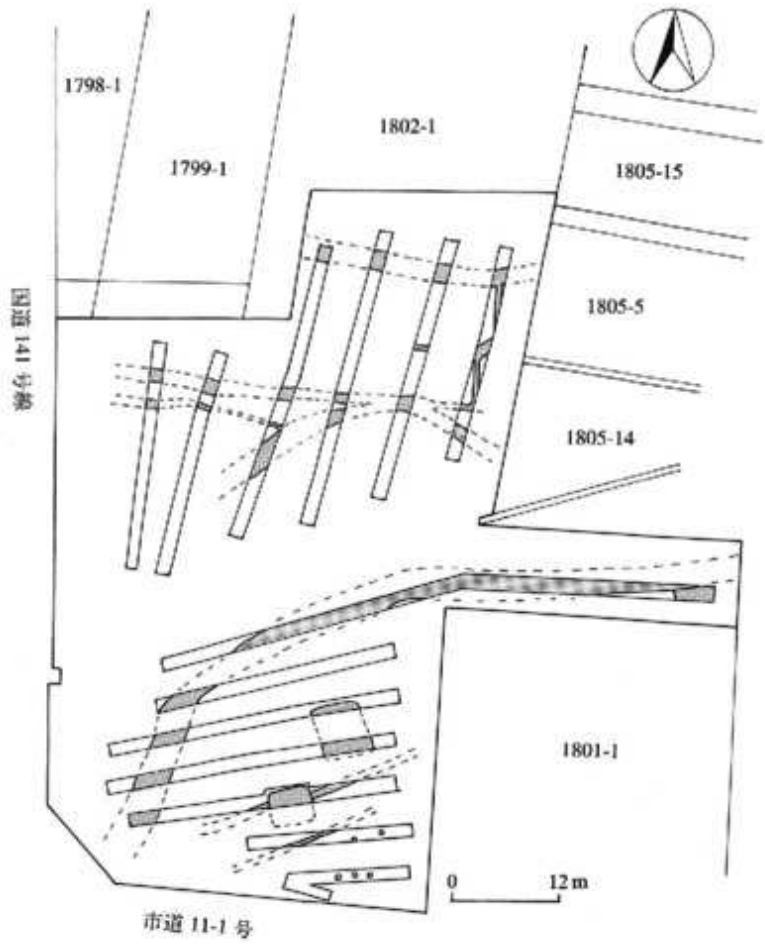
H2号住居址検出時出土遺物



H2号住居址検出時出土遺物実測図

H２号住居址検出時出土遺物観察表

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調 (外面)(内面)
1	弥生式土器	壺	－	－	－	頸部縄文ヘラ描き横線・山形文　胴上半部櫛描き斜線文 ヘラ描き文　胴部下半部ミガキ　内面調整激しい	頸部～胴部40)	良	鈍い黄褐色 黒褐色
2	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描斜線文　内面口縁・頸部横ナデ　3と同一個体の可能性あり	口縁～胴上半部	良	灰黄褐色 黒褐色
3	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描斜線文　底部段状痕跡　内面横ナデ　2と同一の可能性あり	底部～胴下半部	良	黒褐色 灰黄褐色
4	弥生式土器	壺	－	－	－	口唇部縄文	口縁破片	良	黒褐色 褐色
5	弥生式土器	壺	－	－	－	外面縄文　ヘラ描き沈線	胴部破片	良	明黄褐色 鈍い黄橙色
6	弥生式土器	甕	－	－	－	外面縄文　ヘラ描き沈線　横ミガキ	胴部破片	良	黒褐色 褐灰色
7	弥生式土器	甕	－	－	－	外面櫛描斜線文　内面ミガキ	胴部破片	良	褐色 黒褐色



西一本柳遺跡Ⅺ試掘トレンチ配置図（1：750）

西一本柳遺跡XI調査区全景（南東から）

調査区遠景（南から）

検出作業風景

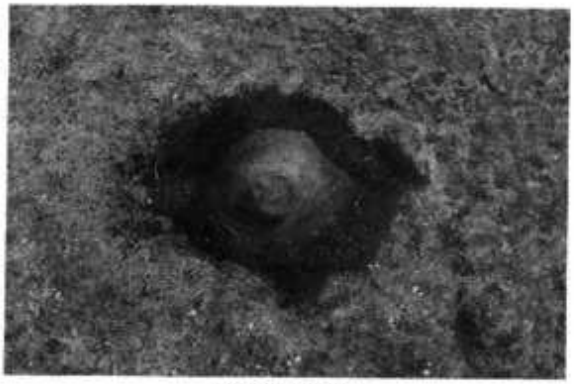
M１号溝跡調査風景

H１号住居址調査風景

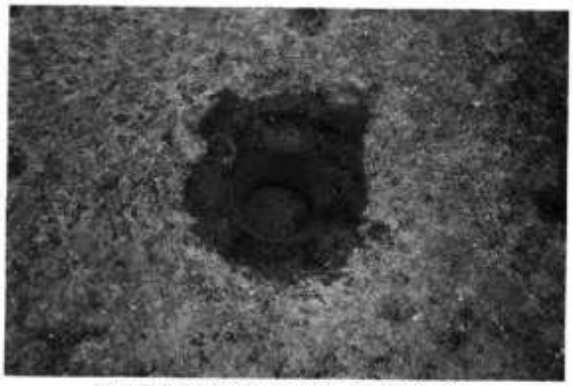
H１号住居址全景１（南西から）

H１号住居址全景２（南西から）

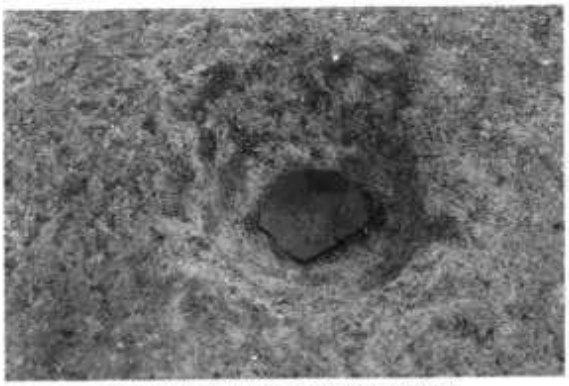
H１号住居址掘方（南西から）



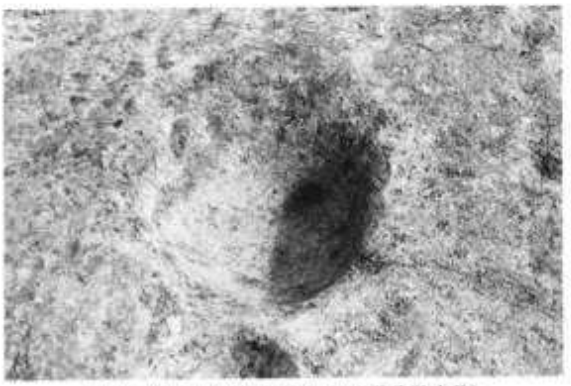
H１号住居址炉跡



H１号住居址炉跡（上部埋設土器除去後）



H１号住居址炉跡（下層土器埋設状況）



H１号住居址炉跡（下層埋設土器片除去後）

H１号住居址遺物出土状況

H１号住居址遺物出土状況

H１号住居址遺物出土状況

M１号溝跡西側調査区（西から）

M１号溝跡中央調査区（西から）

M１号溝跡東側調査区（西から）

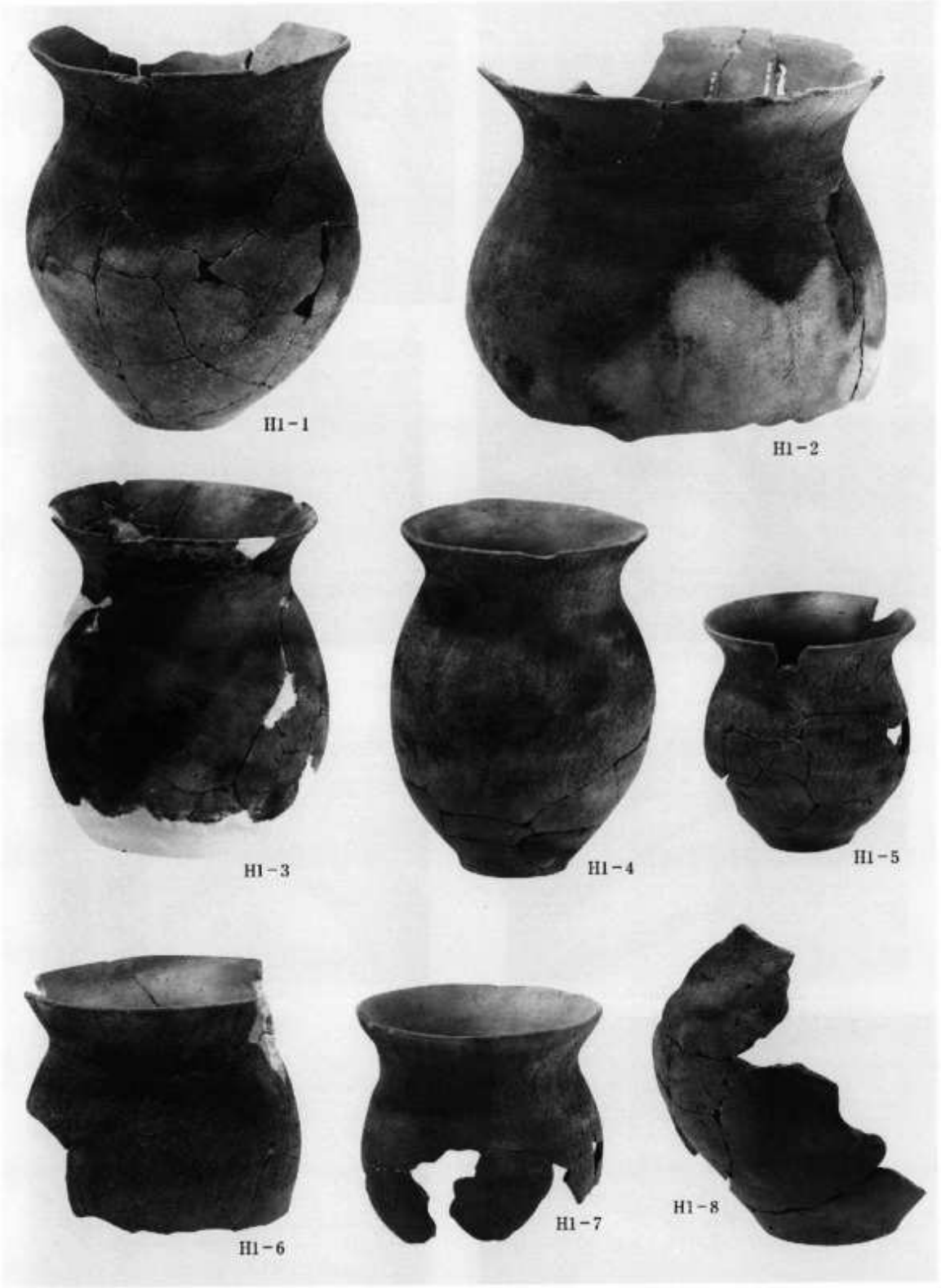
M２号溝跡（西から）

M１・２号溝跡（西から）

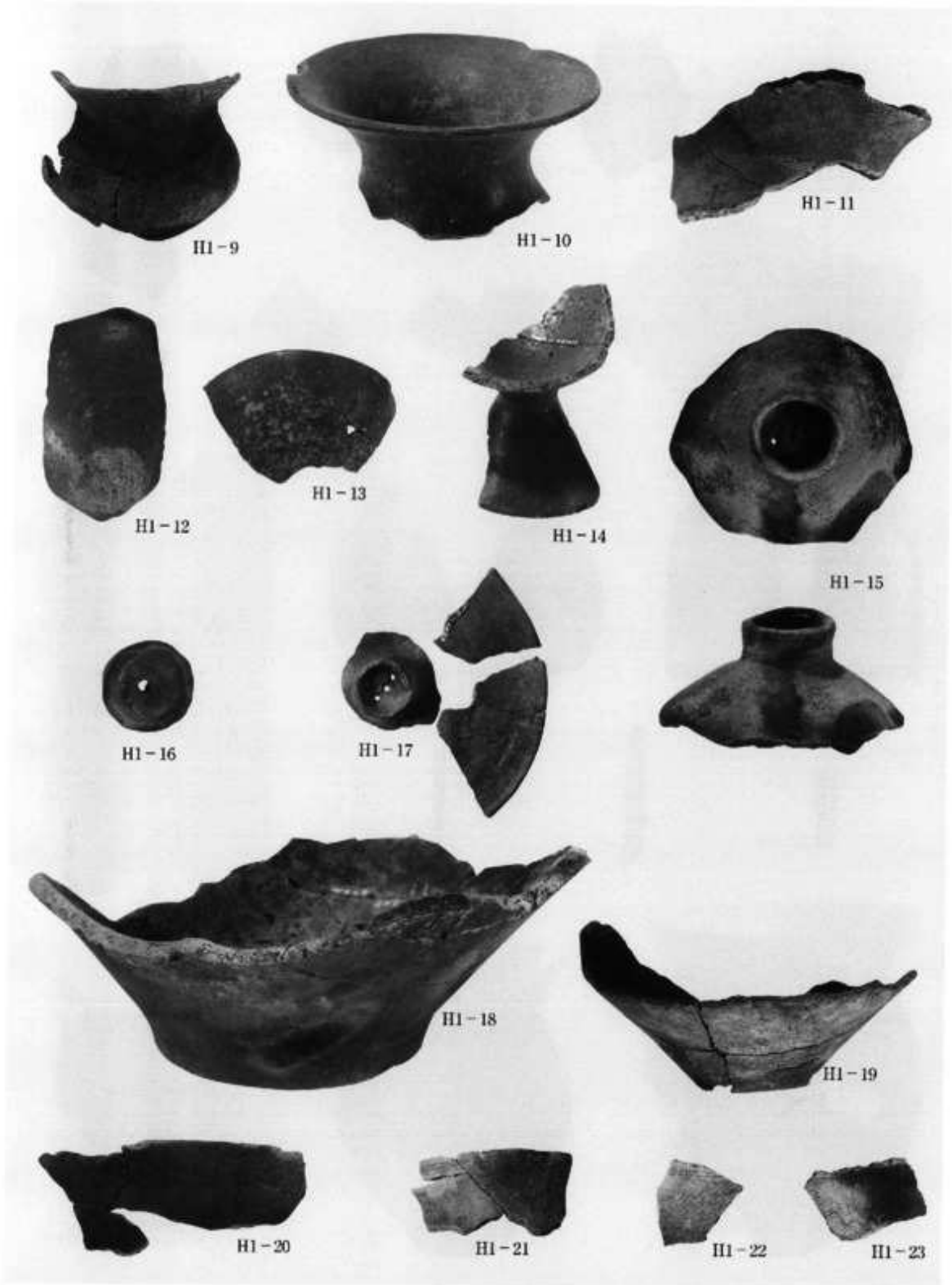
M１・２号溝跡（東から）

M３・４・５号溝跡（北から）

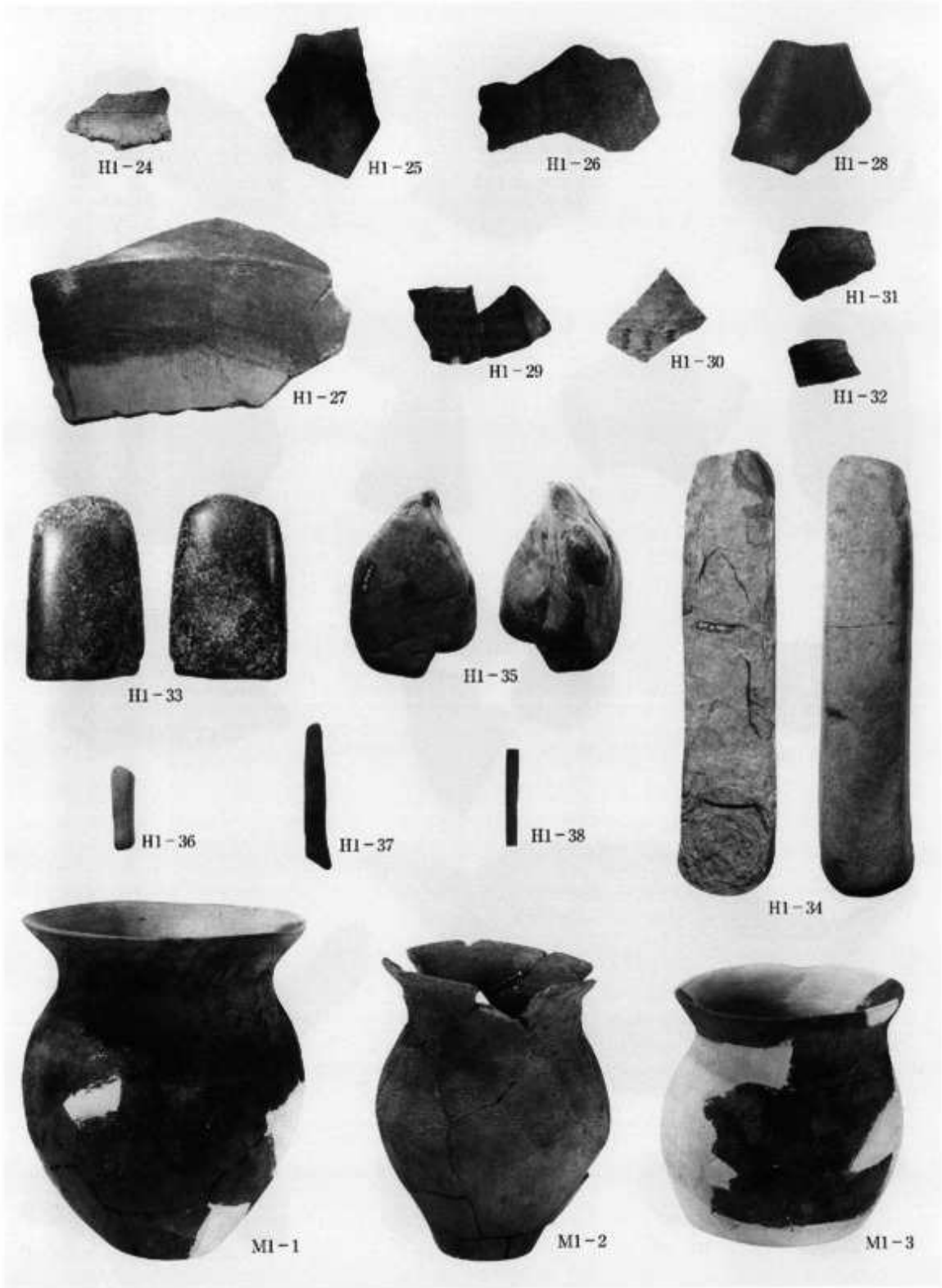
H２号住居址・M６号溝跡検出状況（埋土保存）西から



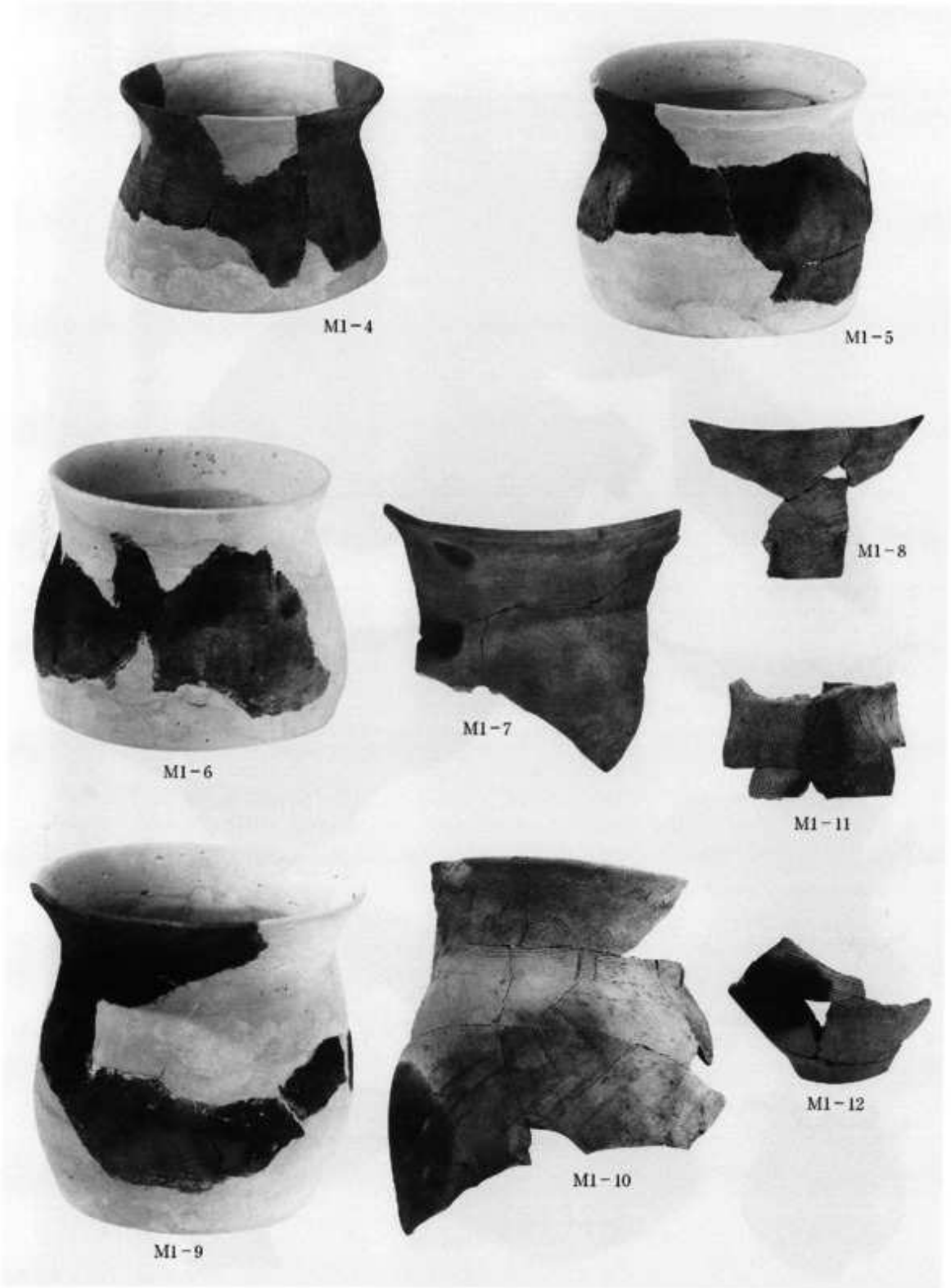
H１号住居址出土遺物(1)



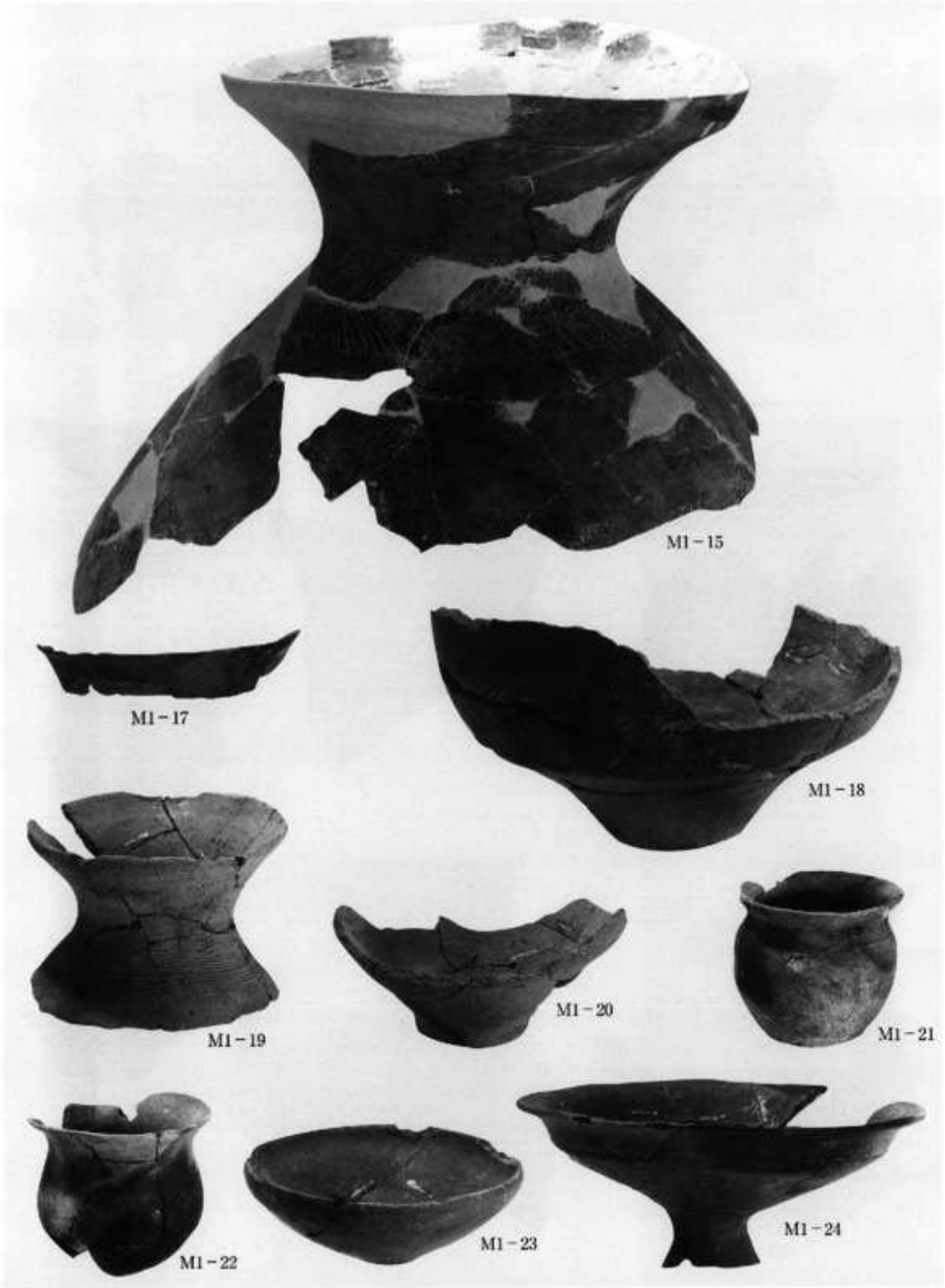
H１号住居址出土遺物(2)



H１号住居址(3)・M1号溝跡出土遺物(1)

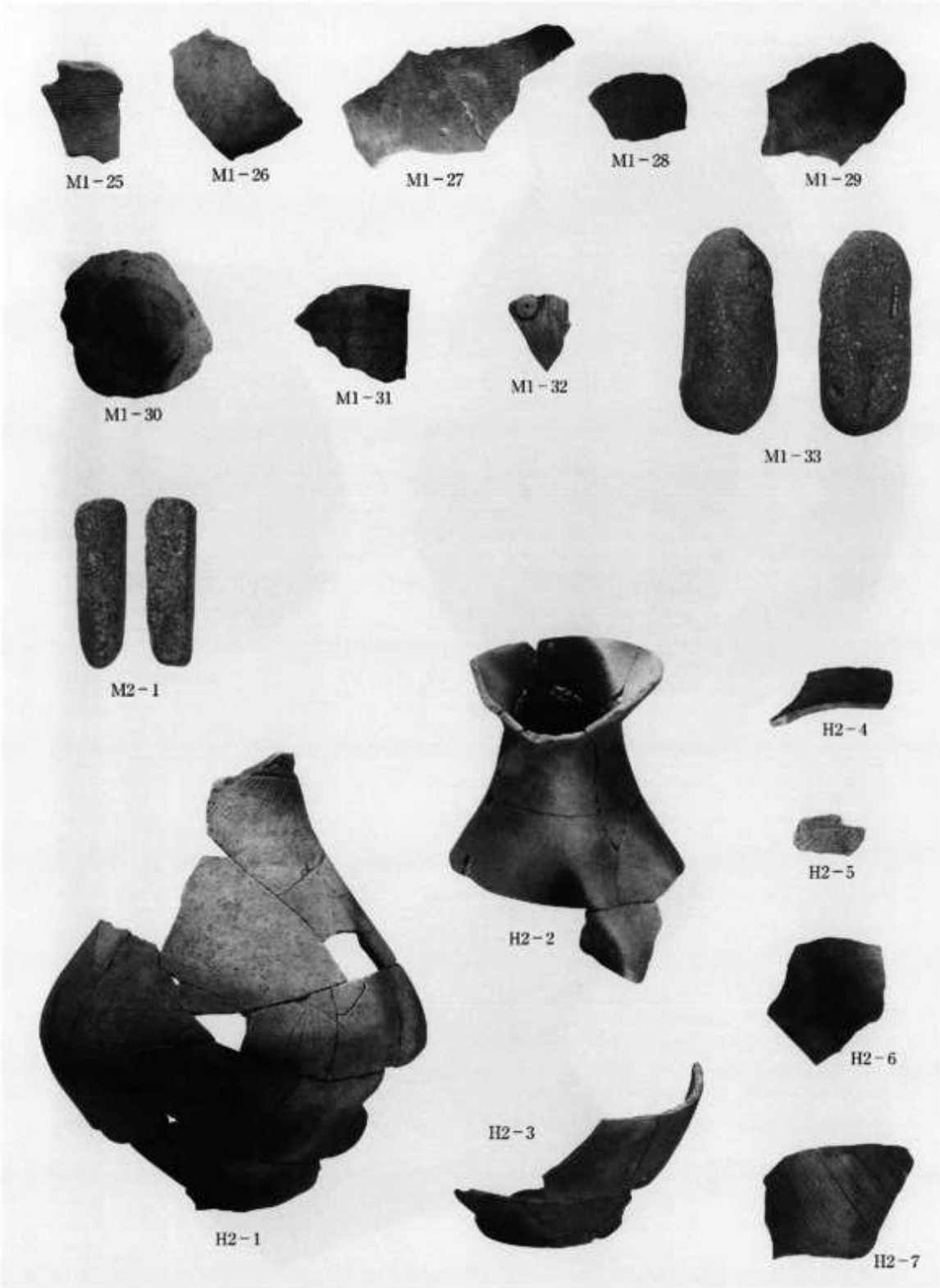


M1号溝跡出土遺物(2)



M1号溝跡出土遺物(3)

M1号溝跡出土遺物(4)



M１号溝跡(5)・M２号溝跡、Ｈ２号住居址検出時出土遺物

東大久保遺跡群
東大久保遺跡

HIGASHI OOKUBO

長野県佐久市大字下平尾
東大久保遺跡発掘調査報告書

大蔵不動産株式会社
長野県佐久市教育委員会

東大久保遺跡群　東大久保遺跡

所在地　佐久市大字下平尾383－1
調査委託者　大蔵不動産株式会社
開発事業名　宅地造成
調査期間　平成16年1月19日～1月21日（現場）
平成16年1月22日～2月10日（整理）
調査面積　40㎡
調査担当者　上原　学

東大久保遺跡群　東大久保遺跡位置図（1：50,000）

例言・凡例

1. 本書は平成15年度に調査を行った長野県佐久市大字下平尾に所在する東大久保遺跡群東大久保遺跡の発掘調査報告書である。
2. 作成・執筆は上原が行った。
3. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
4. 遺跡の略称－SHO
5. 遺構の略称　竪穴住居址－H　　溝跡－M
6. スクリーントーンの表示は以下の通りである。

遺　構　　地山断面　　焼土・炭化物　　床　　下

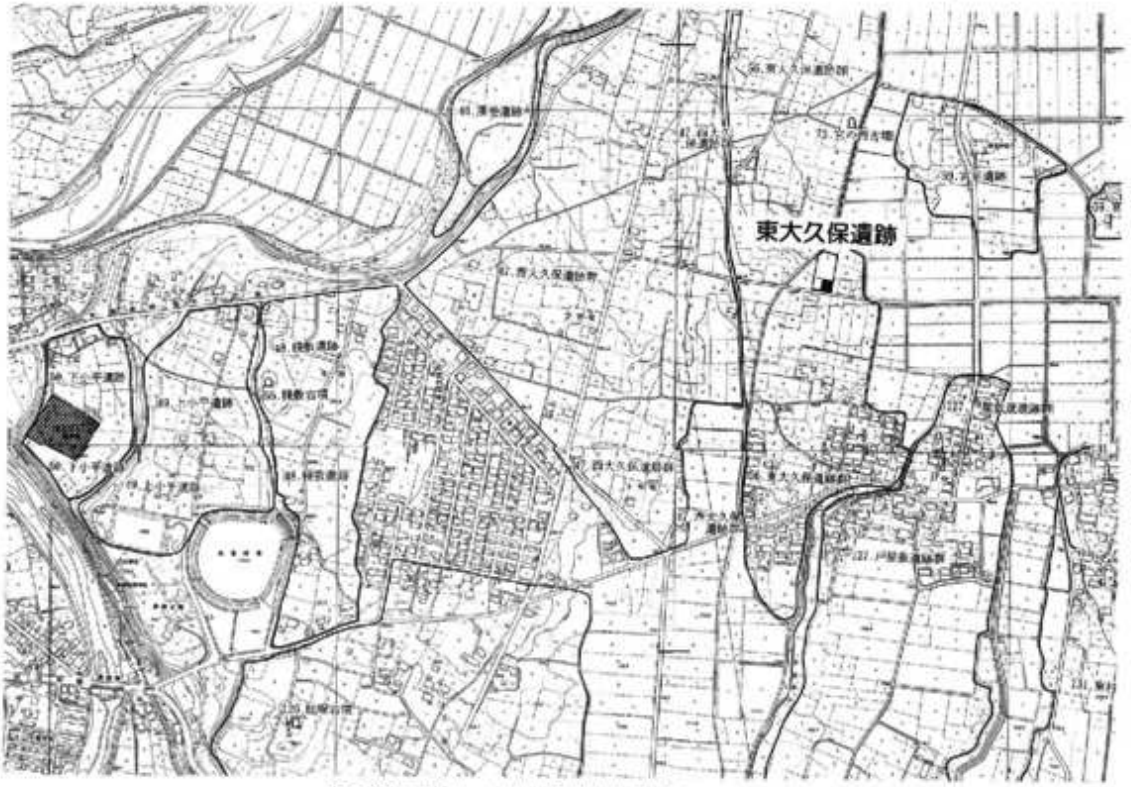
遺　物　　須恵器断面

7. 挿図の縮尺　　遺構　住居址・土壙墓－1/80
遺物　土器－1/4
8. 調査グリッドは公共座標に基づき4×4mに設定。
9. 写真図版中の番号と同一遺構の実測図番号は一致する。
10. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
11. 土説・土器色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

立地と経過

東大久保遺跡群は、佐久市上平尾及び下平尾地積に所在し、南北方向に広く展開する。標高は720～740mを測り、西側には湯川が南流する。調査対象地は遺跡群の南に位置し、標高728mを測る。

今回、大蔵不動産株式会社による宅地造成事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため開発面積1494.6㎡の内250㎡（トレンチ面積）の試掘調査を実施した。その結果、調査区南から北壁にカマドを伴う住居址が確認されたため、開発主体者と協議を行い、遺構の記録保存を目的として佐久市教育委員会が主体となり、発掘調査を行う運びとなった。



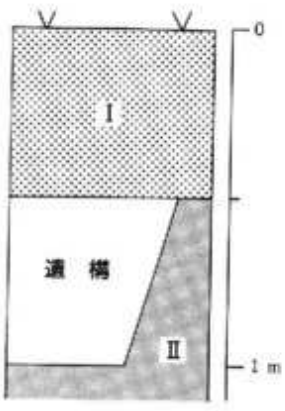
東大久保遺跡群　東大久保遺跡位置図（1：10,000）

遺構と遺物の詳細

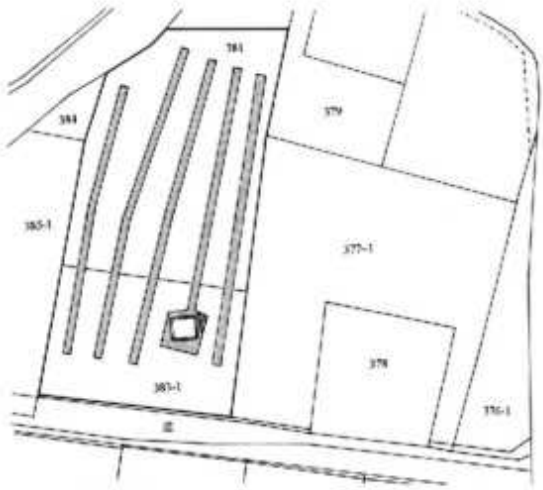
遺　構	竪穴住居址	1軒	平安時代（9世紀前半）
	溝状遺構	1条	不明
遺　物	出土量	テンバコ3分の1箱（58×36×20cm）	
	内　容	土師器（坏・甕・小型甕）	
		須恵器（坏）	

基本層序

今回調査を行った地域の基本層序は上層から耕作土（層厚50cm）、黄褐色土ロームである。遺構の確認は耕作土を除去した黄褐色ローム上上面で行った。

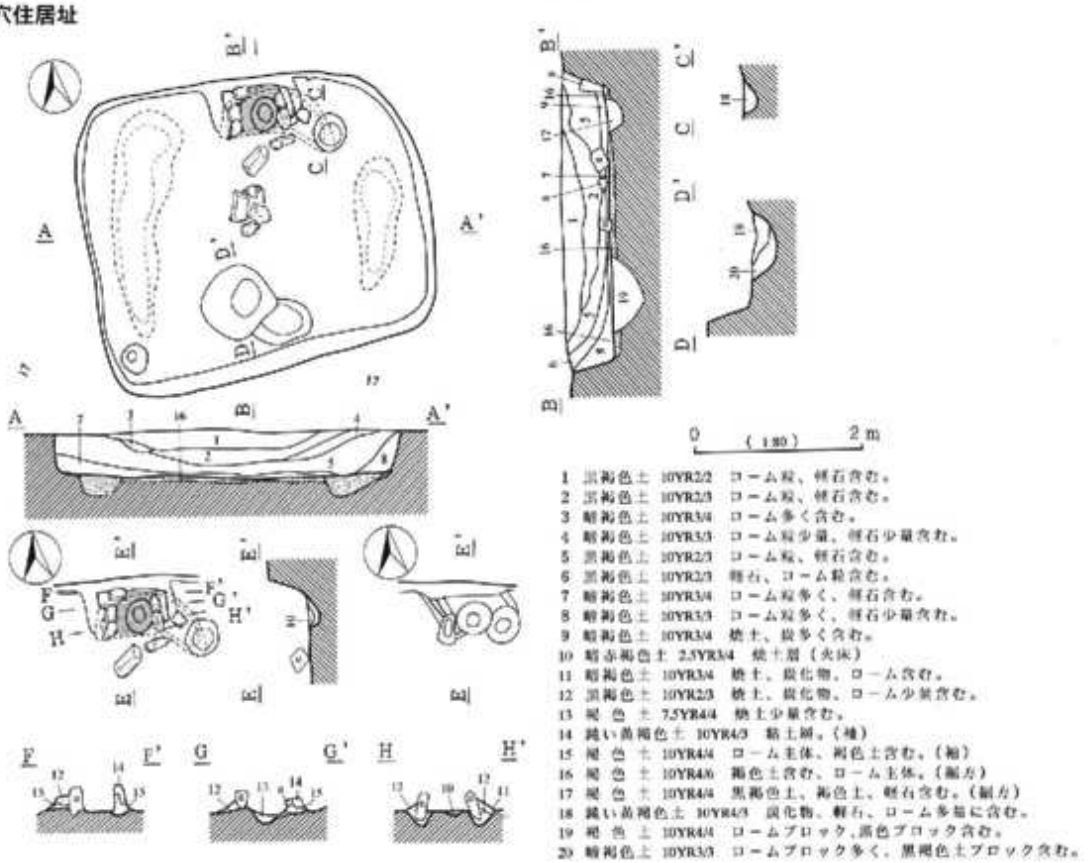


基本層序模式図



調査区・試掘トレンチ配置図（1：1,000）

竪穴住居址



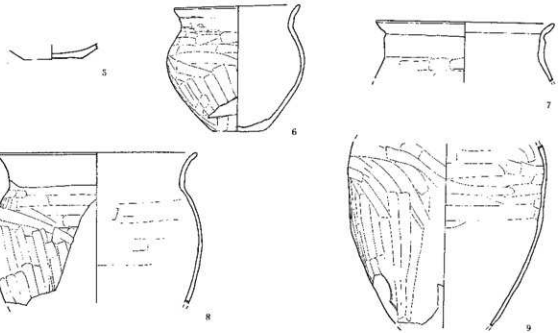
1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒、炭石含む。
2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒、炭石含む。
3 暗褐色土 10YR3/4 ローム多く含む。
4 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、炭石少量含む。
5 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒、炭石含む。
6 黒褐色土 10YR2/3 粗石、ローム粒含む。
7 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多く、炭石含む。
8 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多く、炭石少量含む。
9 暗褐色土 10YR3/4 焼土、炭多く含む。
10 暗赤褐色土 2.5YR3/4 焼土層（火床）
11 暗褐色土 10YR3/4 焼土、炭化物、ローム含む。
12 黒褐色土 10YR2/3 焼土、炭化物、ローム少量含む。
13 褐 色 土 7.5YR4/4 焼土少量含む。
14 鈍い黄褐色土 10YR4/3 粘土層。（竈）
15 褐 色 土 10YR4/4 ローム主体、褐色土含む。（袖）
16 褐 色 土 10YR4/6 褐色土含む、ローム主体。（掘方）
17 褐 色 土 10YR4/4 黒褐色土、褐色土、炭石含む。（掘方）
18 鈍い黄褐色土 10YR4/3 炭化物、炭石、ローム多量に含む。
19 褐 色 土 10YR4/4 ロームブロック、黒色ブロック含む。
20 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック多く、黒褐色土ブロック含む。

竪穴住居址実測図

遺構の規模は東西4.1m、南北3.6m、床面までの深さ55cm内外を測り、平面形態は隅丸方形である。床面は固く平坦で土間状を呈し、ピット2個、土坑2基が認められた。位置的に主柱穴とは考えられない。カマドは北壁のやや東寄りに構築され、粘土を使用した両袖が壁面から住居内に60cmほど張り出し、内壁に石を利用していた。袖に囲まれた火床部には径40cmの範囲で焼土の堆積が認められ周辺から土器が出土した。掘方は、東及び西側の一部は溝状に深く掘り込まれていたが、他の部分は6cm前後と薄い状態であった。

出土遺物は土師器甕・須恵器坏が出土した。本住居址の年代は、［コ］の字状口縁をもつ土師器甕（武蔵甕）、底部回転糸切り後無調整の須恵器坏といった遺物の特徴から9世紀前半と考えられる。

竪穴住居址出土遺物実測図(1)



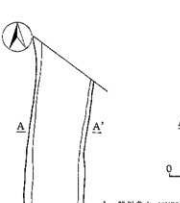
竪穴住居址出土遺物実測図(2)

竪穴住居址出土遺物観察表

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調 (外面/内面)
1	須恵器	杯	9	5.5	2.7	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り	70	良好	褐灰色 褐灰色
2	須恵器	杯	[12.6]	[5.0]	–	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り	底部～口縁破片	良	灰白色 灰白色
3	須恵器	杯	[14.5]	–	–	内外面ロクロナデ	口縁～体部破片	良好	灰白色 褐灰色
4	須恵器	杯	[12.8]	–	–	内外面ロクロナデ	口縁～体部破片	良好	灰黄褐色 灰黄褐色
5	土師器	杯	–	6.2	–	内面黒色処理・磨き　底部回転糸切り	底部破片	良	黒色 褐色
6	土師器	小型甕	12.3	5.4	–	口縁横ナデ　胴上半部横・下半部縦・底部ヘラケズリ、内面ナデ	80	良	明赤褐色 暗褐色
7	土師器	甕	[21.3]	–	–	口縁横ナデ　胴上半部横・下半部縦ヘラケズリ、内面ナデ	口縁～体部破片	良	橙色 橙色
8	土師器	甕	[18.9]	–	–	口縁横ナデ　「コ」の字状口縁　外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁～体部破片	良	赤褐色 明赤褐色
9	土師器	甕	–	–	–	外面上半部斜めヘラケズリ　下半部縦ヘラケズリ　内面ヘラナデ	体部破片	良	灰白色 暗褐色

溝状遺構

遺構は調査区南の竪穴住居址東に位置する。調査規模は幅 1.2m、深さは15cmを測り、おおよそ南北方向にのびると考えられる。底面は非常に固く硬質である。遺物は出土しなかった。本遺構は、底面硬質で、深さが浅いといった状況から道であった可能性もあり得る。



1　暗褐色土　10YR3/3　ローム多くしまりややあり。底面硬質。

溝状遺構実測図

竪穴住居址全景（南から）

カマド全景（南から）

カマド全景（南西から）

カマド火床掘り下げ後（南西から）

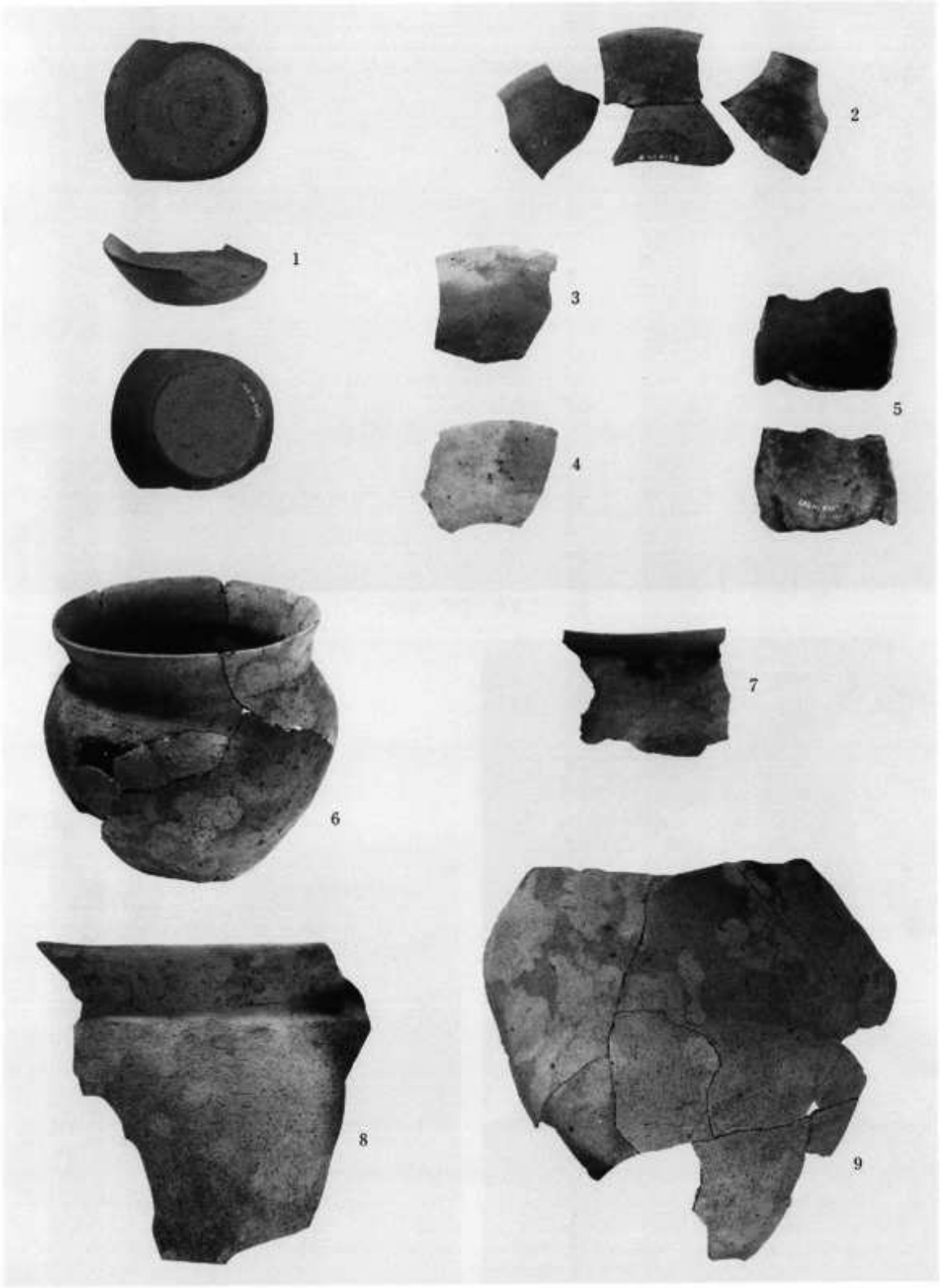
カマド掘方（南から）

竪穴住居址掘方全景（南西から）

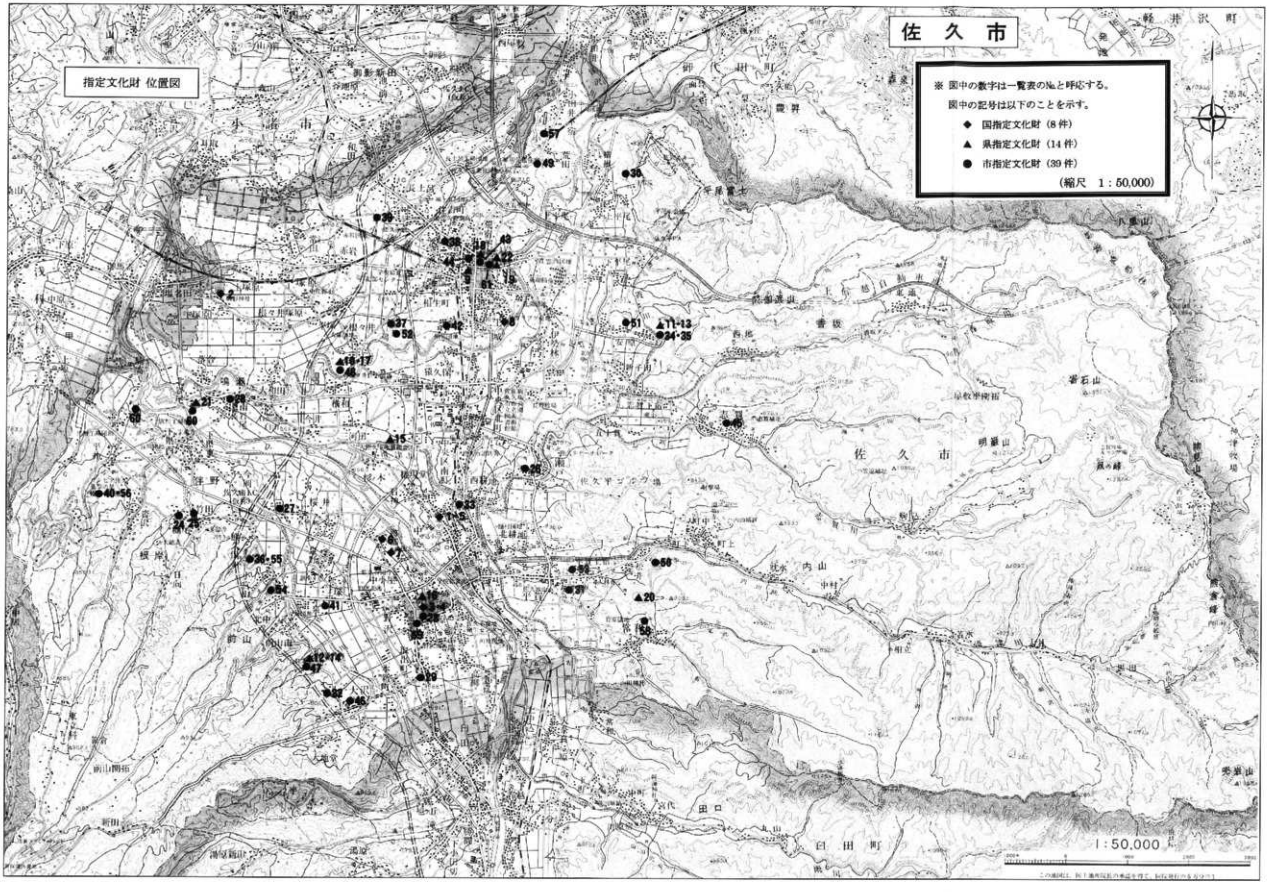
溝状遺構全景（西から）

調査風景（南から）

調査風景（南から）



竪穴住居址出土遺物



佐久市
指定文化財 位置図
※ 図中の数字は一覧表のNo.と呼応する。
図中の記号は以下のことを示す。
◆ 国指定文化財（8件）
▲ 県指定文化財（14件）
● 市指定文化財（39件）
（縮尺 1：50,000）
1：50,000

佐久市文化財
年　報　13
2005年３月

編集・発行　長野県佐久市教育委員会
長野県佐久市大字中込3056番地
文化財課
長野県佐久市大字志賀3953番地
電話　0267－68－7321
印刷所　株式会社 ダンバラ印刷